

2024年度

授 業 要 綱

学校法人 福岡医療学院

福岡医療専門学校

看護科 第14期生

教育の概要

全学年のスケジュール

	1 年生	2 年生	3 年生
4 月	入学式 教育ガイダンス 健康診断 スポーツ大会	教育ガイダンス 健康診断 スポーツ大会	教育ガイダンス 健康診断 スポーツ大会
5 月			看護学実習 (地域・在宅看護論実習Ⅱ) (成人看護学実習Ⅱ) (老年看護学実習) (小児看護学実習) (母性看護学実習) (精神看護学実習Ⅰ) (精神看護学実習Ⅱ) (統合実習)
6 月		基礎看護学実習Ⅱ	
7 月			
8 月	前期単位認定試験 決意式 地域・在宅看護論実習Ⅰ 夏期休暇	小児看護学実習 (保育園) 夏季休暇	
9 月			
10 月	看護技術試験		夏期休暇
11 月			
12 月	基礎看護学実習Ⅰ 冬期休暇	冬期休暇	
1 月		看護学実習 (4 週間) (成人看護実習Ⅰ) (精神看護学実習Ⅰ)	
2 月	後期単位認定試験		看護師国家試験 卒業技術試験
3 月	春期休暇	春期休暇	卒業式 実務研修

看護科 教育課程

令和6年度					1年次		2年次		3年次	
分野	教育内容	科目名	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
基礎分野	科学的思考の 基盤人間と生 活・社会の理 解	生命科学	2	30	2	30				
		統計学	1	30			1	30		
		情報科学Ⅰ	1	15	1	15				
		情報科学Ⅱ	1	15			1	15		
		基礎ゼミナール	2	30	2	30				
		倫理学	1	15	1	15				
		心理学	1	15	1	15				
		外国語Ⅰ	1	15	1	15				
		外国語Ⅱ	1	15			1	15		
		健康行動学	1	30	1	30				
		教育学	1	15	1	15				
		人間関係論	1	15	1	15				
		小 計	14	240	11	180	3	60		
専門基礎分野	人体の構造と 機能疾病の成 り立ちと回復 の促進	解剖生理学Ⅰ	1	30	1	30				
		解剖生理学Ⅱ	1	30	1	30				
		解剖生理学Ⅲ	1	30	1	30				
		解剖生理学Ⅳ	1	30	1	30				
		解剖生理学Ⅴ	1	30					1	30
		生化学	1	15	1	15				
		栄養学	1	15	1	15				
		病理学	1	15	1	15				
		病態生理学Ⅰ	1	30	1	30				
		病態生理学Ⅱ	1	30	1	30				
		病態生理学Ⅲ	1	30	1	30				
		病態生理学Ⅳ	1	30	1	30				
		放射線医学	1	15			1	15		
		薬理学	2	30	2	30				
		臨床疾病論	1	15					1	15
		小 計	16	375	13	315	1	15	2	45
	健康支援と社 会保障制度	公衆衛生学	1	30	1	30				
		医療社会学	1	15			1	15		
		社会福祉	1	30			1	30		
		看護関係法規	1	15			1	15		
		総合医療論	1	15	1	15				
		リハビリテーション論	1	30			1	30		
		小 計	6	135	2	45	4	90		
専門分野	基礎看護学	基礎看護学Ⅰ	1	30	1	30				
		基礎看護学Ⅱ	1	15	1	15				
		基礎看護学Ⅲ※	1	30	1	30				
		基礎看護学Ⅳ	1	30	1	30				
		基礎看護学Ⅴ※	1	30	1	30				
		基礎看護学Ⅵ※	1	30	1	30				
		基礎看護学Ⅶ	1	30	1	30				
		基礎看護学Ⅷ	1	30	1	30				
		基礎看護学Ⅸ※	1	30	1	30				
		基礎看護学Ⅹ※	1	30	1	30				
		基礎看護学Ⅺ	1	30	1	30				
		小 計	11	315	11	315				

看護科 教育課程

令和6年度					1年次		2年次		3年次	
分野	教育内容	科目名	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
専門分野	地域・在宅看護論	地域・在宅看護論Ⅰ	1	15	1	15				
		地域・在宅看護論Ⅱ	2	30			2	30		
		地域・在宅看護論Ⅲ	1	30			1	30		
		地域・在宅看護論Ⅳ	1	30			1	30		
		小計	5	105	1	15	4	90		
	成人看護学	成人看護学Ⅰ※	1	15	1	15				
		成人看護学Ⅱ	1	30			1	30		
		成人看護学Ⅲ	1	30			1	30		
		成人看護学Ⅳ※	1	30			1	30		
		成人看護学Ⅴ※	1	30			1	30		
		小計	5	135	1	15	4	120		
	老年看護学	老年看護学Ⅰ※	1	15	1	15				
		老年看護学Ⅱ	1	15			1	15		
		老年看護学Ⅲ	1	30			1	30		
		小計	3	60	1	15	2	45		
	小児看護学	小児看護学Ⅰ	1	15	1	15				
		小児看護学Ⅱ	1	15			1	15		
		小児看護学Ⅲ	1	30			1	30		
		小計	3	60	1	15	2	45		
	母性看護学	母性看護学Ⅰ	1	15			1	15		
		母性看護学Ⅱ	1	15			1	15		
		母性看護学Ⅲ	1	30			1	30		
		小計	3	60			3	60		
	精神看護学	精神看護学Ⅰ※	1	15	1	15				
		精神看護学Ⅱ	1	15			1	15		
		精神看護学Ⅲ	1	30			1	30		
		小計	3	60	1	15	2	45		
	看護の統合と実践	看護の統合と実践Ⅰ	1	30				24	1	6
		看護の統合と実践Ⅱ	1	30			1	30		
		看護の統合と実践Ⅲ	1	30				20	1	10
		看護の統合と実践Ⅳ	1	30				12	1	18
		看護の統合と実践Ⅴ	1	30					1	30
		小計	5	150			1	84	4	66
	生活環境と健康状態に応じた看護	生活環境と健康状態に応じた看護Ⅰ	1	30	1	30				
		生活環境と健康状態に応じた看護Ⅱ	1	30	1	30				
		生活環境と健康状態に応じた看護Ⅲ※	1	30			1	30		
		生活環境と健康状態に応じた看護Ⅳ	1	30			1	30		
		生活環境と健康状態に応じた看護Ⅴ	1	30			1	30		
		生活環境と健康状態に応じた看護Ⅵ	1	30			1	30		
		小計	6	180	1	60	5	120		
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	1	45				
		基礎看護学実習Ⅱ	2	90			2	90		
		地域・在宅看護論実習Ⅰ	1	45	1	45				
地域・在宅看護論実習Ⅱ		2	90					2	90	
成人看護学実習Ⅰ		3	135			3	135			
成人看護学実習Ⅱ		3	135					3	135	
老年看護学実習		2	90					2	90	
小児看護学実習		2	90					2	90	
母性看護学実習		2	60					2	60	
精神看護学実習Ⅰ		1	45			1	45			
精神看護学実習Ⅱ		2	90					2	90	
統合実習		2	90					2	90	
小計		23	1005	2	90	6	270	15	645	
合 計			103	2880	45	1080	37	1044	21	756

教 育 理 念

看護は人間に関わる科学と技術の分野の一つであり、実践面においては人と人との相互作用を基盤とする行為である。すなわち、看護という行為は実践する看護者の人間性によって、その質のレベルが決まってくるという特質がある。したがって、本校の教育理念の中心は、生命に対する畏敬の念と責任感に富んだ個性豊かな人間形成である。

個性豊かな人間形成とは、他者に対する誠実で、温かく思いやりのある態度を養い、自己を能動的に啓発するとともに、学問的探究心と洞察力を高めることである。

この上に立って、看護の領域における専門知識の系統的理解と修得を進め、様々な場で生活する対象者および多様な場面に対応できる柔軟な応用力、実践力を養い、社会的役割を自覚した主体性のある看護の専門職業人を養成することである。

教 育 目 的

多職種と連携しながら、さまざまな対象に対して看護を創造できる看護師を養成する。

教 育 目 標

1. 生命に対する畏敬の念を持ち、人間としてよりよく生きることを認識できる豊かな人間性と倫理観を養う。
2. 看護の対象である人間を、身体的・精神的・社会的・文化的に統合された存在として理解できる能力を養う。
3. 環境との相互作用の視点からの健康の概念を理解し、あらゆる健康水準に応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。
4. 様々な場で生活する多様な健康課題を有する対象に対し、科学的根拠に基づき問題解決ができる基礎的能力を養う。
5. 保健・医療・福祉制度を総合的に理解し、多職種と協働できる能力を養う。
6. 社会的役割を自覚し、専門職業人として自己研鑽できる能力を養う。

卒業時の到達目標

1. 思いやる素直な心を持って他者の言葉を傾聴し、対象をひとりの人間としてかかわることができる。
2. 健康の保持増進、疾病の予防および健康の回復にかかわる知識と技術を身につけている。
3. 臨床判断能力を身につけ、多職種と連携しながら、対象に応じた看護が実践できる。
4. 自己の課題を明確にし、専門職業人として研さんし続ける能力を身につけている。

看護の主要概念に関する考え方

「人間」

1. 人間は過去の経験を活かして未来を予想し、個体や種にとって身体的・精神的・社会的・文化的に、より適応した環境を創り出す生物である。
2. 人間は感情、理性、思考能力を持ち、自己の内面に起こる様々な矛盾、対立する側面に対して自らの責任により意思決定し、自己実現へ向かう存在である。
3. 人間は真の自分らしさを常に意識し、社会生活を営む上で個性を尊重し、互いに譲り合ってコミュニケーションを図ることを認識している。
4. 人間は、家族関係や社会生活を通して、成長の段階に応じた学習を可能とする教育システムを持っており、科学、文化を発展させ、社会制度を整備することができる。
5. 人間は民族を形成し、互いに助け合い調和を図ることにより人類の発展や存続を図る一方、争いや戦いにより問題を処理する傾向もある。
6. 人間は生活を営む生命体である。
7. 人間は基本的人権をもち、尊厳をもつ存在である。

「環境」

1. 環境とは、人間それぞれが持つ内部環境とそれを取り巻く外部環境全てを意味する。その外部環境には、自然環境と社会や文化の影響を受ける人為的環境がある。
2. 環境は人間を取り巻く全てであり、人間も環境の一部である。その人間自身は環境の要素として相互に影響しあっている。
3. 環境は人間と相互作用しあって、人間の健康生活に影響を与える。

「健康」

1. 健康は個人的なものであり、調和のとれた良好な状態をいう。
2. 健康には、さまざまな水準があり、常に流動的に変化する。
3. 健康とは環境に適応し、身体的・精神的・社会的機能を発揮し、その人らしく生き生きと暮らしている状態である。

「看護」

1. 看護は人間に関わる科学と技術の分野の一つである。その目的は人生の過程の各段階における環境および諸条件の中で、人々の最大限の健康の可能性を達成できるように援助することである。
2. 看護は専門職業であり看護技術を媒介として看護の目標達成に向けた対象との人間的な相互行為の過程である。
3. 看護は科学的な根拠に基づいた実践により、対象の生活を整え、セルフケアができるように援助することである。
4. 看護は対象の健康の課題を明確にし、その課題を解決するために働きかけることである。
5. 看護は専門職としての独自の機能を有し、保健医療福祉チームと協働している。
6. 看護は社会の変化と人々のニーズに対応し、変化していくものである。よって、看護者には常に研鑽が求められる。

「生活」

1. 人間存在そのものであり、人間が生命を維持し生きていくことである。
2. 環境との関わりを通してよりよく生きるという目的に向かって展開される個人の主体的営みである。
3. 人間にとって存在しうるだけでなく、生活を基盤として時間という流れの中で成長し暮らしていく過程でもある。
4. 生活には生命・生存、生活習慣・社会的活動・生計・暮らしむき、価値観・信条・生き方の側面がある。

教育課程の構造図

専門分野(看護の統合と実践) 看護管理, 医療安全, 災害看護・国際看護, 看護研究, キャリア開発, 統合実習
専門分野(各領域) 地域・在宅看護論, 成人看護学, 老年看護学, 小児看護学, 母性看護学, 精神看護学 地域・在宅看護論実習, 成人看護学実習, 老年看護学実習, 小児看護学実習, 母性看護学実習, 精神看護学実習,
専門分野 基礎看護学, 基礎看護学実習
専門基礎分野 解剖生理学, 生化学, 栄養学, 病理学, 病態生理学, 放射線医学, 薬理学, 臨床疾病論 公衆衛生学, 社会福祉, 看護関係法規, 総合医療論, リハビリテーション論
基礎分野 生命科学, 統計学, 情報科学, 基礎ゼミナール, 倫理学, 心理学, 外国語, 健康行動科学, 教育学, 人間関係論

図1:教育課程の構造図

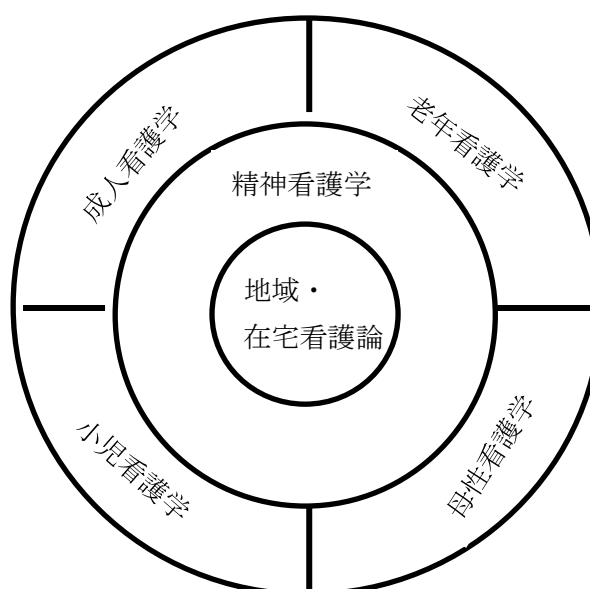


図2:専門分野(各領域)の断面図

基礎分野はすべての教育内容の土台となるため、一番下に位置づけ、専門基礎分野は基礎分野の上に構成される位置とした(図1)。それは基礎分野での考え方や知識が必要であると考えたからである。専門分野は基礎分野・専門基礎分野の知識が必要となるため、その上に構成される位置とし、基礎看護学、領域別、看護の統合と実践の3層とした。領域別では、精神看護学とその他の領域には繋がりがあると捉え、精神看護学を成人看護学・老年看護学・小児看護学・母性看護学の中心とした。さらに地域で暮らすあらゆるライフステージにある人々の生活、人と人とのつながりおよび環境を知り、暮らしを中心と捉える地域・在宅看護論を最も中心に位置づけた。(図2)。看護の統合と実践の層は、これまでの過程で獲得した知識・技術の経験を統合する必要がある、すべての課程の上に構成される位置とした。

カリキュラムデザイン(図3)では、3年間の単位取得の過程を示した。

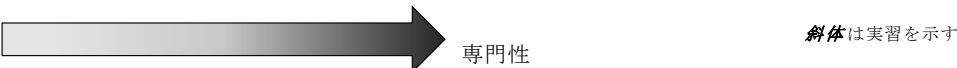


図3 カリキュラムデザイン

基 礎 分 野

14 単位

<ねらい>

- 科学的思考を高め，自由で自主的な判断と行動ができる能力を修得する。
- 国際化，情報化社会に対応しうる能力を修得する。
- 社会の構造と機能を基盤とし，人間と社会の関わりを修得する。
- ヒューマニティに富み，人間への幅広い理解ができる感性を修得する。
- 人生の意義，生命の質を模索し自己の確立の手立てとする。
- 生命の尊厳，畏敬の念を基本的態度とした人間尊重の本質を理解する。
- より良い人間関係を成立するためのコミュニケーション能力を修得する。

<構 成>

教育内容	科 目	単 位	時間数
科学的思考の基盤	生命科学	2	30
	統計学	1	30
	情報科学Ⅰ	1	15
	情報科学Ⅱ	1	15
	基礎ゼミナール	2	30
人間と生活・ 社会の理解	倫理学	1	15
	心理学	1	15
	外国語Ⅰ	1	15
	外国語Ⅱ	1	15
	健康行動科学	1	30
	教育学	1	15
	人間関係論	1	15
合 計		14	270

科目名	生命科学					看護科			
学年	1 年	学期	前期	分野	基礎	時間数	30 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	大神 啓裕				科目 担当者	大神 啓裕			
科目 概要	代謝をはじめとする生命活動の多くは、化学反応によりもたらされる。この化学反応を薬剤などで制御すれば、生命活動の一部をコントロールすることができる。物質の組成・性質・物質間の概念について学び、様々な化学的变化を理解し、生命活動について新たな視点を修得し、科学的に思考できる能力を修得する。								
到達 目標	1. 専門基礎分野を学ぶために必要な基礎的知識を理解できる。 2. 看護を学ぶ上で必要となる基礎的知識を理解できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	化学の単位と元素の周期表			量と単位，元素の周期表			講義	大神	
2	原子の構造と化学結合			原子の構造，化学結合			講義	大神	
3	物質の三態			物質の三態，状態の変化			講義	大神	
4	気体・液体・溶液の性質			圧力と大気圧，溶液の濃度			講義	大神	
5	化学反応			化学反応の基本的法則と種類			講義	大神	
6	化学平衡			化学平衡と平衡定数，酸と塩基			講義	大神	
7	高分子化学			高分子化合物とは，糖質（炭水化物），アミノ酸，ペプチド，タンパク質			講義	大神	
8	生命体のつくりと はたらき(1)			細胞の構造			講義	大神	
9	生命体のつくりと はたらき(1)			細胞の化学成分			講義	大神	
10	生命体のつくりと はたらき(1)			細胞膜の輸送			講義	大神	
11	遺伝情報の伝達と 発現のしくみ			DNA，遺伝情報の伝達，タンパク質の合成			講義	大神	
12	細胞の増殖とからだの なりたち(1)			細胞分裂，細胞周期			講義	大神	
13	細胞の増殖とからだの なりたち(2)			細胞の分化とからだのなりたち			講義	大神	
14	生体維持のエネルギー(1)			生体内の化学反応			講義	大神	
15	生体維持のエネルギー(2)			同化作用，異化作用			講義	大神	
評価方法									
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	合計	
評価割合(%)		80	20	-	-	-	-	100	
教科書	高畑雅一 他 系統看護学講座 基礎分野 生物 第10版 医学書院 ￥2,400+税 奈良 雅之 系統看護学講座 基礎分野 化学 第7版 医学書院 ￥2,400+税								
教材・参考図書		適宜紹介する。							
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。							
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いので，理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。								

科目名	統計学					看護科			
学年	2 年	学期	前期	分野	基礎	時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	弟子丸 正伸				科目 担当者	弟子丸 正伸			
科目 概要	社会において活用されている統計について学び、身の回りの統計学の活用法を知り、そのデータを読み取る基礎的能力を修得する。								
到達 目標	1. 統計学的視点を持ち、看護研究時に統計学的手法を理解できる。 2. 表計算ソフトを用いて、統計学的計算法ができる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	統計学とは			統計学とは、変数の種類、母集団の標本			講義	弟子丸	
2	記述統計(1)			図やグラフを画く			演習	弟子丸	
3	記述統計(2)			代表値、散布度、歪度と尖度、変動係数			演習	弟子丸	
4	Excel の使い方(1)			操作方法、コピーの仕方、表示係数の変え方			演習	弟子丸	
5	Excel の使い方(2)			合計を計算する、平均の求め方、分散の求め方			演習	弟子丸	
6	確率と分布(1)			確率とは何か、期待値			演習	弟子丸	
7	確率と分布(2)			独立な現象とは、条件付き確率、確率分布			演習	弟子丸	
8	正規分布とt分布を使った推定と検定(1)			推定、標本平均の確率分布、母平均の区間推定、信頼度と有意水準、正規分布表			演習	弟子丸	
9	正規分布とt分布を使った推定と検定(2)			t 分布、t 分布を使った母平均の推定検定、t 分布を使った検定			演習	弟子丸	
10	分散に関する推定と検定(1)			χ^2 分布、母分散の推定			演習	弟子丸	
11	分散に関する推定と検定(2)			2 つの分散の差の検定			演習	弟子丸	
12	相関			相関係数、相関係数の有意性の検定			演習	弟子丸	
13	回帰			関係を直線で表す、回帰直線の存在範囲			演習	弟子丸	
14	質的データの検定			2 項検定、 χ^2 検定			演習	弟子丸	
15	質的データの検定			フィッシャーの直接法、適合度の検定			演習	弟子丸	
評価方法									
評価指標	定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	60	20	20	-	-	-	-	100	
教科書	高木晴良 系統看護学講座 基礎分野 統計学 第 7 版 医学書院 ￥2,200＋税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	木曜日午後								
履修上の 注意点	演習を多く行うため、積極的に参加し、必要な知識を身に付けること。								

科目名	情報科学 I					看護科			
学年	1 年	学期	前期	分野	基礎	時間数	15 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	江頭 雄校				担当 教員	江頭 雄校			
科目 概要	現代に必要な情報科学の基本を理解し、情報の適切な取り扱いができるための基礎的能力を修得する。また、コンピュータとネットワーク、インターネットの基本的な仕組み、ネットワークセキュリティ等、情報の科学的理解を修得する。さらに、安全にインターネットを活用する能力を修得する。								
到達 目標	1. 情報科学の基礎理論を学び、人間と情報社会との関係を理解できる。 2. 情報科学と看護との関連について理解できる。 3. 情報収集・蓄積・分析能力を身につけ、情報整理と活用の基礎が理解でき、情報倫理について考えることができる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	情報の定義と特徴(1)			情報とは、情報の特徴			講義	江頭	
2	情報の定義と特徴(2)			情報の認知と意思決定、 情報伝達とコミュニケーション			講義	江頭	
3	情報化社会			情報化社会で求められること			講義	江頭	
4	保健医療と情報			医療における情報、 エビデンスに基づいた保健医療、 ヘルスプロモーションと情報			講義	江頭	
5	医療における情報システム			医療における情報の記録			講義	江頭	
6	情報と倫理			情報倫理、医療倫理			講義	江頭	
7	患者の権利と情報			患者の意思決定と情報、情報の開示			講義	江頭	
8	個人情報の保護			医療における個人情報、情報利用			講義	江頭	
評価方法									
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	合計	
評価割合 (%)		100	-	-	-	-	-	100	
教科書	中山和弘他 系統看護学講座 別巻 看護情報学 第3版 医学書院 ¥2,500＋税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	講義時間だけでは専門的な手技を取得できない場合もあるので、必要に応じて各自で演習を行うこと。								

科目名	情報科学Ⅱ					看護科			
学年	2 年	学期	前期	分野	基礎	時間数	15 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	江頭 雄校				担当 教員	江頭 雄校			
科目 概要	情報の分析・解釈ができ、科学的な根拠を持って、情報の持つ意義や意味を思考できる能力を養う。さらに、倫理観に基づいて情報管理ができる能力を修得する。								
到達 目標	1. 情報処理するためのパソコン操作能力を身につける 2. 情報科学の基礎理論を学び、人間と情報社会との関係を理解できる。 3. 情報科学と看護との関連について理解できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	医療と情報科学			情報技術とコンピュータ 医療と情報システム 病院情報システム パソコンの基本操作			講義 演習	江頭	
2	看護と情報科学			看護情報学の基礎 看護実践における情報流通 表計算の概要			講義 演習	江頭	
3	情報科学各論(1)			看護と情報科学基礎教育 看護研究と情報システム 統計ソフトの演習(1)			講義 演習	江頭	
4	情報科学各論(1)			統計ソフトの演習(2)			演習	江頭	
5	情報科学各論(2)			プレゼンテーションの演習(1)			演習	江頭	
6	情報科学各論(2)			プレゼンテーションの演習(2)			演習	江頭	
7	情報科学各論(3)			情報検索の演習(1)			演習	江頭	
8	情報科学各論(3)			情報検索の演習(2)			演習	江頭	
評価方法									
評価指標	定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	70	-	30	-	-	-	-	100	
教科書	中山和弘他 系統看護学講座 別巻 看護情報学 第3版 医学書院 ¥2,500+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	講義時間だけでは専門的な手技を取得できない場合もあるので、必要に応じて各自で演習を行うこと。								

科目名	基礎ゼミナール					看護科			
学年	1 年	学期	前期	分野	基礎	時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	平井 亨樹				担当 教員	平井 亨樹 瀬戸山 美和, 竹下 政雄			
科目 概要	主体な学習者として必要な基本的なスキルを身につけ、能動的学習の必要性を理解する。また、社会人基礎力を身につけ、看護師として必要な学習態度を修得する。								
到達 目標	1. 看護学校における学習方法について理解する。 2. 人間関係を円滑にするコミュニケーションについての知識を深める。 3. レポート・論文作成に関する知識を理解し、基礎的なレポート・論文が作成できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	オリエンテーション			看護学校で学ぶこと			講義	瀬戸山	
2	学校生活 (1)			健康管理, 自己管理について			講義	平井	
3	学校生活 (2)			学校生活について			講義	平井	
4	学習方法 (1)			ノートの取り方, まとめ方			演習	平井	
5	学習方法 (2)			Ipad 活用方法			演習	平井	
6	ICT 教材と学習方法 (1)			遠隔授業について			講義	平井	
7	ICT 教材と学習方法 (2)			図書館利用方法, 文献検索			演習	平井	
8	敬語 (1)			敬語の種類, 敬語の誤列			演習	竹下	
9	敬語 (2)			電話のかけ方・受け方・メモの取り方			演習	竹下	
10	コミュニケーション力 (1)			見ること・あいさつから生じる対話力			演習	竹下	
11	コミュニケーション力 (2)			聴くことから生じる対話力, 対話力のまとめ			講義	竹下	
12	レポート作成 (1)			レポート作成のための取材表作成			講義	竹下	
13	レポート作成 (2)			レポート記述			演習	竹下	
14	論文作成 (2)			論文記述 (1)			演習	竹下	
15	論文作成 (3)			論文記述 (2)			演習	竹下	
評価方法									
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	合計	
評価割合 (%)		50	-	50	-	-	-	100	
教科書	上原寿明 大学生 学びのハンドブック 5 訂版 世界思想社 ¥1,200+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	看護の対象と向き合うための基礎的な知識となるため、積極的に参加すること。								

科目名	倫理学					看護科			
学年	1 年	学期	前期	分野	基礎	時間数	15 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	田頭 洋一			科目 担当者	田頭 洋一				
科目 概要	医療において倫理がなぜ問われているのか、他者(患者)の人権や自律の尊重がなぜ大切であるのかについて真剣に考え、知的基盤づくりをするための能力を修得する。								
到達 目標	1. 倫理とは何か、社会のルールとしての倫理について説明できる。 2. 異なる価値観を有する他者(患者)の気持ちを理解し、知的態度を養うことができる。 3. 身近にある倫理的課題に「気づく」ことができる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	倫理とは何か			倫理とは何か、倫理理論			講義	田頭	
2	個人と社会			国の存在意義			講義	田頭	
3	倫理と文化			宗教、社会情勢			講義	田頭	
4	生命倫理(1)			生命倫理とは何か、バイオエシックス			講義	田頭	
5	生命倫理(2)			生命倫理の4原則			講義	田頭	
6	生命倫理(3)			性・生殖			講義	田頭	
7	生命倫理(4)			先端医療（臓器移植・ホスピス）			講義	田頭	
8	生命倫理(5)			生命倫理と看護師の役割			講義	田頭	
評価方法									
評価指標	定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	80	-	20	-	-	-	-	100	
教科書	宮坂 道夫他 系統看護学講座 別巻 看護倫理 第3版 医学書院 ¥1,900+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	看護の対象と向き合うための基礎的な知識となるため、積極的に参加すること。								

科目名	心理学					看護科				
学年	1 年	学期	前期	分野	基礎	時間数	15 時間	単位数	1 単位	
科目 責任者	井上 哲雄				科目 担当者	井上 哲雄				
科目 概要	看護の対象は人間である。人間関係を円滑にし、看護を実践するためには、人間と人間をとりまく社会を幅広く理解することが重要である。人間関係の基盤となる人間理解を認知・行動・発達の側面から学び、社会的存在としての人間を理解する能力を修得する。									
到達 目標	1. 自分自身が自分の適性・性格・感情さらに心の動きなどを正しく理解し、自分を冷静に統制するための知識を学ぶことができる。 2. 患者の示す心理や不適応行動について正しく理解し、それに対応するために、人間の知覚・記憶・思考・知能・性格・感情・情緒・適応・発達などについての知識を学ぶことができる。 3. 人間関係や集団の心理について理解できる。									
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員	
1	心理学の問題			心理学の発展，心理学の研究方法				講義	井上	
2	感覚と知覚			感覚・知覚の仕組みと働き				講義	井上	
3	記憶，思考，言語，知能			記憶のメカニズム，短期記憶，作業記憶，長期記憶，思考，言語とコミュニケーション，知能と知能検査				講義	井上	
4	学習			古典的条件づけ，オペラント条件づけ，社会的学習，学習の工夫				講義	井上	
5	感情と動機づけ			感情の諸相，感情のメカニズム，動機づけとは，動機づけの理論				講義	井上	
6	社会と集団			社会的認知，態度と説得的コミュニケーション，対人関係と対人魅力，集団とリーダーシップ				講義	井上	
7	心理臨床			ストレスと適応，こころの問題心理療法，カウンセリング				講義	井上	
8	医療，看護と心理			対人援助，ケアする仕事とこころのケア，患者の心理				講義	井上	
評価方法										
評価指標		中間試験		期末試験		小テスト		レポート	－	合計
評価割合 (%)		40		40		10		10	－	100
教科書	山村 豊他 系統看護学講座 基礎分野 心理学 第6版 医学書院 ¥2,300＋税。									
教材・参考図書		適宜プリントを配布する。								
オフィスアワー		授業の前後								
履修上の 注意点		看護の対象と向き合うための基礎的な知識となるため，積極的に参加すること。								

科目名	外国語 I					看護科			
学年	1 年	学期	前期	分野	基礎	時間数	15 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	金子 知恵				科目 担当者	金子 知恵			
科目 概要	社会の国際化に対応する能力を備えるためには、一般的にも医学的にも汎用されている英語を学習することは必要である。多様な文化的背景を持つ外国人患者に対し、状況に応じて適切な配慮ができ、国際化社会の中で看護実践として役立つコミュニケーションの基礎的対応能力を修得する。								
到達 目標	1. 基本的な英会話を習得し、看護に必要な医療英単語を身につける。 2. 看護場面における基本的な英会話を習得する。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	英会話の必要性			オリエンテーション			演習	金子	
2	Unit 1			Asking Basic Questions			演習	金子	
3	Unit 2			A Patient’ s First Visit			演習	金子	
4	Unit 3			Where’ s Internal Medicine?			演習	金子	
5	Unit 4			Admission to the Hostital			演習	金子	
6	Unit 5			Giving Infomataion			演習	金子	
7	Unit 6			Symptoms			演習	金子	
8	Review1-6			Unit 1-6			演習	金子	
評価方法									
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	合計	
評価割合 (%)		80	20	-	-	-	-	100	
教科書	Speaking of Nurcing 看護系学生のための英語コミュニケーション ¥2,300+税								
教材・参考図書		適宜紹介する。							
オフィスアワー		月曜日午前							
履修上の 注意点	英和辞書・和英辞書を各自持参すること。								

科目名	外国語Ⅱ					看護科			
学年	2 年	学期	前期	分野	基礎	時間数	15 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	金子 知恵				科目 担当者	金子 知恵			
科目 概要	社会の国際化に対応する能力を備えるためには、一般的にも医学的にも汎用されている英語を学習することは必要である。英語を用いたコミュニケーションスキルを向上させ、様々な場面での情報の共有化に貢献できる能力を養う。								
到達 目標	1. 基本的な英会話を習得し、看護に必要な医療英単語を身につける。 2. コミュニケーションスキルを向上させ、情報収集できる能力を身につける。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	Classroom English			オリエンテーション			演習	金子	
2	Unit 7			Injuries and Emergencies			演習	金子	
3	Unit 8			How Are You Feeling?			演習	金子	
4	Unit 9			A Patient’ s Medical History			演習	金子	
5	Unit 10			Medicine			演習	金子	
6	Unit 11			I’ m Going to Gime You an IV			演習	金子	
7	Unit 12			Congratulations! You’ re Having a Baby Girl			演習	金子	
8	Review7-12			Unit 7-12			演習	金子	
評価方法									
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	合計	
評価割合 (%)		80	20	-	-	-	-	100	
教科書	Speaking of Nurcing 看護系学生のための英語コミュニケーション ¥2,300+税								
教材・参考図書		適宜紹介する。							
オフィスアワー		月曜日午前							
履修上の 注意点	英和辞書・和英辞書を各自持参すること。								

科目名	健康行動学						看護科			
学年	1 年	学期	前期	分野	基礎		時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	田中 七郎				科目 担当者	田中 七郎				
科目 概要	看護は健康障害時の援助のみでなく、自らの心身の健康保持増進も重要である。さらに、健康を育む専門職として、人々の QOL を高めるための健康づくりや運動実践の支援をしていく必要もあると考えられる。実技形態を伴う活動において、自己の健康意識を高め、他者との関わりを通じた仲間づくりやコミュニケーション、および運動の実践を行い、礼節や協調性を育めるよう能力を修得する。									
到達 目標	1. 自らの体力の向上と把握に努め、健康管理と安全教育の徹底を行うと共に、自主自立と協調性の精神を養う。									
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員	
1	オリエンテーション			授業概要説明等				講義	田中	
2	体力づくり(1)			生活に必要な基礎体力づくり(1)				実技	田中	
3	体力づくり(2)			生活に必要な基礎体力づくり(2)				実技	田中	
4	アイスブレイクの理解と生涯スポーツ(1)			アイスブレイクの実践と生涯スポーツ実践(1)				実技	田中	
5	アイスブレイクの理解と生涯スポーツ(1)			アイスブレイクの実践と生涯スポーツ実践(1)				実技	田中	
6	体操の実践(1)			ラジオ体操 1～13 グループ課題練習(1)				実技	田中	
7	体操の実践(2)			ラジオ体操 1～13 グループ課題練習(2)				実技	田中	
8	体操の実践(3)			ラジオ体操 1～13 グループ課題練習(3)				実技	田中	
9	レクリエーションバレー(1)			チーム作りとゲーム(1)				実技	田中	
10	レクリエーションバレー(2)			チーム作りとゲーム(2)				実技	田中	
11	レクリエーションバレー(3)			チーム作りとゲーム(3)				実技	田中	
12	障害者スポーツの実践			シッティングバレー				実技	田中	
13	各種ストレッチングとマット運動(1)			スタティックストレッチ、マット運動(1)				実技	田中	
14	各種ストレッチングとマット運動(2)			スタティックストレッチ、マット運動(2)				実技	田中	
15	各種ストレッチングとマット運動(3)			スタティックストレッチ、マット運動(3)				実技	田中	
評価方法										
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)		50	50	-	-	-	-	-	100	
教科書	必要時に資料を配布する。									
教材・参考図書	講義時に適宜確認すること。									
オフィスアワー	授業時間に確認すること。									
履修上の 注意点	基礎体力・精神力の向上のため、積極的に取り組むこと。									

科目名		教育学					看護科			
学年	1 年	学期	後期	分野	基礎		時間数	15 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	岩崎 瑞枝				担当 教員	岩崎 瑞枝				
科目 概要	看護職は患者，家族の健康の維持・増進に関する知識・方法について助言が必要である。 教育の意義や方法を学び，看護における教育・指導技術へと活かす。さらに 生涯学習について学び，自己教育力を修得する。									
到達 目標	1. 教育の意義や方法を学び，看護における教育・指導技術へと活かしていく 2. 参画型教育の基本を学ぶ 3. 生涯学習について学び，自己教育力を養う									
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員		
1	「いまここにこうしてある自分」と教育(教育はどう今の自分に作用してきたか)			「自分を知るためのワーク ① 家族と「自分」，②友だちと「自分」，③教師と「自分」			講義・演習	岩崎		
2	近代以降教育理論			ルソー，フレーベル，デューイ，イリイチ等，教育や人間形成に関するそれぞれの基本的発想の特徴や今日的意義を検討			講義	岩崎		
3	子どもの発達			子ども観の諸相，発達論，社会と子ども			講義	岩崎		
4	コミュニケーション			子どもを教える，他者とのかかわりを援助する，子供の発達を促す			講義	岩崎		
5	ケアリングと倫理			養護と子どもの権利			講義	岩崎		
6	健康教育			エンパワーメント，自己効力感，アドボカシー			講義	岩崎		
7	特別な教育			病児保育，発達障害，特別な教育へのニーズ			講義	岩崎		
8	まとめ			看護における学びの意義をワークで探る			講義・演習	岩崎		
評価方法										
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	合計		
評価割合(%)		60	20	20	-	-	-	100		
教科書	木村元 編集 系統看護学講座 基礎分野 教育学 第8版 医学書院 ¥2,200+税									
教材・参考図書		講義時に適宜確認すること。								
オフィスアワー		授業時間に確認すること。								
履修上の 注意点		アクティブラーニング（グループディスカッション，ディベート等）の実施。								

科目名	人間関係論					看護科			
学年	1 年	学期	前期	分野	基礎	時間数	15 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	岩崎 瑞枝				担当 教員	岩崎 瑞枝			
科目 概要	対人関係とコミュニケーションについての諸理論をもとに、他者と集団の中の人間の心理と行動、およびコミュニケーションの本質と技法について学び、よりよい人間関係の構築・改善と自己の成長実現のために学んだ理論を日常生活の中で実際に活かす力を修得する。								
到達 目標	1. ケアの対象者である患者の価値観や期待を理解し、尊重できるようになる。 2. 患者家族、他の保健医療専門職、地域社会と密接に連携が取れるようになる。 3. 1, 2 を円滑に実践するために必要な総合的・合理的態度や能力を習得する。								
回数	単元項目				授業内容		形態	担当教員	
1	人間関係と心理①				自己概念と自我の形成		講義	岩崎	
2	人間関係と心理②				気質・性格・パーソナリティーの理解		講義	岩崎	
3	対人関係				コミュニケーションの意義(コミュニケーションと対人関係の形成)		講義	岩崎	
4	コミュニケーション技法の概略				対人距離(物理的・心理的距離), 単純接近効果		講義	岩崎	
5	コミュニケーションの技法①				言語的コミュニケーション		講義	岩崎	
6	コミュニケーションの技法②				非言語的コミュニケーション		講義	岩崎	
7	総合考察				言語的, 非言語的コミュニケーションの効果		講義	岩崎	
8	まとめ				人間関係とコミュニケーション, 対人関係によって生じる気づきの確認		講義・演習	岩崎	
評価方法									
評価指標	定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)	60	20	20	-	-	-	-	100	
教科書	石川ひろの他 系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 第3版 医学書院 ¥2,200+税								
教材・参考図書	講義時に適宜確認すること。								
オフィスアワー	授業時間に確認すること。								
履修上の 注意点	アクティブラーニング(グループディスカッション, ディベート等)実施。								

専 門 基 礎 分 野

22単位（510時間）

<ねらい>

- 人体を系統立てて構造と機能を理解し人間の持つ能力を知る。
- 疾病の成り立ちを学び健康維持・回復の促進に関する観察する力、判断する力を身につけていく。
- 人間の生活を取り巻く環境と生活習慣を整えるための基礎能力を学ぶ。
- 人々が自らより良い生活を営むための生活資源の活用に関して支援する基礎的能力を学ぶ。
- 地域における関係諸機関との連携を理解する。
- 看護師としての倫理的判断に則った態度の遵守について理解し、看護の役割について考える。

<構 成>

教育内容	科 目	単 位	時間数
人体の構造と機能 疾病の成り立ちと 回復の促進	解剖生理学Ⅰ	1	30
	解剖生理学Ⅱ	1	30
	解剖生理学Ⅲ	1	30
	解剖生理学Ⅳ	1	30
	解剖生理学Ⅴ	1	30
	生化学	1	15
	栄養学	1	15
	病理学	1	15
	病態生理学Ⅰ	1	30
	病態生理学Ⅱ	1	30
	病態生理学Ⅲ	1	30
	病態生理学Ⅳ	1	30
	放射線医学	1	15
	薬理学	2	30
	臨床疾病論	1	15
健康支援と社会保 障制度	公衆衛生学	1	30
	医療社会学	1	15
	社会福祉	1	30
	関係法規	1	15
	保健医療論	1	15
	リハビリテーション論	1	30
合 計		22	510

科目名	解剖生理学 I					看護科			
学年	1 年	学期	前期	分野	専門基礎	時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	長門 俊一				科目 担当者	長門 俊一			
科目 概要	解剖生理学 I では、人体の基礎となる遺伝子や細胞レベルから、体を構成する組織に至るまでを広く学び、生体の基礎を理解する。また、身体を支持する骨の機能や構造、体を動かす筋の機能と役割などについて理解するとともに、各骨や筋の位置や名称を確認・学習しながら人体の構造について修得する。								
到達 目標	1. 細胞や遺伝子、各組織の構造・機能についての内容を説明することができる。 2. 骨の機能や役割、また体の各部位の骨の名称を説明することができる。 3. 筋の機能や役割、また体の各部位の筋の名称を説明することができる。								
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員
1	人体の構造と機能を学ぶ			人体の構造と機能をどのように学ぶか				講義	長門
2	解剖生理の基礎知識（1）			構造から見た人体とその器官系				講義	長門
3	解剖生理の基礎知識（2）			素材から見た人体				講義	長門
4	解剖生理の基礎知識（3）			細胞の構造と機能				講義	長門
5	解剖生理の基礎知識（4）			細胞分裂と分化した細胞により作られる組織				講義	長門
6	身体の支持と運動（1）			骨格とはどのようなものか				講義	長門
7	身体の支持と運動（2）			骨の連結と骨格筋				講義	長門
8	身体の支持と運動（3）			体幹の骨格と筋				講義	長門
9	身体の支持と運動（4）			上肢の骨格と筋				講義	長門
10	身体の支持と運動（5）			下肢の骨格と筋				講義	長門
11	身体の支持と運動（6）			頭頸部の骨格と筋				講義	長門
12	身体の支持と運動（7）			全身の筋のまとめ				講義	長門
13	身体の支持と運動（8）			筋の収縮				講義	長門
14	身体の支持と運動（9）			運動と代謝				講義	長門
15	体表から見た人体の構造			体表から触知できる筋や血管				講義	長門
評価方法									
評価指標	定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)	80	10	10	-	-	-	-	100	
教科書	坂井建雄他 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 第11 版 医学書院 ¥3,800＋税								
教材・参考図書	その都度指定する。								
オフィスアワー	火曜日 14：00～18：00								
履修上の 注意点	人体についての基礎知識であり、薬理学、病理学、内科学などを理解する上で必須のものであるため、授業で分からなかったことは、理解できるまで必ず調べ、考え、質問し、解決する習慣を身につけること。								

科目名	解剖生理学Ⅱ						看護科		
学年	1 年	学期	前期	分野	専門基礎	時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	加藤 健一				科目 担当者	加藤 健一			
科目 概要	解剖生理学Ⅱでは、呼吸、血液の循環について学習する。さらに、血液・循環器系に密接に関係している生体防御機構と適応について学習する。これらの学習を通じて、酸素、栄養素の運搬をはじめ、止血や免疫などの生体防御機構について修得する。								
到達 目標	1. 呼吸器系の機能や役割について説明することができる。 2. 血液の組成や機能について説明することができる。 3. 循環器系の機能や役割について説明することができる。 4. 免疫系の細胞の種類、それらの機能や役割について説明することができる。								
回数	単元項目				授業内容			形態	担当教員
1	呼吸と血液の働き（1）				呼吸器系の構造			講義	加藤
2	呼吸と血液の働き（2）				呼吸器と呼吸運動			講義	加藤
3	呼吸と血液の働き（3）				呼吸器量とガス交換			講義	加藤
4	呼吸と血液の働き（4）				呼吸運動の調節と病態生理			講義	加藤
5	呼吸と血液の働き（5）				血液の組成と赤血球			講義	加藤
6	呼吸と血液の働き（6）				白血球、止血、血液型			講義	加藤
7	血液の循環とその調節（1）				循環器の構成、心臓の構造や機能			講義	加藤
8	血液の循環とその調節（2）				心電図と心周期			講義	加藤
9	血液の循環とその調節（3）				末梢循環系の構造			講義	加藤
10	血液の循環とその調節（4）				血液の循環調節			講義	加藤
11	血液の循環とその調節（5）				血流量の調節と微小循環			講義	加藤
12	血液の循環とその調節（6）				循環病態、リンパ循環			講義	加藤
13	身体機能の防御と適応（1）				皮膚の構造と役割			講義	加藤
14	身体機能の防御と適応（2）				生体の防御機構			講義	加藤
15	身体機能の防御と適応（3）				体温とその調節			講義	加藤
評価方法									
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	－	－	－	合計	
評価割合（％）		80	10	10	－	－	－	100	
教科書	坂井建雄他 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 第11版 医学書院 ¥3,800＋税								
教材・参考図書	その都度指定する。								
オフィスアワー	火曜日 14：00～18：00								
履修上の 注意点	人体についての基礎知識であり、薬理学、病理学、内科学などを理解する上で必須のものであるため、授業で分からなかったことは、理解できるまで必ず調べ、考え、質問し、解決する習慣を身につけること。								

科目名	解剖生理学Ⅲ						看護科		
学年	1 年	学期	前期	分野	専門基礎	時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	加藤 健一				科目 担当者	加藤 健一			
科目 概要	解剖生理学Ⅲでは、自律神経と内分泌系による調節機構や中枢神経，末梢神経，さらに感覚系について学習する。人体の種々の機能は神経系や内分泌系により調節されている。外部からの刺激に対する応答や身体行動がどのようなメカニズムで調節，発現されているかを修得する。								
到達 目標	1. 自律神経・内分泌系について，それらの構造や機能，調節機序を説明することができる。 2. 中枢神経や末梢神経の構造や機能，働きについて説明することができる。 3. 感覚器について，種々の感覚刺激を受容する機能を説明することができる。								
回数	単元項目				授業内容			形態	担当教員
1	内臓機能の調節（１）				自律神経による調節			講義	加藤
2	内臓機能の調節（２）				内分泌系による調節			講義	加藤
3	内臓機能の調節（３）				視床下部，甲状腺，副甲状腺			講義	加藤
4	内臓機能の調節（４）				膵臓，副腎，性腺，その他			講義	加藤
5	内臓機能の調節（５）				ホルモンの分泌調節と実際			講義	加藤
6	情報の受容と処理（１）				神経系の構造と機能			講義	加藤
7	情報の受容と処理（２）				脊髄と脳の構造（１）			講義	加藤
8	情報の受容と処理（３）				脊髄と脳の構造（２）			講義	加藤
9	情報の受容と処理（４）				脊髄神経の構造と機能			講義	加藤
10	情報の受容と処理（５）				運動機能と感覚の伝導路			講義	加藤
11	情報の受容と処理（６）				眼の構造と視覚			講義	加藤
12	情報の受容と処理（７）				聴覚と平衡覚			講義	加藤
13	情報の受容と処理（８）				味覚・嗅覚と痛み			講義	加藤
14	情報の受容と処理（９）				脳の活動，本能行動と情動行動			講義	加藤
15	情報の受容と処理（10）				内臓調節機能と中枢系の障害			講義	加藤
評価方法									
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	－	－	－	合計	
評価割合（％）		80	10	10	－	－	－	100	
教科書	坂井建雄他 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 第11版 医学書院 ¥3,800＋税								
教材・参考図書	その都度指定する。								
オフィスアワー	火曜日 14：00～18：00								
履修上の 注意点	人体についての基礎知識であり，薬理学，病理学，内科学などを理解する上で必須のものであるため，授業で分からなかったことは，理解できるまで必ず調べ，考え，質問し，解決する習慣を身につけること。								

科目名		解剖生理学Ⅳ					看護科			
学年	1 年	学期	後期	分野	専門基礎		時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	加藤 健一				科目 担当者	加藤 健一				
科目 概要	解剖生理学Ⅳでは、消化管の構造や機能、消化吸収のメカニズムを学習する。また、体液の調節と腎機能の関係、排尿のメカニズムについて理解を深める。さらに、生殖機能や、受精から胎児の発生、成長と老化について学習し知識を修得する。									
到達 目標	1. 消化吸収の機能について説明することができる。 2. 腎機能とそれに関連する体液調節メカニズムを説明することができる。 3. 男女の生殖機能と胎児発生から老化までを説明することができる。									
回数	単元項目				授業内容			形態	担当教員	
1	栄養の消化と吸収（１）				口・咽頭・食道の構造と機能			講義	加藤	
2	栄養の消化と吸収（２）				胃の構造と機能			講義	加藤	
3	栄養の消化と吸収（３）				小腸の構造と機能			講義	加藤	
4	栄養の消化と吸収（４）				消化と吸収，大腸の構造と機能			講義	加藤	
5	栄養の消化と吸収（５）				膵臓・肝臓・胆嚢の機能と腹膜			講義	加藤	
6	体液の調節と尿の生成（１）				腎臓の構造と機能			講義	加藤	
7	体液の調節と尿の生成（２）				尿細管の機能と構造			講義	加藤	
8	体液の調節と尿の生成（３）				腎臓の機能とホルモン			講義	加藤	
9	体液の調節と尿の生成（４）				排尿路			講義	加藤	
10	体液の調節と尿の生成（５）				体液の調節と酸塩基平衡			講義	加藤	
11	生殖・発生と老化（１）				男性生殖器			講義	加藤	
12	生殖・発生と老化（２）				女性生殖器			講義	加藤	
13	生殖・発生と老化（３）				受精と胎児の発生			講義	加藤	
14	生殖・発生と老化（４）				胎児と胎盤			講義	加藤	
15	生殖・発生と老化（５）				成長と老化			講義	加藤	
評価方法										
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	－	－	－	合計		
評価割合（％）		80	10	10	－	－	－	100		
教科書	坂井建雄他 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 第11版 医学書院 ¥3,800＋税									
教材・参考図書	その都度指定する。									
オフィスアワー	火曜日 14：00～18：00									
履修上の 注意点	人体についての基礎知識であり、薬理学、病理学、内科学などを理解する上で必須のものであるため、授業で分からなかったことは、理解できるまで必ず調べ、考え、質問し、解決する習慣を身につけること。									

科目名	解剖生理学Ⅴ					看護科			
学年	3 年	学期	前期	分野	専門基礎	時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	加藤 健一				科目 担当者	加藤 健一			
科目 概要	解剖生理学Ⅴでは、第1学年で学習した内容を確認するとともに、人体を総合的にとらえる力を身に着けることで、薬理学、病理学、病態生理学などとの関連性について理解を深める。さらに各疾患における発症原因や、症状が生じる理由などを解剖生理学的観点から推察する力を修得する。								
到達 目標	1. 血液の性状と疾患とを結び付けて説明することができる。 2. 内分泌系が関与する疾患とホルモンの作用を関連付けて説明することができる。 3. 各臓器の機能とそれに関与する病態を説明することができる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	血液・循環(1)			血液の基礎			講義	加藤	
2	血液・循環(2)			各血球の働きや機能			講義	加藤	
3	血液・循環(3)			血液凝固・線溶			講義	加藤	
4	血液・循環(4)			生体防御機構とアレルギー			講義	加藤	
5	内臓機能調節(1)			ホルモン分泌器官と分泌ホルモン			講義	加藤	
6	内臓機能調節(2)			視床下部ホルモンと関連する疾患			講義	加藤	
7	内臓機能調節(3)			甲状腺・膵臓のホルモンと関連する疾患			講義	加藤	
8	内臓機能調節(4)			その他のホルモンと関連する疾患			講義	加藤	
9	体液の調節(1)			腎臓の機能と血圧，体液組成調節			講義	加藤	
10	体液の調節(2)			酸・塩基平衡と関連する疾患			講義	加藤	
11	栄養の消化と吸収(1)			消化器官と消化			講義	加藤	
12	栄養の消化と吸収(2)			消化器官と関連する疾患			講義	加藤	
13	神経・感覚(1)			自律神経系の機能と反射			講義	加藤	
14	神経・感覚(2)			中枢神経の機能と関連する疾患			講義	加藤	
15	神経・感覚(3)			感覚器と関連する疾患			講義	加藤	
評価方法									
評価指標	定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	100	—	—	—	—	—	—	100	
教科書	坂井建雄他 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 第10版 医学書院 ¥3,800＋税								
教材・参考図書	その都度指定する。								
オフィスアワー	火曜日 14：00～18：00								
履修上の 注意点	最終学年で学ぶ内容なので，一年で学んだことを復習・確認するとともに，他の教科で学んだ知識を総合的かつ，有機的につなぐことで，体の機能やそれに関連する疾患原因を包括的に理解する力をつける。								

科目名	生化学					看護科			
学年	1 年	学期	後期	分野	専門基礎	時間数	15 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	弟子丸 正伸				科目 担当者	弟子丸 正伸			
科目 概要	生体を成り立たせる化合物は何か、また生体の恒常性はどのように維持されているのかということを学び、科学的思考により、生体の正常なしくみ・機能の破綻した状態である病気を正しく理解する能力を修得し、看護の実践性を滋養できる能力を修得する。								
到達 目標	1. 生体内で行われている代謝について理解できる。 2. 体内の遺伝情報について理解できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	代謝，酵素，ビタミン 補酵素			代謝とは，酵素に関する基礎知識 ビタミン補酵素とは			講義	弟子丸	
2	糖質代謝			糖質代謝，グルコースの分解，糖代謝 ペントースリン代謝，ガラクトース等の代謝			講義	弟子丸	
3	脂質代謝			脂質の消化と吸収，脂肪酸の分解 ケトン体の産生と利用，トリグリセリドの生合成 コレステロールの生合成と利用			講義	弟子丸	
4	たんぱく質代謝			たんぱく質代謝，たんぱく質の消化と吸収 α-ケト酸を経由するアミノ酸の利用 アミノ酸の合成			講義	弟子丸	
5	核酸代謝，ポルフィリン 代謝			核酸の合成と分解，ヘムの合成・分解 ビリルビンの代謝			講義	弟子丸	
6	代謝の異常			骨粗鬆症，糖尿病，脂質異常症 抗尿酸血症・痛風			講義	弟子丸	
7	遺伝情報(1)			遺伝情報とは			講義	弟子丸	
8	遺伝情報(2)			複製・転写・翻訳 DNA の損傷と修復			講義	弟子丸	
評価方法									
評価指標	定期試験	小テスト	レポート	課 題	-	-	-	合計	
評価割合 (%)	100	-	-	-	-	-	-	100	
教科書	畠山鎮次 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能② 生化学 第 14 版 医学書院 ¥2,200+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いので，理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。								

科目名	栄養学					看護科				
学年	1 年	学期	後期	分野	専門基礎	時間数	15 時間	単位数	1 単位	
科目 責任者	中園 栄里			科目 担当者	中園 栄里					
科目 概要	生体内の物質代謝の流れの変化を科学的に解析できる能力を修得する。人間の体を構成し、疾病に抵抗する力は食べ物に含まれる成分（栄養）などの働きによって養われていることを理解する能力を修得し、看護の実践性を滋養できる能力を修得する。									
到達 目標	1. 栄養状態の評価・判定が理解でき、実際に活用できる。 2. 各発達段階に応じた栄養マネジメントができる。									
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員		
1	人間栄養学と看護			栄養の概念，食事摂取基準，バランスガイド 栄養素と食品			講義	中園		
2	消化吸収について 栄養素の種類とはたらき(1)			糖質，たんぱく質 消化管（三大栄養素）消化酵素			講義	中園		
3	消化吸収について 栄養素の種類とはたらき(2)			脂質の種類 ビタミン・ミネラルの種類と機能，欠乏症			講義	中園		
4	消化吸収について 栄養素の種類とはたらき(3)			各栄養素の詳細，欠乏症 料理の際の注意点 エネルギー代謝			講義	中園		
5	ライフステージと栄養 臨床栄養(1)			乳児期・幼児期・学童期・思春期・青年期・妊娠期・授乳期における栄養			講義	中園		
6	ライフステージと栄養 臨床栄養(2)			成人期・更年期・高齢期における栄養			講義	中園		
7	食事療法(1)			病院食，疾患別食事療法の実際 栄養補給法，人間の食事と食文化			講義	中園		
8	食事療法(2)			食品と食品群，食生活の変遷と栄養の問題点 生活習慣病の予防，食生活指針と健康日本 21			講義	中園		
評価方法										
評価指標	定期試験	小テスト	レポート	課 題	-	-	-	合計		
評価割合(%)	80	-	20	-	-	-	-	100		
教科書	小野章史他 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能③ 栄養学 第13版 医学書院 ¥2,000＋税 足立香代子他 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 第4版 医学書院 ¥1,800＋税 新しい食生活を考える会 新ビジュアル食品成分表 改訂版 大修館書店 ¥1,000＋税 日本糖尿病学会 糖尿病食事療法のための食品交換表 文光堂 ¥900＋税									
教材・参考図書	適宜紹介する。									
オフィスアワー	火曜日午前									
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いので，理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。									

科目名	病理学					看護科			
学年	1 年	学期	後期	分野	専門基礎	時間数	15 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	本田 武司				科目 担当者	本田 武司			
科目 概要	健康から疾患に至るまでに起こる変化のプロセスについて学ぶ。臨床医学全般についての病理・病態的変化の発生機序を学び，科学的思考に基づき，看護実践の基礎になる能力を修得する。								
到達 目標	1. 人体の構造と機能において，正常から逸脱する場合の現象を理解できる。 2. 重要な症状・徴候の原因と対応の原則が理解できる。								
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員
1	看護と病理学			看護と病理学，病気の原因，疾病分類				講義	本田
2	細胞・組織の損傷と修復			細胞の損傷と適応，物質沈着，脂質代謝障害と疾患				講義	本田
3	循環障害			循環器系の概要，局所性・全身性の循環障害				講義	本田
4	炎症と免疫，移植と再生医療			炎症，炎症分類，免疫，アレルギーと自己免疫疾患 移植と再生医療				講義	本田
5	代謝性障害			脂質・タンパク質代謝障害と疾患				講義	本田
6	感染症			感染と宿主の防御機構，感染症の治療と予防				講義	本田
7	老化と死			加齢に伴う諸臓器の変化，個体の死と終末期医療				講義	本田
8	先天異常と遺伝子異常			先天異常・遺伝性疾患の診断と治療				講義	本田
評価方法									
評価指標	定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)	80	10	10	-	-	-	-	100	
教科書	大橋健一他 系統看護学講座 専門基礎分野疾病のなりたちと回復の促進① 病理学 第 6 版 医学書院 ¥2,400＋税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いので，理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。								

科目名	病態生理学 I							看護科	
学年	1 年	学期	後期	分野	専門基礎	時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	宇田津 明彦				科目 担当者	宇田津 明彦			
科目 概要	各系統別の疾患と発生機序，主な疾患の診断・検査・治療・予後について理解し，科学的根拠に基づいた看護を展開する能力を修得し，看護の実践性を滋養できる能力を修得する。(循環器，呼吸器)								
到達 目標	1. 主な循環器疾患の病態・症状・検査と診断・治療法を理解できる。 2. 主な呼吸器疾患の病態・症状・検査と診断・治療法を理解できる。								
回数	単元項目				授業内容			形態	担当教員
1	心臓のポンプ機能と病態生理				心臓のポンプ機能を保つしくみ 血圧調節と末梢循環のしくみ			講義	宇田津
2	心臓の排出機能の障害(1)				狭心症，労作性狭心症，冠れん縮性狭心症			講義	宇田津
3	心臓の排出機能の障害(2)				心筋梗塞			講義	宇田津
4	心臓の排出機能の障害(3)				刺激伝導系の異常，不整脈で生じる障害			講義	宇田津
5	心臓の排出機能の障害(4)				先天性心疾患，弁膜の機能不全，チアノーゼ			講義	宇田津
6	心臓の排出機能の障害(5)				心タンポナーゼ，心不全，NYHA 心機能分類			講義	宇田津
7	血圧調節と末梢循環の障害(1)				血圧の異常，ショックの病態生理			講義	宇田津
8	血圧調節と末梢循環の障害(2)				動脈硬化症，動脈瘤，静脈の破綻			講義	宇田津
9	呼吸器の構造と機能				呼吸に必要な要因，呼吸器の機能，呼吸機能検査			講義	宇田津
10	呼吸器系の防御機能の障害(1)				上気道感染症，下気道感染症，肺炎，肺結核			講義	宇田津
11	呼吸器系の防御機能の障害(2)				気管支喘息			講義	宇田津
12	換気の障害(1)				胸腔の容積および陰圧の保持障害			講義	宇田津
13	換気の障害(2)				拘束性肺疾患，閉塞性肺疾患，慢性閉塞性肺疾患			講義	宇田津
14	ガスの拡散障害(1)				肺梗塞，肺塞栓			講義	宇田津
15	呼吸調節の障害(1)				過換気症候群，睡眠時無呼吸症候群			講義	宇田津
評価方法									
評価指標	定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	100	-	-	-	-	-	-	100	
教科書	田中越郎 系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 疾病のなりたちと回復の促進② 第 3 版 医学書院 ¥2,400+税 吉田俊子他 系統看護学講座 専門分野 成人看護学③ 循環器 第 16 版 医学書院 ¥2,500+税 浅野浩一郎他 系統看護学講座 専門分野 成人看護学② 呼吸器 第 16 版 医学書院 ¥2,500+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	水曜日午前								
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いので，理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。								

科目名		病態生理学Ⅱ					看護科			
学年	1 年	学期	後期	分野	専門基礎		時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	梶岡 俊一			科目 担当者	宮城 靖, 梶岡 俊一, 合馬 慎二, 谷口 邦久 工藤 美樹, 杉本 潤					
科目 概要	各系統別の疾患と発生機序, 主な疾患の診断・検査・治療・予後について理解し, 科学的根拠に基づいた看護を展開する能力を修得し, 看護の実践性を滋養できる能力を修得する。(脳, 神経系, 泌尿器, 生殖器, 口腔)									
到達 目標	1. 主な脳・神経系疾患の病態・症状・検査と診断・治療法を理解できる。 2. 主な腎・泌尿器疾患の病態・症状・検査と診断・治療法を理解できる。 3. 主な生殖器疾患の病態・症状・検査と診断・治療法を理解できる。 4. 主な歯・口腔疾患の病態・症状・検査と診断・治療法を理解できる。									
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員	
1	脳・神経, 筋肉と疾患(1)			脳・神経, 筋肉の機能				講義	宮城	
2	脳・神経, 筋肉と疾患(2)			脳循環のしくみと障害(脳梗塞)				講義	宮城	
3	脳・神経, 筋肉と疾患(3)			脳循環のしくみと障害(脳出血)				講義	宮城	
4	脳・神経, 筋肉と疾患(4)			髄膜・髄液のはたらきとその障害, 脳腫瘍				講義	宮城	
5	脳・神経, 筋肉と疾患(5)			頭痛, 睡眠障害, 意識と認知の障害				講義	合馬	
6	脳・神経, 筋肉と疾患(6)			運動制御のしくみとその障害				講義	合馬	
7	脳・神経, 筋肉と疾患(7)			けいれん, てんかん				講義	合馬	
8	脳・神経, 筋肉と疾患(8)			筋収縮のしくみとその障害				講義	合馬	
9	腎機能と疾患(1)			腎臓の構造と機能, 濾過機能の障害				講義	梶岡	
10	腎機能と疾患(2)			尿再吸収機能の障害, 腎間質の障害 全身性疾患に伴う腎障害				講義	梶岡	
11	腎機能と疾患(3)			腎不全				講義	梶岡	
12	泌尿器機能と疾患(1)			男性生殖器の異常				講義	梶岡	
13	女性生殖器機能と疾患(1)			女性生殖器の構造と機能, 女性生殖器の診察・ 検査・治療・処置, 月経異常, 膣炎・性感染症				講義	杉本	
14	女性生殖器機能と疾患(2)			子宮, 卵巣・卵管, 乳房の疾患				講義	工藤	
15	歯・口腔疾患			歯科・口腔疾患, 顎関節疾患, 口腔粘膜疾患				講義	谷口	
評価方法										
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)		100	-	-	-	-	-	-	100	
教科書	田中越郎 系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 疾病のなりたちと回復の促進② 第 3 版 医学書院 ¥2,400+税 井手隆文他 系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑦ 脳・神経 第 16 版 医学書院 ¥2,500+税 今井亜矢子他 系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑧ 腎・泌尿器 第 16 版 医学書院 ¥2,400+税 末岡浩他 系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑨ 女性生殖器 第 15 版 医学書院 ¥2,300+税 渋谷絹子他 系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑩ 歯・口腔 第 14 版 医学書院 ¥1,900+税									
教材・参考図書		適宜紹介する。								
オフィスアワー		各担当講師の講義時に適宜確認すること。								
履修上の 注意点		講義の内容は専門性が高いので, 理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。								

科目名		病態生理学Ⅲ					看護科			
学年	1 年	学期	後期	分野	専門基礎		時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	宇田津 明彦				科目 担当者	宇田津 明彦, 力丸 由紀子				
科目 概要	各系統別の疾患と発生機序, 主な疾患の診断・検査・治療・予後について理解し, 科学的根拠に基づいた看護を展開する能力を修得し, 看護の実践性を滋養できる能力を修得する。(消化管, 免疫, 皮膚, 感覚器)									
到達 目標	1. 主な消化管疾患の病態・症状・検査と診断・治療法を理解できる。 2. 主なアレルギー疾患, 膠原病の病態・症状・検査と診断・治療法を理解できる。 3. 主な皮膚疾患の病態・症状・検査と診断・治療法を理解できる。 4. 主な眼疾患・耳鼻咽喉疾患の病態・症状・検査と診断・治療法を理解できる。									
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員	
1	消化管の機能と疾患(1)			消化器の構造と機能, 咀嚼・嚥下の障害				講義	宇田津	
2	消化管の機能と疾患(2)			胃・腸管の障害(1)				講義	宇田津	
3	消化管の機能と疾患(3)			胃・腸管の障害(2)				講義	宇田津	
4	消化管の機能と疾患(4)			消化・吸収の障害(1)				講義	宇田津	
5	消化管の機能と疾患(5)			消化・吸収の障害(2)				講義	宇田津	
6	消化管の機能と疾患(6)			肝臓・胆のうの機能, 肝細胞・肝小葉の障害				講義	宇田津	
7	消化管の機能と疾患(7)			肝臓の代謝機能の障害				講義	宇田津	
8	消化管の機能と疾患(8)			胆汁産生と胆道の障害, ビリルビン代謝と横断				講義	宇田津	
9	消化管の機能と疾患(9)			膵臓の機能の障害				講義	宇田津	
10	免疫不全と免疫疾患(1)			免疫のしくみ, アレルギー, 膠原病				講義		
11	皮膚の生体防御のしくみとその障害(1)			皮膚の構造と機能 表在性皮膚疾患, 真皮・皮下脂肪組織および皮膚付属器疾患				講義		
12	皮膚の生体防御のしくみとその障害(2)			脈管系の異常による皮膚疾患, 物理・化学的皮膚疾患 腫瘍および色素異常症				講義		
13	眼疾患			基礎知識と主な検査方法, 視覚器の機能とその異常				演習	力丸	
14	耳鼻咽喉疾患 (1)			聴覚の機能とその異常				講義	力丸	
15	耳鼻咽喉疾患 (2)			味覚・嗅覚とその異常				講義	力丸	
評価方法										
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)		100	-	-	-	-	-	-	100	
教科書	田中越郎 系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 疾病のなりたちと回復の促進② 第 3 版 医学書院 ¥2,400+税 南川雅子他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器 第 16 版 医学書院 ¥2,800+税 岩田健太郎他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑪ アレルギー 膠原病 感染症 第 15 版 医学書院 ¥2,200+税 佐藤博子他 系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑫ 皮膚 第 15 版 医学書院 ¥1,900+税 大鹿哲郎他 系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑬ 眼 第 14 版 医学書院 ¥1,800+税 小松浩子他 系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑭ 耳鼻咽喉 第 14 版 医学書院 ¥1,800+税									
教材・参考図書		適宜紹介する。								
オフィスアワー		水曜日午後								
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いので, 理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。									

科目名		病態生理学Ⅳ					看護科			
学年	1 年	学期	後期	分野	専門基礎		時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	宇田津 明彦			科目 担当者	堺 研二, 中山 浩次, 藤井 秀幸, 宇田津 明彦					
科目 概要	各系統別の疾患と発生機序, 主な疾患の診断・検査・治療・予後について理解し, 科学的根拠に基づいた看護を展開する能力を修得し, 看護の実践性を滋養できる能力を修得する。(運動器, 内分泌代謝, 血液造血器, 感染)									
到達 目標	1. 主な血液・造血器疾患の病態・症状・検査と診断・治療法を理解できる。 2. 主な内分泌・代謝系疾患の病態・症状・検査と診断・治療法を理解できる。 3. 主な運動器疾患の病態・症状・検査と診断・治療法を理解できる。 4. 主な感染症疾患の病態・症状・検査と診断・治療法を理解できる。									
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員	
1	血球の異常と血液疾患(1)			赤血球・白血球の機能とその障害				講義		
2	血球の異常と血液疾患(2)			造血器腫瘍, 急性白血病, 骨髄異形成症候群				講義		
3	血球の異常と血液疾患(3)			慢性白血病, 悪性リンパ腫, 骨髄腫				講義		
4	血球の異常と血液疾患(4)			出血性疾患, 播種性血管内凝固症候群				講義		
5	内分泌・代謝疾患(1)			視床下部一下垂体前・後葉系疾患				講義	藤井	
6	内分泌・代謝疾患(2)			甲状腺・副甲状腺疾患, 副腎皮質・髄質疾患				講義	藤井	
7	内分泌・代謝疾患(3)			糖尿病と合併症				講義	藤井	
8	内分泌・代謝疾患(4)			脂質異常症, 高尿酸血症・痛風, 骨粗鬆症				講義	藤井	
9	運動器疾患(1)			骨折, 脱臼, 靱帯損傷, その他の外傷				講義	堺	
10	運動器疾患(2)			先天性疾患, 骨・関節の炎症性疾患				講義	堺	
11	運動器疾患(3)			骨腫瘍および軟部腫瘍, 代謝性骨疾患				講義	堺	
12	運動器疾患(4)			腱の疾患				講義	堺	
13	運動器疾患(5)			神経・筋疾患				講義	堺	
14	感染症 (1)			感染症でみられる症候, 感染症で行われる検査・治療				講義	中山	
15	感染症(2)			ウイルス感染症, 細菌感染症				講義	中山	
評価方法										
評価指標	定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	-	合計		
評価割合 (%)	100	-	-	-	-	-	-	100		
教科書	土居健太郎 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進② 病態生理学 第3版 医学書院 ¥2,400+税 飯野京子他 系統看護学講座 専門分野 成人看護学④ 血液・造血器 第16版 医学書院 ¥1,800+税 黒江ゆり子他 系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑥ 内分泌・代謝 第16版 医学書院 ¥2,200+税 田中栄他 系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑩ 運動器 第15版 医学書院 ¥2,400+税 岩田健太郎他 系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑪ アレルギー膠原病 感染症 第15版 医学書院 ¥2,200+税									
教材・参考図書	適宜紹介する。									
オフィスアワー	各担当講師の講義時に適宜確認すること。									
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いので, 理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。									

科目名	放射線医学					看護科			
学年	2 年	学期	前期	分野	専門基礎	時間数	15 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	市原 隆洋				担当 教員	市原 隆洋			
科目 概要	画像診断，放射線治療，放射線防護についての基礎的知識を深め，看護実践において活用できる能力を修得する。また放射線医学を学び，多職種と協働・連携できる知識を修得する。								
到達 目標	1. 画像診断について，それぞれの特徴を理解できる。 2. 放射線治療を受ける対象者に対する看護師の役割を理解できる。								
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員
1	放射線医学とは			画像診断の役割，放射線治療の役割 画像診断における看護師の役割				講義	市原
2	X線診断			X線診断の特徴・成り立ち，X線診断の実際				講義	市原
3	C T			C Tの特徴，C T画像の成り立ち，検査の実際				講義	市原
4	MR I ・超音波診断 核医学検査			MR I の特徴，MR I 画像の成り立ち，検査の実際 超音波診断の特徴，成り立ち，検査の実際 核医学検査の特徴，成り立ち，検査の実際				講義	市原
5	I V R ・血管造影			I V R ・血管造影の成り立ち，実際と看護				講義	市原
6	放射線治療総論			放射線治療の原理と基礎，放射線治療の特徴と目的， 正常組織の有害反応と耐容線量				講義	市原
7	放射線各論(1)			モダリティー別疾患・看護(1)				講義	市原
8	放射線各論(2)			モダリティー別疾患・看護(2)				講義	市原
評価方法									
評価指標	定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	80	-	20	-	-	-	-	100	
教科書	福田国彦他 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 第10版 医学書院 ¥2,200＋税								
教材・参考図書	必要時に資料を配布する。その他，適宜紹介する。								
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いので，理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。								

科目名	薬理学						看護科		
学年	1 年	学期	後期	分野	専門基礎	時間数	30 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	岡本 順子				科目 担当者	岡本 順子			
科目 概要	薬物の種類と作用メカニズムを学び、基本的な薬物療法の実践ができる知識を修得する。また疾患治療において、薬物投与前の準備から投与後の経過観察までの一連のプロセスを、患者の安全確保を意識した臨床薬理学を理解する。								
到達 目標	1. 薬の作用、体内動態、副作用等について理解できる。 2. 薬物療法を行っている対象者の看護が理解できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	薬物学総論(1)			薬物治療の目指すもの、薬の作用、薬の体内循環			講義	岡本	
2	薬物学総論(2)			薬効に影響する因子、薬の有害作用			講義	岡本	
3	末梢の神経活動と薬物(1)			神経による情報伝達、 自律神経系薬、交感神経作用薬			講義	岡本	
4	末梢の神経活動と薬物(2)			副交感作用薬、筋弛緩薬・局所麻酔薬			講義	岡本	
5	中枢神経薬(1)			全身麻酔薬、催眠薬、抗不安薬			講義	岡本	
6	中枢神経薬(2)			抗精神病薬、抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬			講義	岡本	
7	心臓・血管系と薬物			抗高血圧薬、抗不整脈薬、利尿薬			講義	岡本	
8	薬物の管理			毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤等の取扱い			講義	岡本	
9	診療に伴う看護技術(1)			与薬方法、薬効・副作用の観察			講義	岡本	
10	診療に伴う看護技術(2)			輸液・輸血管理			講義	岡本	
11	健康の維持・増進			疾病の予防・早期発見、予防接種			講義	岡本	
12	薬物療法(1)			がんの治療と看護、化学療法			講義	岡本	
13	薬物療法(2)			吸入による薬物療法、血栓溶解療法、 血栓除去術			講義	岡本	
14	薬物療法(3)			インターフェロン療法、インスリン補充療法、 糖尿病経口薬による治療			講義	岡本	
15	薬物療法(4)			免疫抑制薬、ステロイド療法、 抗ヒト免疫不全ウイルス＜H I V＞療法			講義	岡本	
評価方法									
評価指標	定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	80	-	20	-	-	-	-	100	
教科書	吉岡充弘他 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進③ 薬理学 第 15 版 医学書院 ¥2,300＋税 井上智子他 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 第 2 版 医学書院 ¥2,700＋税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いので、理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。								

科目名	臨床疾病論					看護科			
学年	3 年	学期	前期	分野	専門基礎	時間数	15 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	立岡 孝之				担当 教員	立岡 孝之、濱田 純香、村田 大輔、豊永 由香、 奥田 めぐみ、田中 桃子、三ツ野 佐代子、南原 智子			
科目 概要	健康から疾病を経て回復に至る過程において理解し、機能障害のある対象者への看護について、基本的な知識・技術を修得する。さらに様々な健康レベルや障害レベルに応じた看護実践について、社会的側面・倫理的側面に配慮し応用できる能力を養う。								
到達 目標	1. 疾患の病態・検査・診断・治療・看護の役割について理解している。 2. 疾患による健康障害・生活機能障害について理解している。 3. 疾病の回復過程およびその段階における援助方法を理解している。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	神経機能の障害			中枢神経系の疾患，感覚機能の障害			講義	南原	
2	呼吸機能の障害			気道と肺の疾患			講義	豊永	
3	循環機能の障害			心臓の疾患，血管系の疾患			講義	奥田	
4	造血機能の障害 免疫機能の障害			造血器の疾患 膠原病，アレルギー性疾患，免疫不全			講義	立岡	
5	栄養の摂取・吸収・代謝機能 障害			栄養バランスの不均衡による疾患， 口腔・咽頭と食道の疾患，消化管の疾患 肝臓・胆嚢・膵臓の疾患			講義	濱田	
6	排泄機能の障害 生殖機能の障害			排便の障害 性・生殖器の疾患			講義	三ツ野	
7	内部環境調節機能の障害			内分泌系の疾患			講義	田中桃	
8	運動機能の障害			骨・関節・筋肉・神経筋接合部の疾患 活動や行動の制限による疾患			講義	村田	
評価方法									
評価指標	定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)	-	20	80	-	-	-	-	100	
教科書	適宜紹介する。								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いので，理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。								

科目名	公衆衛生学						看護科		
学年	1 年	学期	後期	分野	専門基礎	時間数	30 時間	単位数	1 単位
評価 担当	本川 渉			担当 教員	本川 渉				
科目 概要	医療職にとって欠かせない保険・医療・福祉の概念について理解し、「個」だけでなく、「集団」「社会」の視点からも健康問題をみることができる能力を養う。また、地域での看護専門職の役割として、対象に応じた対応ができる公衆衛生システム・地域保健活動の知識と実践能力を修得する。								
到達 目標	1. 現在行われている公衆衛生システムについて理解できる。 2. 様々な対象者に対して行われている公衆衛生活動について理解できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	公衆衛生のエッセンス(1)			公衆衛生とは、公衆衛生の歴史			講義	本川	
2	公衆衛生のエッセンス(2)			プライマリーヘルスケア，ヘルスプロモーション			講義	本川	
3	公衆衛生の活動対象			社会集団			講義	本川	
4	公衆衛生のしくみ			政策展開，専門職のはたらき			講義	本川	
5	環境と健康(1)			地球規模の環境と健康			講義	本川	
6	環境と健康(2)			身のまわりの環境と健康			講義	本川	
7	感染症とその予防対策			感染成立の要因，わが国の感染症予防対策			講義	本川	
8	国際保健			経済格差と健康格差，国際保険と日本			講義	本川	
9	集団の健康をとらえるための手法―疫学(1)			疫学とは			講義	本川	
10	集団の健康をとらえるための手法―疫学(2)			公衆衛生の場での疫学			講義	本川	
11	地域における公衆衛生の実践(1)			母子保健，成人保険，高齢者保健			講義	本川	
12	地域における公衆衛生の実践(2)			精神保健，障害者・難病保険			講義	本川	
13	学校と健康			学校保健			講義	本川	
14	職場と健康			職場における健康とは			講義	本川	
15	健康危機管理・災害保険			健康危機管理，災害保健			講義	本川	
評価方法									
評価指標		定期試験	小テスト	レポート					合計
評価割合(%)		70	30	－					100
教科書	神馬征峰他 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度② 公衆衛生 第 15 版 医学書院 ¥2,300＋税								
教材・参考図書		適宜紹介する。							
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。							
履修上の 注意点		講義の内容は専門性が高いので，理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。							

科目名	医療社会学						看護科		
学年	2 年	学期	前期	分野	基礎	時間数	15 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	岩崎 瑞枝				担当 教員	岩崎 瑞枝			
科目 概要	医療社会学は、健康と病気、保健や医療という現象を取り扱う社会学であり、社会の現象すべてが対象領域になるという特徴を持つ。対象そのものより、その背後にある人間の思いやふるまいから、その社会現象を説明できることを学び、現代医療における問題点および医療における人間関係を理解する能力を修得する。								
到達 目標	1. 医療社会学の基礎知識がわかる 2. 現代医療における問題点を理解する 3. 医療における人間関係の理解が深まる								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	「死」について			日本人の死生観、死生学、医療人類学など学際的アプローチ			講義	岩崎	
2	インフォームドコンセント、告知			歴史、意味、現在での状況			講義	岩崎	
3	末期がん（1）			現状			講義	岩崎	
4	末期がん（2）			死へのプロセス			講義	岩崎	
5	ホスピス（1）			成り立ちと歴史			講義	岩崎	
6	ホスピス（2）			世界/日本のホスピス：PCU（緩和ケア病棟）の現状、在宅ホスピス			講義	岩崎	
7	子どもと「死」			病児と医療保育、親の死と子ども			講義	岩崎	
8	グリーフ（悲嘆）			グリーフとは、グリーフケアとは			講義	岩崎	
評価方法									
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	合計	
評価割合（%）		60	20	20	-	-	-	100	
教科書	必要時に資料を配布する。								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施								

科目名	社会福祉						看護科				
学年	2 年	学期	前期	分野	専門基礎		時間数	30 時間	単位数	1 単位	
評価 担当	滝口 真				担当 教員	滝口 真					
科目 概要	現代社会における社会福祉にどのような問題があるのかを知り，医療従事者として学習しておくべき社会福祉に関する知識と「福祉の心」を習得する。また，対象者が日々の暮らしと福祉制度・社会保障がどう関係するのか専門的知識を習得し，個々のライフスタイルに沿った対応ができる基礎的能力を修得する。										
到達 目標	1. 我が国の社会保障制度の概要・特徴について理解できる。 2. 社会福祉サービスの実態と抱えている問題を学び，行われている施策を理解できる。 3. 社会福祉実践の共通基盤としてどのような援助が必要なのか，どのような援助方法があるのかを理解できる。										
回数	単元項目				授業内容				形態	担当教員	
1	社会福祉の歴史				歴史的経緯と展開，その意義，広義・狭義の捉え方				講義	滝口	
2	社会保障制度と社会福祉(1)				社会保障の概念・目的・機能・体系・内容， 少子高齢化と社会保障制度				講義	滝口	
3	社会保障制度と社会福祉(2)				社会福祉の法制度の歴史的展開，福祉 6 法				講義	滝口	
4	社会保障制度と社会福祉(3)				社会福祉の財政，組織と実施体制，社会福祉の従事 者と担い手				講義	滝口	
5	現代社会の変化と社会保障・社会 福祉の動向				現代社会の変化（人口，地域，家族，経済，雇用状 況），わが国の社会保障制度，社会福祉の動向				講義	滝口	
6	医療保障（1）				わが国の医療保障制度の特徴，健康保険と国民健康 保険				講義	滝口	
7	医療保障（2）				高齢者医療制度，国民医療費				講義	滝口	
8	介護保障				介護保険制度の概要，介護保険制度の課題と展望				講義	滝口	
9	所得保障				年金保険制度，社会手当，労働保険制度				講義	滝口	
10	公的扶助				生活保護制度のしくみ				講義	滝口	
11	社会福祉の分野とサービス				高齢者福祉，障害者福祉，児童家庭福祉				講義	滝口	
12	社会福祉実践と医療・看護（1）				ケースワーク，グループワーク				講義	滝口	
13	社会福祉実践と医療・看護（2）				間接援助技術，関連援助技術				講義	滝口	
14	社会福祉実践と医療・看護（3）				社会福祉援助の検討課題（エンパワメント，アドボ カシー，セルフヘルプ・グループ）				講義	滝口	
15	社会福祉実践と医療・看護（4）				医療・看護との連携，連携の場面とその方法				講義	滝口	
評価方法											
評価指標		定期試験		小テスト		レポート		-	-	-	合計
評価割合 (%)		100		＝		＝					100
教科書		福田素生他 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度③ 社会保障・社会福祉 第 25 版 医学書院 ¥2,500＋税									
教材・参考図書		適宜紹介する。									
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。									
履修上の 注意点		講義の内容は専門性が高いので，理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。									

科目名	看護関係法規					看護科			
学年	2 年	学期	後期	分野	専門基礎	時間数	15 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	豊永 由香			科目 担当者	豊永 由香				
科目 概要	医療・生活に関する諸制度の概要と諸法令を理解し、看護職として国民の健康を守り、与えられた職責を正しく遂行する能力を修得する。看護職として正しく職務を遂行するために、看護職として基盤となる法規および関連法規について理解し、適切な看護を行う上での根拠や判断基準となる能力を修得し、対象に応じ柔軟に対応できる能力を修得する。								
到達 目標	1. 私たちがかわかる医療・生活に関する法の概要を理解できる。 2. 保健師法，助産師法，看護師法及びその周辺の法について理解できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	看護師と基本となる法規			関係法規とは、法の概念・分類，保健師助産師看護師法，看護師の人材確保促進に関する法律，			講義	豊永	
2	医療職種に関する法規			医師法，医療法，関係資格法等，医療を支える法			講義	豊永	
3	薬物に関する法規 感染予防			医薬品医療機器等法，麻薬及び向精神薬取締法 感染症法，予防接種法，			講義	豊永	
4	母子保健・小児保健に関する 法規，高齢者保健に関する 法律			母子保健法，DV法，学校保健安全法，児童虐待防止 法，老人福祉法，介護保険法，高齢者虐待防止法，			講義	豊永	
5	障害者保健に関する法律			障害者基本法，障害者総合支援法，障害者虐待防止法， 難病の患者に対する医療等に関する法律			講義	豊永	
6	福祉・保険に関する法規			社会保障法，生活保護法			講義	豊永	
7	労働衛生に関する法規			労働基準法，労働安全衛生法， 社会基盤整備に関する法			講義	豊永	
8	覚えておきたい法規			環境基本法，食品衛生法，廃棄物処理法，臓器移植法， 個人情報保護法			講義	豊永	
評価方法									
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	合計	
評価割合 (%)		80	10	10	-	-	-	100	
教科書	森山幹夫 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度④ 看護関係法令 第 56 版 医学書院 ¥2,600＋税								
教材・参考図書	厚生統計協会編集 国民衛生の動向 厚生統計協会出版 ¥2,400								
オフィスアワー	火曜日 14：00～18：00								
履修上の 注意点	学んだ知識を元に，それをさらに発展させていくため，授業に積極的に参加し，自身の考えを表現すること。ニュース，新聞，インターネットなどで医療・看護に関する情報に触れ，考える習慣を持つこと。								

科目名	総合医療論						看護科		
学年	1 年	学期	後期	分野	専門基礎	時間数	15 時間	単位数	1 単位
評価 担当	尾崎 正雄				担当 教員	尾崎 正雄			
科目 概要	大きく変動する現代社会環境の中で、看護職者として現代社会のあり方をとらえ直すとともに、社会の基盤をなす一人ひとりにあったその人の生活・暮らしを理解することを通じて、患者や住民の生活を援助することの重要性を理解する。生活に深くかかわる保険・医療システムや医療技術の現状と課題を理解する能力を修得する。								
到達 目標	1. 医療行政や医療技術の現状及び課題を理解できる。 2. 医療における倫理について理解できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	医療と看護の原点			生命現象と死，健康の定義，生活の質（Quality of Life）について考える，チーム医療とマネジメント			講義	尾崎	
2	医療の歩みと医療観の変遷			現代医学の起源，これからの医療観について考える			講義	尾崎	
3	私たちの生活と健康			生活と環境衛生，保健・福祉行政，疾病の一次予防と健康増進，少子高齢化社会，ノーマライゼーションとインクルージョン			講義	尾崎	
4	科学技術の進歩と現代医療の最前線			現代医学と先端医療技術の最前線			講義	尾崎	
5	現代医療の新たな課題			先端医療技術のもたらす倫理上のジレンマ，生命倫理学と臨床倫理学の展開，インフォームドコンセント，医療情報の開示			講義	尾崎	
6	医療を見つめ直す新しい視点			インシデント・アクシデント，医療の管理と評価，情報化社会と医療			講義	尾崎	
7	保健・医療・福祉の潮流（1）			プライマリ・ケアの新たな展開，医療におけるケアの視点，保健・医療の国際化			講義	尾崎	
8	保健・医療・福祉の潮流（2）			地域包括医療システムの新しい展開，保健・医療システムと地域住民の役割，地球時代のケア			講義	尾崎	
評価方法									
評価指標		定期試験		小テスト		レポート		合計	
評価割合（%）		100						100	
教科書	小泉俊三 系統看護学講座 専門基礎分野 総合医療論 第4版 医学書院 ¥2,200＋税								
教材・参考図書		適宜紹介する。							
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。							
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いので，理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。								

科目名	リハビリテーション論						看護科		
学年	2 年	学期	前期	分野	専門基礎	時間数	30 時間	単位数	1 単位
評価 担当	中村 正恵			担当 教員	中村 正恵				
科目 概要	リハビリテーションを受ける対象者の身体的・心理的・社会的立場を理解し、具体的なリハビリテーション援助法を修得する。また、多職種と協働・連携の重要性を理解し、対象に応じた援助ができる能力を養う。								
到達 目標	1. リハビリテーションを受ける対象者の身体的・心理的・社会的立場を理解できる。 2. 健康障害をもつ対象者のリハビリテーションの実際を知り、具体的な援助方法を理解できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	リハビリテーション概論			リハビリテーションの定義と理念			講義	中村	
2	リハビリテーション看護概論			リハビリテーション看護の方法論			講義	中村	
3	運動器の障害 (1)			骨折・関節リウマチ患者のリハビリテーション			講義	中村	
4	運動器の障害 (2)			ROM, MMT, CPM, 大腿四頭筋訓練			演習	中村	
5	運動器の障害 (3)			歩行器, 松葉杖を使用したリハビリテーション			講義	中村	
6	中枢神経系の障害 (1)			脳血管障害患者のリハビリテーション (1)			講義	中村	
7	中枢神経系の障害 (2)			脳血管障害患者のリハビリテーション (2)			演習	中村	
8	中枢神経系の障害 (3)			パーキンソン病患者のリハビリテーション			講義	中村	
9	中枢神経系の障害 (4)			脊髄損傷患者のリハビリテーション			講義	中村	
10	呼吸・循環器系の障害 (1)			慢性閉塞性肺疾患患者のリハビリテーション			講義	中村	
11	呼吸・循環器系の障害 (2)			呼吸リハビリテーション (体位ドレナージ・タッピング・スクイーピング) の実際			演習	中村	
12	呼吸・循環器系の障害 (3)			虚血性心疾患患者のリハビリテーション			講義	中村	
13	呼吸・循環器系の障害 (4)			心臓リハビリテーションの実際			演習	中村	
14	感覚器系の障害			視覚・聴覚障害患者のリハビリテーション			講義	中村	
15	学習のまとめ			リハビリテーション看護のまとめ			講義	中村	
評価方法									
評指標		定期試験	小テスト	レポート					合計
評価割合 (%)		80	10	10					100
教科書	武田宜子他 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 第7版 医学書院 ¥2,600+税								
教材・参考図書		適宜紹介する。							
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。							
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いので、理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。								

専 門 分 野

<ねらい>

- 看護の対象である人間を全人的な存在として捉え、生活者として包括的に理解する。
- 人間としてよりよく生きる（生活する）ことの意味を認識し、安全・安楽・自立をふまえた基本技術を修得する。
- 人間のもつ機能と能力を障害・喪失することで生じる様々な影響を理解し、その人がその人らしく生活することについて考える。
- 看護における知識、技術、態度のなかでも特に態度や倫理を重視し、対象一人ひとりの生命の尊厳と人格を尊重する態度を養う。
- 人間が誕生し成長・発達を遂げ人生を全うする過程における特徴と健康な生活について学ぶ。
- 特に各発達段階におけるセルフケア支援とよりよい生活について考える。
- 各発達段階において多様な健康課題を有する対象に、科学的根拠に基づき看護実践ができる基礎的能力を養う。
- 人生の終焉にある人とその人を取り巻く人々へ対する看護を学ぶ。
- 対象に共感しながら寄り添う姿勢を養う。
- 看護とは何か、看護職が果たす役割について考え、看護を探究する姿勢を培う。

<構 成>

教育内容	科 目	単 位	時間数
基礎看護学	基礎看護学Ⅰ	1	30
	基礎看護学Ⅱ	1	15
	基礎看護学Ⅲ	1	30
	基礎看護学Ⅳ	1	30
	基礎看護学Ⅴ	1	30
	基礎看護学Ⅵ	1	30
	基礎看護学Ⅶ	1	30
	基礎看護学Ⅷ	1	30
	基礎看護学Ⅸ	1	30
	基礎看護学Ⅹ	1	30
	基礎看護学Ⅺ	1	30
地域・在宅看護論	地域・在宅看護論Ⅰ	1	15
	地域・在宅看護論Ⅱ	2	30
	地域・在宅看護論Ⅲ	1	30
	地域・在宅看護論Ⅳ	1	30

教育内容	科 目	単 位	時間数
成人看護学	成人看護学Ⅰ	1	15
	成人看護学Ⅱ	1	30
	成人看護学Ⅲ	1	30
	成人看護学Ⅳ	1	30
	成人看護学Ⅴ	1	30
老年看護学	老年看護学Ⅰ	1	15
	老年看護学Ⅱ	1	15
	老年看護学Ⅲ	1	30
小児看護学	小児看護学Ⅰ	1	15
	小児看護学Ⅱ	1	15
	小児看護学Ⅲ	1	30
母性看護学	母性看護学Ⅰ	1	15
	母性看護学Ⅱ	1	15
	母性看護学Ⅲ	1	30
精神看護学	精神看護学Ⅰ	1	15
	精神看護学Ⅱ	1	15
	精神看護学Ⅲ	1	30
地域・在宅看護論	生活環境と健康状態に応じた看護Ⅰ	1	30
成人看護学	生活環境と健康状態に応じた看護Ⅱ	1	30
老年看護学	生活環境と健康状態に応じた看護Ⅲ	1	30
小児看護学	生活環境と健康状態に応じた看護Ⅳ	1	30
母性看護学	生活環境と健康状態に応じた看護Ⅴ	1	30
精神看護学	生活環境と健康状態に応じた看護Ⅵ	1	30

基礎看護学

1 1 単位（3 1 5 時間）

<ねらい>

看護の基本は、看護学すべての基盤であり、また看護を学ぶ最初の分野であり、看護学を専門分野として認識する。看護を体系的に捉え、看護の視点を理解するために、人間・健康・環境・看護・看護の倫理の主要概念について学ぶ。看護とは何か、看護職が果たす役割について考える機会となる。看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・霊的側面から捉えることで、人間を包括的に理解することができる。

また、人間としてよりよく生きる（生活する）ことの意味を認識し、安全・安楽・自立をふまえた基本技術を修得する。

<目 的>

対象となる人間を理解し、看護を実践できる基礎能力を養う。

<目 標>看護を体系的に捉え、看護の視点を理解するために、人間・健康・環境・看護・看護の倫理の主要概念について学ぶ。

1. 看護の対象と役割について理解する。
2. 看護の基本となる技術を修得する。
3. 検査・治療・処置に伴う診療の援助技術を修得する。
4. 対象者のもつ看護上の問題を抽出し、計画立案・実施・評価する方法を理解する。
5. 対象者の「生命の尊厳」と「人格を尊重できる態度」を養い、責任遂行のための倫理的行動がとれる。
6. 自己の看護観を養う。

教育内容	科 目	単 位	時間数
基礎看護学	基礎看護学Ⅰ(看護学概論)	1	30
	基礎看護学Ⅱ(看護理論)	1	15
	基礎看護学Ⅲ(看護過程展開技術)	1	30
	基礎看護学Ⅳ(環境・活動と休息の援助技術)	1	30
	基礎看護学Ⅴ(フィジカルアセスメント技術)	1	30
	基礎看護学Ⅵ(清潔の援助技術)	1	30
	基礎看護学Ⅶ(食事・排泄の援助技術)	1	30
	基礎看護学Ⅷ(コミュニケーション技術)	1	30
	基礎看護学Ⅸ(創傷・感染・検査の援助技術)	1	30
	基礎看護学Ⅹ(与薬の援助技術)	1	30
	基礎看護学Ⅺ(経過別・症状別看護)	1	30

科目名		基礎看護学Ⅰ（看護学概論）					看護科		
学年	1 年	学期	前期	分野	専門	時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	瀬戸山 美和			科目 担当者	瀬戸山 美和				
科目 概要	看護者は豊かな人間性や優れた人権意識，明確な目的意識に根差した人材が求められる。したがって生命を大切に，相手を尊重して対象者に応じた行動ができる豊かな感性を育成する。看護倫理は，看護における倫理の必要性を理解する。また，看護の歴史を学ぶことで，現在の看護を取り巻く状況や今後の課題を理解する能力を修得する。								
到達 目標	1. 看護の歴史の変遷と看護の定義を理解し，看護の本質とは何かについて，常に考える態度を身につけることができる。 2. 健康と人々を取り巻くさまざまな環境との関係について理解できる。 3. 看護の実践に携わる職業の成り立ちと機能，及び役割について理解できる。 4. 看護における倫理について考えることができる。 5. チーム医療について理解し，看護職としての役割を考えることができる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	看護とは何か(1)			看護の歴史と変遷(1)			講義	瀬戸山	
2	看護とは何か(2)			看護の歴史と変遷(2)			演習	瀬戸山	
3	看護とは何か(3)			看護の定義，役割と機能			講義	瀬戸山	
4	看護とは何か(4)			看護の継続性と情報共有			演習	瀬戸山	
5	看護の対象の理解(1)			人間の「こころ」と「からだ」(1)			講義	瀬戸山	
6	看護の対象の理解(2)			人間の「こころ」と「からだ」(2)			演習	瀬戸山	
7	看護の対象の理解(3)			生涯発達しつづける存在			講義	瀬戸山	
8	健康の捉え方(1)			健康とはなにか，健康の関連要因 社会の変遷と健康観の変化			講義	瀬戸山	
9	健康の捉え方(2)			人々の生活と健康に関する統計			演習	瀬戸山	
10	看護の提供者(1)			職業としての看護，看護職の養成制度と就業状況			講義	瀬戸山	
11	看護の提供者(2)			看護職者の教育とキャリア開発			講義	瀬戸山	
12	看護における倫理(1)			医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理			講義	瀬戸山	
13	看護における倫理(2)			看護実践における倫理問題への取り組み			講義	瀬戸山	
14	看護の提供のしくみ(1)			サービスとしての看護，看護サービス提供の場			講義	瀬戸山	
15	看護の提供のしくみ(2)			看護をめぐる制度と政策			講義	瀬戸山	
評価方法									
評価指標	定期試験	小テスト	レポート	課 題	－	－	－	－	合計
評価割合(%)	70	－	20	10	－	－	－	－	100
教科書	茂野香おる他 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学① 看護学概論 第17版 医学書院 ¥2,400＋税								
教材・参考図書	杉田暉道 系統看護学講座 別巻 看護史 第7版 医学書院 ¥2,100 ヴァージニア・ヘンダーソン 看護の基本となるもの 日本看護協会出版社 ¥1,050								
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	講義の中で，適宜グループワークを行うため，積極的に参加すること。								

科目名	基礎看護学Ⅱ（看護理論）					看護科			
学年	1 年	学期	後期	分野	専門	時間数	15 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	瀬戸山 美和				科目 担当者	瀬戸山 美和			
科目 概要	看護理論は、看護に関する現象の記述、説明、予測、コントロールを目的とする。看護理論の変遷、看護人間の基本的ニーズと自立、人間の全体性、看護師と患者の相互作用、ケアリングなどが看護理論で考えることができ、対象に応じた対応ができることを理解し、自己の看護観を構築する。								
到達 目標	1. 看護理論の定義や理論の種類を学ぶことで、看護理論について理解できる。 2. 主な看護理論家とその理論を理解できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	理論とは何か			理論の定義、用語の定義、理論の種類 理論の説明			講義 演習	瀬戸山	
2	理論の評価 理論のクリティーク			理論の評価モデル、理論の分析 理論のクリティーク			講義 演習	瀬戸山	
3	理論の理解と看護 実践への応用(1)			・ヒルデガード E. ペプロウ ・マーサ E. ロジャーズ ・ドロセア E. オレム			講義 演習	瀬戸山	
4	理論の理解と看護 実践への応用(2)			・アイモジン M. キング ・マーガレット・ニューマン ・ジーン・ワトソン			講義 演習	瀬戸山	
5	理論の理解と看護 実践への応用(3)			・パトリシア・ベナー ・ジョイス・トラベルビー ・ヴァージニア A. ヘンダーソン ・シスター・カリスタ・ロイ			講義 演習	瀬戸山	
6	学習のまとめ(1)			グループ発表(1)			講義 演習	瀬戸山	
7	学習のまとめ(2)			グループ発表(2)			講義 演習	瀬戸山	
8	学習のまとめ(3)			グループ発表(3)、総括			講義 演習	瀬戸山	
評価方法									
評価指標	定期試験	小テスト	レポート	課題	-	-	-	合計	
評価割合(%)	80	-	10	10	-	-	-	100	
教科書	茂野香おる他 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学① 看護学概論 第17 版 医学書院 ¥2,400＋税								
教材・参考図書	Tomey, A.M.& ALLgood, M.R.／都留伸子監訳 看護理論家とその業績（第3 版） 医学書院 ¥6,720 筒井真優美編集 看護理論（看護理論 20 の理解と実践への応用） 南江堂 ¥2,200 勝又正直：はじめての看護理論（第2 版） 医学書院 ¥2,730 竹尾恵子監修 新訂版事例で学ぶ看護理論 学研 ¥2,400								
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	講義の中で、適宜グループワークを行う。								

科目名	基礎看護学Ⅲ（看護過程展開技術）							看護科	
学年	1 年	学期	後期	分野	専門	時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	村田 大輔				科目 担当者	村田 大輔			
科目 概要	看護の対象者を全人的に把握し，問題と援助の方法を明確化するための具体的方法を展開できる能力を修得することによって，対象者に応じた柔軟な対応ができる能力を修得する。								
到達 目標	1. 看護過程の発展の歴史や構成要素及びその役割と意義について学び，看護過程が看護の根幹をなす科学的思考であることが理解できる。 2. 看護過程を展開するための必要な知識と技術について理解できる。 3. 具体的な事例演習をすることで基本的な看護の展開ができる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	看護記録，看護過程とは			看護記録とは，看護過程の定義と 5 つの構成要素，クリティカルシンキング			講義	村田	
2	情報の整理(1)			情報収集とは，情報収集の方法			講義	村田	
3	情報の整理(2)			ヘンダーソンの基本的ニード 14 項目			講義	村田	
4	情報の整理(3)			ゴードンの 11 の機能的健康パターン			講義	村田	
5	アセスメント(1)			情報の解釈・分析(アセスメント)の仕方(1)			講義	村田	
6	アセスメント(2)			情報の解釈・分析(アセスメント)の仕方(2)			講義	村田	
7	看護診断			NANDA 看護診断の活用法，優先順位			講義	村田	
8	看護計画			目標の設定，看護計画立案			講義	村田	
9	事例展開			紙上事例展開			演習	村田	
10	事例展開			紙上事例展開			演習	村田	
11	事例展開			紙上事例展開			演習	村田	
12	事例展開			紙上事例展開			演習	村田	
13	事例展開			紙上事例展開			演習	村田	
14	事例展開			紙上事例展開			演習	村田	
15	学習のまとめ			事例展開記録，筆記試験			講義	村田	
評価方法									
評価指標	定期試験	小テスト	レポート	－	－	－	－	合計	
評価割合 (%)	30	－	70	－	－	－	－	100	
教科書	有田清子他 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 第 19 版 医学書院 ¥2,700＋税								
教材・参考図書	T. ヘザー・ハードマン他 NANDA - 1 看護診断 2018－2020 第 11 版 ¥3,000＋税 ガーゼニア・ヘンダーソン 看護の基本となるもの 日本看護協会出版社 ¥1,050								
オフィスアワー	火曜日 14：00～18：00								
履修上の 注意点	講義では演習が多いため，積極的に取り組むこと。								
担当教員の実務経験	I C U, 脳神経センター，養護老人ホームにて看護師として 15 年以上の臨床経験があり，科目の内容に精通している。								

科目名	基礎看護学Ⅳ (環境・活動と休息の援助技術)					看護科			
学年	1 年	学期	前期	分野	専門	時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	村田 大輔			科目 担当者	村田 大輔				
科目 概要	環境調整技術は、看護者は環境を多角的にとらえ、対象者の安全・安楽への配慮を具体的な行為として実践できる能力を修得する。また、日常生活活動全般の根幹にかかわる活動・休息の意味と意義を深く考え、対象者一人ひとりのセルフケア能力や個別の状況に応じた援助方法を工夫し、実施できる能力を修得する。								
到達 目標	1. 健康的な日常生活を作り出す必要条件を説明できる。 2. 対象者の日常生活を見つめる看護の視点を述べることができる。 3. 対象者の日常生活への援助（環境・活動と休息）が実施できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	環境調整技術(1)			環境調整援助の基礎知識			講義	村田	
2	環境調整技術(2)			病室の環境のアセスメントと環境整備			講義	村田	
3	環境調整技術(3)			ベッドメイキングの技術と実際(1)			演習	村田	
4	環境調整技術(4)			ベッドメイキングの技術と実際(2)			演習	村田	
5	環境調整技術(5)			臥床患者のリネン交換技術と実際(1)			演習	村田	
6	環境調整技術(6)			臥床患者のリネン交換技術と実際(2)			演習	村田	
7	環境調整技術(7)			臥床患者のリネン交換技術と実際(3)			演習	村田	
8	活動と休息の援助技術(1)			基本的活動・体位の基礎知識			講義	村田	
9	活動と休息の援助技術(2)			ボディメカニクス・体位の援助の実際 (1)			演習	村田	
10	活動と休息の援助技術(3)			ボディメカニクス・体位の援助の実際 (2)			演習	村田	
11	活動と休息の援助技術(4)			移動・移乗・移送の基礎知識			講義	村田	
12	活動と休息の援助技術(5)			移動・移乗・移送援助技術の実際(1)			演習	村田	
13	活動と休息の援助技術(6)			移動・移乗・移送援助技術の実際(2)			演習	村田	
14	活動と休息の援助技術(7)			睡眠の種類と睡眠制御の基礎知識			講義	村田	
15	学習のまとめ			活動・休息のまとめ			講義	村田	
評価方法									
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	実技	－	－	合計	
評価割合 (%)		60	－	20	20	－	－	100	
教科書	茂野香おる他 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 第 18 版 医学書院 ¥2,900＋税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	演習方法：演習項目にある看護技術は演習時間内に実施。また学生各自の修得状況に応じて、実施回数が複数回となる場合もある（再演習）。看護技術の修得にあたっては、事前の自己学習が前提となる。								

科目名		基礎看護学Ⅴ (フィジカルアセスメント技術)					看護学科			
学年	1 年	学期	前期	分野	専門		時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	立岡 孝之			科目 担当者	立岡 孝之					
科目 概要	あらゆる健康レベルにある人々を対象に、それぞれの健康状態を把握する能力を修得する。また、対象者がその人らしくその人にあった生活するにはどのような看護が必要かということを判断する能力を修得する。									
到達 目標	1. ヘルスアセスメントの意義および必要性を説明できる。 2. 対象を全人的にとらえる重要性を説明できる。 3. 身体的情報を得るための基本的技術を用い、フィジカルアセスメントが実施できる。 4. 対象者の身体情報についての健康レベルや正常・異常の判断ができる。 5. 対象のヘルスアセスメントを行う上で個人情報保護と倫理的配慮に基づく、礼節、態度を遵守できる。									
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員	
1	ヘルスアセスメントと看護の役割			身体の理解とフィジカルアセスメント				講義	立岡	
2	フィジカルアセスメント(1)			フィジカルアセスメントの必要物品				講義	立岡	
3	フィジカルアセスメント(2)			フィジカルアセスメントのテクニック(問診)				実技	立岡	
4	フィジカルアセスメント(3)			フィジカルアセスメントのテクニック (視診, 触診, 打診, 聴診)				実技	立岡	
5	フィジカルアセスメント(4)			フィジカルアセスメントのテクニック (バイタルサイン測定)				実技	立岡	
6	系統別アセスメント(1)			リンパ系・生殖器のアセスメント				実技	立岡	
7	系統別アセスメント(2)			頭部・顔面・頸部のアセスメント				実技	立岡	
8	系統別アセスメント(3)			鼻・耳・口腔・咽頭・眼のアセスメント				実技	立岡	
9	系統別アセスメント(4)			肺(呼吸器系)のアセスメント				実技	立岡	
10	系統別アセスメント(5)			心臓・血管系のアセスメント				実技	立岡	
11	系統別アセスメント(6)			腹部(消化器系)のアセスメント				実技	立岡	
12	系統別アセスメント(7)			筋・神経のアセスメント				実技	立岡	
13	心理的・社会的側面のアセスメント			心理社会的側面を理解する問診方法				実技	立岡	
14	フィジカルアセスメント活用(1)			シミュレーション事例(急変時および症状別)				実技	立岡	
15	フィジカルアセスメント活用(2)			シミュレーション事例(集中治療室の患者)				実技	立岡	
評価方法										
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)		70	10	20	-	-	-	-	100	
教科書	茂野香おる他 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 第18版 医学書院 ¥2,900+税									
教材・参考図書		任和子他 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第1版 医学書院 ¥5,500+税								
オフィスアワー		木曜日 14:00～18:00								
履修上の 注意点	実技方法：実技項目にある看護技術は実技時間内に実施。また学生各自の修得状況に応じて、実施回数 が複数回となる場合もある（再実技）。看護技術の修得にあたっては、事前の自己学習が前提となる。									
担当教員の実務経験		急性期から慢性期，退院支援まで8年の臨床経験があり，科目の内容に精通している。								

科目名	基礎看護学Ⅵ (清潔の援助技術)					看護科			
学年	1 年	学期	前期	分野	専門	時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	平井 亨樹			科目 担当者	平井 亨樹				
科目 概要	自分自身で身体を清潔に保つことや、必要に応じて衣服を着替えることが困難な状況にある人たちへの専門的な援助技術を修得し、対象に応じて柔軟に援助ができる能力を修得する。								
到達 目標	1. 健康的な日常生活を作り出す必要条件を説明できる。 2. 対象者の日常生活を見つめる看護の視点を述べるができる。 3. 対象者の日常生活への援助(清潔・衣生活)が実施できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	清潔・衣生活援助技術(1)			清潔援助の基礎知識(1)			講義	平井	
2	清潔・衣生活援助技術(2)			清潔援助の基礎知識(2)			講義	平井	
3	清潔・衣生活援助技術(3)			全身清拭・寝衣交換の援助の実際(1)			演習	平井	
4	清潔・衣生活援助技術(4)			全身清拭 寝衣交換の援助の実際(2)			演習	平井	
5	清潔・衣生活援助技術(5)			全身清拭・寝衣交換の援助の実際(3)			演習	平井	
6	清潔・衣生活援助技術(6)			全身清拭・寝衣交換の援助の実際(4)			演習	平井	
7	清潔・衣生活援助技術(7)			全身清拭 寝衣交換の援助の実際(5)			演習	平井	
8	清潔・衣生活援助技術(8)			全身清拭 寝衣交換の援助の実際(6)			演習	平井	
9	清潔・衣生活援助技術(9)			全身清拭 寝衣交換の援助の実際(7)			演習	平井	
10	清潔・衣生活援助技術(10)			全身清拭 寝衣交換の援助の実際(8)			演習	平井	
11	清潔・衣生活援助技術(11)			洗髪・整容の実際(1)			演習	平井	
12	清潔・衣生活援助技術(12)			洗髪・整容の実際(2)			演習	平井	
13	清潔・衣生活援助技術(13)			手浴・足浴の実際(1)			演習	平井	
14	清潔・衣生活援助技術(14)			手浴・足浴の実際(2)			演習	平井	
15	まとめ			まとめ			講義	平井	
評価方法									
評価指標		定期試験		レポート	実技	-	-	合計	
評価割合(%)		50		20	30	-	-	100	
教科書	茂野香おる他 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 第18版 医学書院 ¥2,900+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	演習方法：演習項目にある看護技術は演習時間内に実施。また学生各自の習得状況に応じて、放課後に演習が必要となる。看護技術の習得にあたっては、事前の自己学習が前提となる。								
担当教員の実務経験		急性期混合病棟にて看護師として10年間の臨床経験があり、新人教育担当も担っており、科目の内容に精通している。							

科目名	基礎看護学Ⅶ (食事・排泄の援助技術)					看護科			
学年	1 年	学期	前期	分野	専門	時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	濱田 純香				科目 担当者	濱田 純香, 上野 満里			
科目 概要	食事援助技術は、人が生きることの根幹にかかわる食事という行為の意味と意義を深く考え、それに配慮できる能力を修得する。排泄援助技術は、とくに自立と個別性を重視する技術であり、看護者はどうしたら対象者の個別性を大切にし、自立を促し、羞恥心を最小限にすることができるかを考えながら、ケアを計画・実施できる能力を修得する。さらに、対象に応じて柔軟に援助ができる能力を修得する。								
到達 目標	1. 健康的な日常生活を作り出す必要条件を説明できる。 2. 対象者の日常生活を見つめる看護の視点を述べることができる。 3. 対象者の日常生活への援助(排泄, 食事)が実施できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	食事援助技術(1)			食事援助の基礎知識			講義	上野	
2	食事援助技術(2)			栄養状態および接触能力, 食欲や食に対する認識のアセスメント			講義	上野	
3	食事援助技術(3)			食事摂取介助の基礎知識			講義	上野	
4	食事援助技術(4)			食事摂取介助の実際			演習	上野	
5	食事援助技術(5)			オーラルケアの実際			演習	上野	
6	食事援助技術(6)			摂食嚥下訓練			演習	上野	
7	食事援助技術(7)			非経口的栄養摂取の援助			講義	上野	
8	排泄援助技術(1)			自然排尿および自然排便の基礎知識			講義	濱田	
9	排泄援助技術(2)			床上での排泄援助(尿器・便器)			演習	濱田	
10	排泄援助技術(3)			陰部洗浄・おむつの当て方(1)			演習	濱田	
11	排泄援助技術(4)			陰部洗浄・おむつの当て方(2)			演習	濱田	
12	排泄援助技術(5)			トイレ・ポータブルトイレ介助の実際			演習	濱田	
13	排泄援助技術(6)			導尿(一時的・持続的導尿)ストーマの基礎知識と援助			講義	濱田	
14	排泄の援助技術(7)			排便を促す援助の基礎知識, 浣腸・摘便の基礎知識			講義	濱田	
15	学習のまとめ			食事と排泄のまとめ			講義	濱田	
評価方法									
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	実技	-	-	合計	
評価割合(%)		80		20		-	-	100	
教科書	茂野香お他 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 第18版 医学書院 ¥2,900+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	看護技術の習得にあたっては、事前の自己学習が前提となる。演習項目にある看護技術は演習時間内に実施するが、学生各自の習得状況に応じて、実施回数が複数回となる場合もある(再演習)。								

科目名		基礎看護学Ⅷ (コミュニケーション技術)					看護科		
学年	1 年	学期	前期・後期	分野	専門	時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	大森 幸江			科目 担当者	大森 幸江, 南原 智子				
科目 概要	コミュニケーション技術を活用し、看護実践において対象者との関係を成立・発展させるための高度なコミュニケーション能力を修得する。さらに既習のコミュニケーションを活用し、看護におけるカウンセリングや心理療法, 様々な健康場面にある対象者への健康教育の支援の意味や必要性・方法を理解する。演習では専門的な援助技術を活用し、対象に応じて柔軟に援助ができる能力を修得する。								
到達 目標	1. コミュニケーションの意義と目的, 医療におけるコミュニケーションの重要性を理解できる。 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程を理解し, 関係構築のための基本を理解することで, 自己のコミュニケーションを振り返ることができる。 3. 看護における健康教育の支援の目的と意義を理解することができる。 4. 対象の理解ができ, それぞれの対象に合った指導方法で実施ができる。								
回数	単元項目		授業内容					形態	担当教員
1	コミュニケーション(1)		コミュニケーションの意義と目的					講義	大森
2	コミュニケーション(2)		コミュニケーションの構成要素と成立過程					講義	大森
3	コミュニケーション(3)		関係構築のためのコミュニケーションの基本					講義	大森
4	コミュニケーション(4)		効果的なコミュニケーションの実際					講義	大森
5	コミュニケーション(5)		コミュニケーション障害への対応					講義	大森
6	対人関係の振り返り(1)		関係性をアセスメントする (プロセスレコードの活用)					講義	大森
7	対人関係の振り返り(2)		プロセスレコードによる振り返り					演習	大森
8	カウンセリング		カウンセリング・心理療法の理論とスキル 看護におけるカウンセリングの適用					講義	大森
9	健康教育支援技術(1)		健康の維持・増進を目指す時期の看護					講義	南原
10	健康教育支援技術(2)		健康の維持・増進を目指す時期の人々への看護援助					講義	南原
11	健康教育支援技術(3)		授業デザインの 6 つの構成要素 (ねがい, 目標, 学習者の実態, 教材の研究, 教授方略・学習環境, 条件)					講義	南原
12	健康教育支援技術(4)		対象者別指導過程 (方法) の企画					講義	南原
13	健康教育支援技術(5)		対象者別指導過程 (方法) の作成					演習	南原
14	健康教育支援技術(5)		対象者別指導過程 (方法) の展開					演習	南原
15	学習のまとめ		コミュニケーション・健康教育支援のまとめ					講義	南原
評価方法									
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	合計	
評価割合 (%)		70	20	10	-	-	-	100	
教科書	茂野香おる他 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 第19版 医学書院 ¥2,970+税 武井麻子他 系統看護学講座 専門分野 精神看護学② 精神看護の展開 第6版 医学書院 ¥2,530+税 香春知恵他 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学④ 臨床看護総論 第7版 医学書院 ¥2,750+税								
教材・参考図書	目黒悟 看護教育を創る授業デザイン メヂカルフレンド社 ¥2,420								
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いため理解度, 進捗状況に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。								

科目名		基礎看護学Ⅸ (創傷・感染・検査の援助技術)					看護科		
学年	1 年	学 期	後期	分野	専門	時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	中村 春美				科目 担当者	中村 春美			
科目 概要	対象者にとっての安全な治療・処置の実践についての知識・技術を習得する。また、対象者の健康状態を把握し、看護の必要性を的確に判断できる能力と対象に応じて柔軟に援助ができる能力を修得する。								
到達 目標	1. 感染の成立条件及び施設内で発生する院内感染を防止するための方法を実施できる。 2. 創傷の処置、褥瘡予防の援助の方法が理解できる。 3. 現代の医療で多く行われている侵襲的処置介助の技術及びそれに関わる看護独自の責務が理解できる。 4. 診察・検査・治療における看護師の役割が理解できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	感染防止の技術(1)			スタンダード・プリコーション, 手指衛生			講義 演習	中村	
2	感染防止の技術(2)			感染経路別予防策, 洗浄・消毒・滅菌, 無菌操作			演習	中村	
3	感染防止の技術(3)			感染性廃棄物の取り扱い, 針刺し防止策			講義	中村	
4	創傷管理技術(1)			創傷管理・創傷処置, 包帯法, 褥瘡予防ケア			講義	中村	
5	創傷管理技術(2)			創傷処置を必要とする対象者の看護			演習	中村	
6	生体機能管理技術(1)			血液検査, 血糖測定			講義	中村	
7	生体機能管理技術(2)			検尿, 検便, 喀痰検査			講義	中村	
8	生体機能管理技術(3)			心電図・パルスオキシメーター			講義	中村	
9	診察・検査介助技術(1)			X線撮影, CT, MRI, 内視鏡検査, 超音波検査, 肺機能検査, 核医学検査			講義	中村	
10	診察・検査介助技術(2)			採血の実際			講義	中村	
11	診察・検査介助技術(3)			胸腔穿刺, 腹腔穿刺, 腰椎穿刺, 骨髄穿刺			講義	中村	
12	呼吸・循環を整える技術 (1)			酸素吸入療法の基礎知識とその実際			講義 演習	中村	
13	呼吸・循環を整える技術 (2)			薬剤吸入療法の基礎知識とその実際			講義	中村	
14	呼吸・循環を整える技術 (3)			一時的吸引, 持続的吸引の実際			講義	中村	
15	学習のまとめ			感染・創傷処置・診察・検査・治療のまとめ			講義	中村	
評価方法									
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	実技	-	-	合計	
評価割合 (%)		60	10	10	20	-	-	100	
教科書	茂野香おる他 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 第18版 医学書院 ¥2,900+税								
教材・参考図書		適宜紹介する。							
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。							
履修上の 注意点	看護技術の習得にあたっては、事前の自己学習が前提となる。演習項目にある看護技術は演習時間内に実施するが、学生各自の習得状況に応じて、実施回数が複数回となる場合もある(再演習)。								
担当教員の実務経験		回復期および慢性期, 退院支援まで 19年の様々な臨床経験があり, 科目の内容に精通している。							

科目名		基礎看護学Ⅹ (与薬の援助技術)					看護科		
学年	1 年	学期	後期	分野	専門	時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	平井 亨樹				科目 担当者	平井 亨樹			
科目 概要	対象者自身にしか体験・理解することができない苦痛への緩和法，それに対する安楽確保の技術，また，与薬に必要な技術を修得し，看護の必要性を的確に判断できる能力と対象に応じて柔軟に援助ができる能力を修得する。								
到達 目標	1. 与薬や輸血を安全に実施するための方法が理解できる。 2. 与薬や輸血を安全に実施するための適切な物品の選択と基本的な手順が理解できる。 3. 苦痛の緩和・安楽確保の技術が実施できる。 4. 誤薬防止，患者誤認防止，チューブ類の予定外抜去防止，転倒転落防止，薬剤・放射線曝露の防止について理解できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	与薬の技術(1)			薬物の基本的性質，薬剤等の管理			講義	平井	
2	与薬の技術(2)			経口与薬，吸入，点眼，点鼻，経皮的，座薬の技術			講義 演習	平井	
3	与薬の技術(3)			注射の種類と特徴，注射針・注射器の構造と種類			講義	平井	
4	与薬の技術(4)			皮下注射，皮内注射，筋肉内注射			講義	平井	
5	与薬の技術(5)			静脈内注射（点滴静脈内注射）			講義	平井	
6	与薬の技術(6)			静脈内注射（中心静脈カテーテル）			講義	平井	
7	与薬の技術(7)			輸液速度の調整，輸液ポンプ			演習	平井	
8	与薬の技術(8)			輸血管理の基礎知識			講義	平井	
9	安全確保の技術(1)			誤薬防止，チューブ類の予定外抜去防止			演習	平井	
10	安全確保の技術(2)			患者誤認防止，転倒転落防止			演習	平井	
11	安全確保の技術(3)			薬剤・放射線曝露の防止			講義	平井	
12	苦痛の緩和・安楽確保(1)			体位変換，ボディメカニクス（1）			講義	平井	
13	苦痛の緩和・安楽確保(2)			体位変換，ボディメカニクス（2）			演習	平井	
14	苦痛の緩和・安楽確保(3)			罨法の実際，身体ケアを通じてもたらされる安楽			演習	平井	
15	学習のまとめ			与薬・輸血・安全安楽確保のまとめ			講義	平井	
評価方法									
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	実技	－	－	合計	
評価割合(%)		70		30		－	－	100	
教科書	茂野香おる他 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 第18版 医学書院 ¥2,900＋税								
教材・参考図書		適宜紹介する。							
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。							
履修上の 注意点	看護技術の習得にあたっては，事前の自己学習が前提となる。演習項目にある看護技術は演習時間内に実施するが，学生各自の習得状況に応じて，実施回数が複数回となる場合もある(再演習)。								
担当教員の実務経験			急性期混合病棟にて看護師として10年間の臨床経験があり，新人教育担当も担っており，科目の内容に精通している。						

科目名	基礎看護学Ⅺ (経過別・症状別看護)						看護科		
学年	1 年	学期	後期	分野	専門	時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	上野 満里			科目 担当者	上野 満里				
科目 概要	対象者の健康を経過別に分け、それぞれの経過をたどる患者の看護と実際の援助の方法を修得する。また、主要症状のメカニズムの理解とともに、各症状に対する看護の必要性和症状緩和にむけた援助が実践できる能力を修得する。								
到達 目標	1. 看護の対象の健康を経過別に分け、それぞれの経過をたどる患者の看護を学び、実際の援助の方法が理解できる。 2. 主要症状について理解し、その患者の看護について理解できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	看護の対象理解			対象者のライフサイクル、家族のニード			講義	上野	
2	経過に基づく看護(1)			急性期・慢性期・回復期の患者への看護			講義	上野	
3	経過に基づく看護(2)			リハビリ期・終末期の患者への看護			講義	上野	
4	終末期看護			エンゼルケア			講義	上野	
5	主要症状への看護(1)			症状別看護の考え方			演習	上野	
6	主要症状への看護(2)			アセスメントの実際			演習	上野	
7	治療別看護(1)			治療や処置が対象者へ与える影響を考える			講義	上野	
8	治療別看護(2)			治療別看護の実際			演習	上野	
9	治療別看護(3)			処置別看護の実際			演習	上野	
10	治療別看護(4)			身体侵襲を伴う検査と看護			講義	上野	
11	事例展開(1)			情報の捉え方と対象理解			演習	上野	
12	事例展開(2)			看護計画の立案			演習	上野	
13	事例展開(3)			看護の実践			演習	上野	
14	医療機器			医療機器の取り扱い方法と留意点			講義・演習	上野	
15	学習のまとめ			症状別看護のまとめ			講義	上野	
評価方法									
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	合計	
評価割合(%)		60	-	40	-	-	-	100	
教科書	香春知永他 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学④ 臨床看護総論 第7版 医学書院 ¥2,500＋税 茂野香おる他 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 第18版 医学書院 ¥2,900＋税								
教材・参考図書	高木永子 看護過程に沿った対症看護 Gakken 2010 ¥4,600＋税								
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いため理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。								

地 域・在 宅 看 護 論

<ねらい>

地域・在宅看護論は、すべてのライフサイクルにある人々とその家族を対象として、地域生活における看護のあり方を修得する。また在宅療養者の家庭に出向いて行う看護であり、対象者へのマナーや看護者としての配慮ある行動が必要とされる。在宅看護は療養者を含め、家族全体のダイナミクスをとらえた幅広い視野を持ち、病状や生活上の問題に対する的確な判断能力と援助技術及び社会資源の活用や他職種との連携について理解し、看護を実践できる能力を養う。さらに人生の終焉にある対象者への全人的苦痛に寄り添い、看護の役割を考える機会とする。

<目 的>

在宅療養者とその家族に対して、在宅看護に必要な知識と看護技術を修得し、在宅療養を支援できる看護能力を養う。

<目 標>

1. 地域・在宅看護の必要性を理解する。
2. 地域・在宅看護の概念と変遷について理解する。
3. 地域・在宅看護の対象は療養者のみに限定せず、その家族を含め支援することを理解する。
4. 地域・在宅看護の基盤となる法律・政策を理解する。
5. 療養者の日常生活上の援助技術を修得する。
6. 医療依存度の高い療養者と家族への援助を理解する。

<構成>

教育内容	科 目	単位	時間数
地域・在宅 看護論	地域・在宅看護論Ⅰ (人々の暮らしと健康)	1	15
	地域・在宅看護論Ⅱ (人々の暮らしと健康を支える看護)	2	30
	地域・在宅看護論Ⅲ (地域で生活する人々とその家族の看護実践)	1	30
	地域・在宅看護論Ⅳ (エンディングケア)	1	30

科目名				地域・在宅看護論Ⅰ (人々の暮らしと健康)				看護科											
学年		1 年		学期		後期		分野		専門		時間数		15 時間		単位数		1 単位	
科目 責任者		上野 満里								科目 担当者		上野 満里							
科目 概要		地域で暮らすあらゆるライフステージにある人々の生活、人と人とのつながりおよび環境を知り、地域で暮らす「生活者」を理解し、地域・在宅看護を展開する基礎的能力を修得する。																	
到達 目標		1. 地域で暮らす人々を理解できる。 2. 地域で支え合って暮らしている人々を理解できる。 3. 地域の中で、自己の役割について理解することができる。 4. 地域の生活環境を理解することができる。																	
回数		単元項目						授業内容						形態		担当教員			
1		人々の暮らしと地域・在宅看護 暮らしの基盤としての地域の理解						人々の暮らしの理解、地域・在宅看護の役割、暮らしと地域、暮らしと地域を理解するための考え方、地域包括ケアシステムと地域共生社会						講義		上野			
2		地域・在宅看護の対象						地域・在宅看護の対象者、家族の理解、地域に暮らす対象者の理解と看護						講義		上野			
3		地域における暮らしを支える看護(1)						暮らしを支える地域・在宅看護、暮らしの環境を整える看護、広がる看護の対象と提供方法、地域における家族への看護、地域におけるライフステージに応じた看護						講義		上野			
4		地域における暮らしを支える看護(2)						地域での暮らしにおけるリスクの理解 地域での暮らしにおける災害対策						講義		上野			
5		地域における暮らしを支える看護(3)						地域共生社会を構築するための暮らしや災害対策						演習		上野			
6		地域・在宅看護実践の場と連携						おもな地域・在宅看護実践の場 地域・在宅看護における多職種連携						講義		上野			
7		地域・在宅看護にかかわる制度とその活用						介護保険・医療保険制度、地域・在宅看護にかかわる医療提供体制、地域保健にかかわる法制度、高齢者に関する法制度、障害者・難病に関する法制度、公費負担医療に関する法制度、権利保障に関連する制度						講義 演習		上野			
8		学習のまとめ						まとめ						講義		上野			
評価方法																			
評価指標				定期試験		小テスト		レポート		－		－		－		合計			
評価割合(%)				80		－		20				－		－		100			
教科書		河原加代子他 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論① 地域・在宅看護の基盤 第6版 ￥2,000+税																	
教材・参考図書		適宜紹介する。																	
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。																	
履修上の 注意点		講義の内容は専門性が高いため理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。																	

科目名		地域・在宅看護論Ⅱ (人々の暮らしと健康を支える看護)				看護科			
学年	2 年	学期	前期	分野	専門	時間数	30 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	豊永 由香			科目 担当者	豊永 由香				
科目 概要	地域包括ケアシステムを理解し，地域で暮らす人々のパートナーシップに基づき，地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを継続的に支援する看護師の役割を理解できる能力を修得する。								
到達 目標	1．地域包括ケアシステムの意義と概念を理解する。 2．看護が提供される多様な場を理解する。 3．在宅看護に必要な法・制度・施策を理解する。 4．地域で生活することを支援するためのマネジメントを理解する。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	地域・在宅看護の展開(1)			地域・在宅看護の特徴，看護過程の基本			講義	豊永	
2	地域・在宅看護の展開(2)			地域・在宅看護過程の展開方法			講義	豊永	
3	暮らしを支える看護技術(1)			暮らしの場で看護をするための心構え，セルフケアを支える対話・コミュニケーション，地域・在宅看護における家族を支える看護			講義	豊永	
4	暮らしを支える看護技術(2)			地域・在宅看護における安全をまもる看護			講義 演習	豊永	
5	地域・在宅における時期別の看護			健康な時期の看護，外来受診期における看護，入院時の看護，在宅療養準備期（退院前）の看護，在宅療養移行期の看護，在宅療養安定期の看護，急性憎悪期の看護			講義	豊永	
6	地域・在宅看護の事例展開(1)			事例を学ぶにあたって			演習	豊永	
7	地域・在宅看護の事例展開(2)			慢性閉塞性肺疾患の療養者の事例展開(1)			演習	豊永	
8	地域・在宅看護の事例展開(3)			慢性閉塞性肺疾患の療養者の事例展開(2)			演習	豊永	
9	地域・在宅看護の事例展開(4)			慢性閉塞性肺疾患の療養者の事例展開(3)			演習	豊永	
10	地域・在宅看護の事例展開(5)			筋萎縮性側索硬化症の療養者の事例展開(1)			演習	豊永	
11	地域・在宅看護の事例展開(6)			筋萎縮性側索硬化症の療養者の事例展開(2)			演習	豊永	
12	地域・在宅看護の事例展開(7)			筋萎縮性側索硬化症の療養者の事例展開(3)			演習	豊永	
13	地域共生社会における多職種連携・多職種チームでの協働			地域・在宅看護における多職種連携・多職種チームでの協働，医療・福祉・介護関係者との連携・協働，医療・福祉・介護関係者以外との連携・協働，地域共生社会を実現するために			講義	岩崎	
14	地域・在宅看護マネジメント			地域・在宅看護マネジメントとは，多様な場における地域・在宅看護マネジメント			演習	岩崎	
15	学習のまとめ			まとめ			演習	豊永	
評価方法									
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	合計	
評価割合(%)		70	-	30		-	-	100	
教科書	河原加代子著 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論② 地域・在宅看護の実践 第 6 版 ￥2,500+税 川野あゆみ他 強みと弱みからみた 地域・在宅看護過程 第 2 版 ￥3,800+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いため理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。								

科目名		地域・在宅看護論Ⅲ (地域で生活する人々とその家族の看護実践)				看護科			
学年	2 年	学期	前期	分野	専門	時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	豊永 由香			科目 担当者	豊永 由香, 一宮 美香				
科目 概要	地域で暮らす人々とその家族おアセスメントし, 対象を取り巻く環境と状況に応じた基本的な援助技術, 医療的技術の実践に結び付けて看護を展開できる能力を修得する。								
到達 目標	1. 地域で療養生活を送る人と, 家族の看護に必要なアセスメントを行い, 看護技術を応用し, 在宅における生活援助技術を修得する。 2. 健康レベルに応じた看護の場の移行に伴う看護を理解する。 3. 在宅療養に必要な医療機器管理を療養者, 家族とともに管理する知識を修得する。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	地域における暮らしを支える看護実践(1)			療養環境調整に関する地域・在宅看護技術			講義	一宮・豊永	
2	地域における暮らしを支える看護実践(2)			活動・休息に関する地域・在宅看護技術			講義	一宮	
3	地域における暮らしを支える看護実践(3)			食生活・嚥下に関する地域・在宅看護技術, 経管栄養・在宅中心静脈栄養法			講義	一宮	
4	地域における暮らしを支える看護実践(4)			排泄に関する地域・在宅看護技術, 清潔・衣生活に関する地域・在宅看護技術			講義	一宮	
5	地域における暮らしを支える看護実践(5)			苦痛の緩和・安全確保に関する地域・在宅看護技術, 呼吸・循環に関する地域・在宅看護技術			講義	一宮	
6	地域における暮らしを支える看護実践(6)			創傷管理に関する地域・在宅看護技術, 与薬に関する地域・在宅看護技術			講義	一宮	
7	地域における暮らしを支える看護実践(7)			事例を用いた地域・在宅看護技術の展開 (1)			演習	一宮	
8	地域における暮らしを支える看護実践(8)			事例を用いた地域・在宅看護技術の展開 (2)			演習	一宮	
9	地域における暮らしを支える看護実践(9)			事例を用いた地域・在宅看護技術の展開 (3)			演習	一宮	
10	地域における暮らしを支える看護実践(10)			事例を用いた地域・在宅看護技術の展開 (4)			演習	一宮	
11	地域における暮らしを支える看護実践(11)			事例を用いた地域・在宅看護技術の展開 (5)			演習	一宮	
12	地域における暮らしを支える看護実践(12)			事例を用いた地域・在宅看護技術の展開 (6)			演習	一宮	
13	地域における暮らしを支える看護実践(13)			事例を用いた地域・在宅看護技術の展開 (7)			演習	一宮	
14	地域における暮らしを支える看護実践(14)			事例を用いた地域・在宅看護技術の展開 (8)			演習	一宮	
15	学習のまとめ			まとめ			講義	一宮・豊永	
評価方法									
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	実技	-	-	合計	
評価割合 (%)		40	-	20	40	-	-	100	
教科書	河原加代子著 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論② 地域・在宅看護の実践 第6版 ¥2,500+税								
教材・参考図書		適宜紹介する。							
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。							
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いため理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。								

科目名	地域・在宅看護論Ⅳ (エンディングケア)					看護科				
学年	2 年	学期	後期	分野	専門	時間数	30 時間	単位数	1 単位	
科目 責任者	大森 幸江				科目 担当者	大森 幸江, 岩崎 瑞枝, 廣畑 由美子, 金崎 美穂				
科目 概要	人生の最終段階を迎える対象者の身体的・精神的・社会的・文化的特徴を理解し, 対象者を全人的に捉える能力を修得する。また, 生活環境別・発達段階別に終末期にある対象者とその家族への看護を展開できる能力を修得する。									
到達 目標	1. 終末期にある対象者の特徴を理解する。 2. 終末期にある対象者とその家族への看護を考えることができる。									
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員	
1	終末期看護			歴史的背景, 世界と日本の終末期看護の変遷				講義	大森	
2	チームアプローチ			専門職種の役割, 多職種連携, チーム医療				講義	大森	
3	コミュニケーション			SHARE, NURSE プログラム, 難しい場面でのコミュニケーション				演習	大森	
4	全人的ケアの実践(1)			身体的・精神的・社会的・スピリチュアルの特徴				講義	廣畑	
5	全人的ケアの実践(2)			身体的苦痛と看護				講義	大森	
6	全人的ケアの実践(3)			スピリチュアルペインとケアの実際				講義	岩崎	
7	発達段階別緩和ケア(1)			小児, 思春期				講義	大森	
8	発達段階別緩和ケア(2)			成人期, 老年期				講義	岩崎	
9	家族ケア			家族ケアのニーズ, 家族ケア, グリーフケア				講義	大森	
10	臨死期のケア			臨死期の特徴, 死亡前後のケア, 急変時のケア				講義	大森	
11	在宅における看取り (1)			社会資源の活用, 地域における看取りの意義				講義	金崎	
12	在宅における看取り (2)			多職種連携, 訪問診療と訪問看護の実際				講義	大森	
13	倫理的課題			意思決定支援, 臨床で生じる倫理的問題				講義	廣畑	
14	医療スタッフのケア			ストレスマネジメント				講義	大森	
15	学びのまとめ			まとめ, 死生観を述べる				講義	大森	
評価方法										
評価指標		定期試験	小テスト	レポート		-	-	合計		
評価割合(%)		60	10	30		-	-	100		
教科書	恒藤暁ほか 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 第3版 医学書院 ¥2,200+税 河原加代子ほか 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論② 地域・在宅の実践 第6版 医学書院 ¥2,500+税 上別府圭子ほか 系統看護学講座 別巻 家族看護学 第2版 医学書院 ¥2,300+税									
教材・参考図書	石川ひろのほか 系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 第3版 医学書院 他									
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。									
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いため理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。									

成人看護学

<ねらい>

成人看護学が対象とする「成人」とは、身体的及び心理・社会的に成長・成熟した人、すなわち「大人」である。成人看護学は、大人を対象に、その人にとって最適な健康を維持、促進するための看護援助を学ぶ。成人看護学Ⅰでは、成人期にある人の成長・成熟により、青年期、壮年期、向老期と3期に分け学習を深める。成人期は、人の一生の中の大半を占める時期と重なる。この時期こそ自立して社会や環境との関わりを持ち、その中で日々の生活を営み、自らの意思決定による判断と責任で行動する。社会的役割のみならず、家庭においても大きな役割を担い、社会的役割や責任が大きいという特徴を持つ。そのため、成人の健康課題はストレスやライフスタイル、加齢に伴う心身の機能も関与する。これらのことを複合的に学び、成人期にある対象を理解する。

成人看護学Ⅱ～Ⅴでは、各健康段階における身体の機能障害に焦点をあて学習を深める。成人看護学Ⅱでは呼吸循環機能障害、成人看護学Ⅲでは消化器、運動機能障害、成人看護学Ⅳでは脳・神経・運動器機能障害、成人看護学Ⅴでは血液・免疫・内分泌・腎臓・女性生殖器機能障害で構成する。これらの機能障害により、生命の危機・苦痛、悪化と再発の危機、生活障害、治療からの影響を引き起こすことを理解し、援助の具体的方法を学び、実践できるようにする。また対象の健康の保持増進・機能障害からの回復を目指し、その人がその人らしく生活できるセルフケアアプローチを学習する。

<目 的>

成人期にある対象者の特徴を理解し、健康の保持増進および健康障害時の看護を学ぶ。

<目 標>

1. 成人期にある対象者の特徴と健康課題を理解する。
2. 成人期にある対象者の健康問題の特徴とその背景を理解する。
3. 対象者の健康保持・増進および機能障害からの回復を促す看護を理解する。

<構 成>

教育内容	科 目	単位	時間数
成人看護学	成人看護学Ⅰ（成人保健）	1	15
	成人看護学Ⅱ（急性期）	1	30
	成人看護学Ⅲ（周手術期）	1	30
	成人看護学Ⅳ（回復リハ期）	1	30
	成人看護学Ⅴ（慢性期）	1	30

科目名	成人看護学Ⅰ（成人保健）					看護科				
学年	1 年	学期	後期	分野	専門	時間数	15 時間	単位数	1 単位	
科目 責任者	平井 亨樹				科目 担当者	平井 亨樹				
科目 概要	成人看護学概論として，成人期を発達理論から学ぶ。ライフサイクルにおける長い期間である成人期の健康および健康障害や健康危機状況，看護の特徴について学びを深める。さらに成人看護に有用な概念について理解し，専門的な知識を修得し，実践に応用できる能力を修得する。									
到達 目標	1. 成人期にある対象の特性を理解できる。 2. 成人期にある対象の看護に有用な概念・理論を理解できる。 3. 成人期における健康問題の特徴を知り，ニーズに応じた看護を理解できる。									
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員	
1	成人と生活			ライフサイクルから見た成人の理解 発達課題と健康課題				講義	平井	
2	成人期にある人々の保健行動と健康問題			日本の健康をめぐる現状と看護の役割 健康日本 21，生活習慣病とその予防				演習	平井	
3	成人期の健康レベルに対応した看護(1)			健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 「危機理論」				講義	平井	
4	成人期の健康レベルに対応した看護(2)			慢性病との共存を支える看護 「病みの軌跡」「エンパワメント」「アンドラゴジー」				講義	平井	
5	成人の健康生活を促すための看護技術(1)			治療過程にある患者への看護技術 「ストレス－マネジメント」「コーピング」				講義	平井	
6	成人の健康生活を促すための看護技術(2)			症状マネジメントにおける看護技術 「セルフケア」				講義	平井	
7	成人期の健康と看護			多様な健康観に対応する看護の方向性 －自己の健康上の課題への取り組みと考察－				演習	平井	
8	学習のまとめ			成人期における看護のまとめ				講義	平井	
評価方法										
評価指標	定期試験	小テスト	レポート	課 題	－	－	－	－	合計	
評価割合(%)	80		20		－	－	－	－	100	
教科書	小松浩子ほか 系統看護学講座 専門分野 成人看護学① 成人看護学総論 第16版 医学書院 ￥2,300+税 香春知永ほか 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学④ 臨床看護総論 第7版 医学書院 ￥2,500+税									
教材・参考図書	厚生統計協会編集 国民衛生の動向 厚生統計協会出版 ￥2,450+税									
オフィスアワー	金曜日 14：00～18：00									
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いので，理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。 成人看護学の基礎として学び，必要に応じて復習をしておくこと。 ニュース，新聞，インターネットなどで医療・看護に関する情報に触れ，考える習慣を持つこと。									
担当教員の実務経験	急性期から慢性期，退院支援まで8年の臨床経験があり，科目の内容に精通している。									

科目名	成人看護学Ⅱ（急性期）						看護学科			
学年	2 年	学期	前期	分野	専門		時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	平井 亨樹				科目 担当者	白石 淳也，野田 建二，平井 亨樹				
科目 概要	セルフケアという概念を軸に捉え，「急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力」に必要な知識と支援方法を学ぶ。自身の健康を維持・セルフケアすることが困難な危機的状況に焦点を当て，一人ひとりの健康に沿う看護について考える。また，対象をセルフケアが低下した生活者として捉え，健康観に沿い身体面の支援だけでなく，精神・社会面の指導・支援の必要性をリハビリテーション看護の視点も踏まえて学ぶ。そして，専門的知識・技術・態度を統合し，具体的な事例を展開することで，対象に応じた実践に活かせる看護展開能力を養う。									
到達 目標	1. 急激な身体侵襲により急性期から回復期にある対象の特徴および看護を理解できる 2. 対象を生活者として捉え，指導・支援の方法が理解できる。 3. 急激な生体侵襲による生体変化を理解し，必要な看護を考えることができる。									
回数	単元項目				授業内容				形態	担当教員
1	クリティカルケアの考え方				救急・クリティカルケア看護の概要				講義	平井
2	対象の理解(1)				急激な状態の身体的観察とアセスメント				講義	平井
3	対象の理解(2)				急激な状態の精神・社会的観察とアセスメント 家族看護の実際				講義	平井
4	看護方法の検討(1)				循環機能障害 (虚血性心疾患，大動脈解離，弁膜症)				講義	白石
5	看護方法の検討(2)				呼吸機能障害(急性呼吸不全，人工呼吸器管理)				講義	白石
6	看護方法の検討(3)				脳神経障害(脳出血，くも膜下出血，脳梗塞)				講義	白石
7	看護方法の検討(4)				運動機能障害(外傷，骨折)ショック(熱傷・中毒)				講義	白石
8	看護方法の検討(5)				ショック(熱傷・中毒)				講義	白石
9	危機状況にある患者の看護(1)				プレホスピタルケアと地域医療				講義	平井
10	危機状況にある患者の看護(2)				救急現場から展開されるプレホスピタルケア				実技	平井
11	危機状況にある患者の看護(3)				〔事例展開〕急性心筋梗塞の患者(1)				演習	平井
12	危機状況にある患者の看護(4)				〔事例展開〕急性心筋梗塞の患者(2)				演習	平井
13	危機状況にある患者の看護(5)				生体防御機能障害（急性白血病）				講義	野田
14	危機状況にある患者の看護(6)				生体防御機能障害（急性白血病）				講義	野田
15	危機状況にある患者の看護(7)				シミュレーション事例展開(化学療法・放射線療法)				実技	平井
評価方法										
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)		70		30	-	-	-	-	100	
教科書	山勢彰他著 系統看護学講座 別巻 救急看護学 第7版 医学書院 ¥2,600＋税 道又基裕他著 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 第2版 医学書院 ¥2,300＋税 香春知永他 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学④ 臨床看護総論 第7版 医学書院 ¥2,500＋税 その他「系統看護学講座 専門分野 成人看護学1～11 医学書院」の中から必要に応じて指示する。									
教材・参考図書	適宜紹介する。									
オフィスアワー	木曜日 14：00～18：00									
履修上の 注意点	実技の内容は専門性が高いので，理解度に合わせて授業日程及び，実技内容を変更することがある。 実技方法：実技項目にある看護技術は，実技時間内に実技室にて実施。また学生各自の修得状況に応じて，実施回数が複数回となる場合もある。看護技術の習得にあたっては，事前の自己学習が前提となる。									

科目名		成人看護学Ⅲ（周手術期）					看護科			
学年	2 年	学期	前期	分野	専門		時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	田中 初枝				科目 担当者	田中 初枝, 安永 杏子				
科目 概要	周手術期にある成人期の対象の理解と、看護過程の展開を通し、回復過程に応じた看護の実際を理解する。外科的侵襲からの生体反応の観察や、積極的な回復にむけた早期離床、合併症予防といった看護介入を理解する。手術前、手術中、手術後それぞれの過程における看護実践能力を修得する。									
到達 目標	1. 手術療法を受ける対象の生体反応と周手術期の看護、回復過程の看護を理解できる。 2. 主要な術式における周手術各期に必要な看護を理解できる。 3. 周手術期における看護過程の展開を理解できる。									
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員	
1	周手術期とは			周手術期看護の目的と役割				講義	田中	
2	周手術期看護(1)			手術侵襲・麻酔と生体反応、手術前の看護				講義	田中	
3	周手術期看護(2)			手術中の看護				講義	田中	
4	周手術期看護(3)			手術後の看護①<合併症の特徴とその要因>				講義	田中	
5	周手術期看護(4)			手術後の看護②<疼痛コントロール>				講義	田中	
6	周手術期看護(5)			腹腔鏡下手術を受ける患者の看護（胆嚢）				講義	田中	
7	周手術期看護(6)			胸腔鏡下手術を受ける患者の看護（肺）				講義	田中	
8	周手術期看護(7)			人工関節置換術・乳房切除術を受ける患者の看護				講義	安永	
9	周手術期看護(8)			開腹術を受ける患者の看護（大腸・ストーマ）				講義	安永	
10	周手術期看護(9)			開腹術を受ける患者の看護（胃・肝臓・膵臓）				講義	田中	
11	周手術期看護(10)			〔事例展開〕胃癌・胃摘出術の患者(1)				演習	田中	
12	周手術期看護(11)			〔事例展開〕胃癌・胃摘出術の患者(2)				演習	田中	
13	周手術期看護(12)			術後観察の実際（胃全摘出術の患者）(1)				演習	安永	
14	周手術期看護(13)			術後観察の実際（胃全摘出術の患者）(2)				演習	安永	
15	学習のまとめ			周手術期看護のまとめ				講義	田中	
評価方法										
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)		70	10	20	-	-	-	-	100	
教科書	池上徹ほか 編 系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 第12版 医学書院 ￥2,800+税 「系統看護学講座 専門分野 成人看護学1～11 医学書院」の中から必要に応じて指示する。									
教材・参考図書		竹内登美子 高齢者と成人の周手術期看護 1 外来/病棟における術前看護 第2版 医歯薬出版 竹内登美子 高齢者と成人の周手術期看護 2 術中/術後の生体反応と急性期看護 第2版 医歯薬出版 竹内登美子 高齢者と成人の周手術期看護 3 開腹術/腹腔鏡手術を受ける患者の看護 第2版 医歯薬出版								
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高い為、理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。代表的な手術療法を受ける患者の看護について学ぶ。病態生理学等の知識は既習であるため、復習をして臨むこと。									

科目名	成人看護学Ⅳ(回復リハ期)					看護科			
学年	2 年	学期	前期	分野	専門	時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	立岡 孝之				科目 担当者	立岡 孝之			
科目 概要	何らかの健康障害を有し、日々の生活や社会生活に支障をきたしている人とその家族が、障害を抱えながらもその人らしい生活を再構築していく過程において、専門的知識・技術・態度を統合して応用できる能力を修得する。								
到達 目標	1. 様々な身体機能障害のある対象の特徴および、障害への適応と社会復帰への看護を理解できる。 1. 障害のある対象に対して、チーム医療での看護師の役割が理解できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	リハビリテーション看護とは(1)			リハビリテーション看護の専門性と役割			講義	立岡	
2	リハビリテーション看護とは(2)			健康レベルにおけるリハビリテーション看護			講義	立岡	
3	リハビリテーション看護とは(3)			リハビリテーション看護に用いられる主要な概念			講義	立岡	
4	リハビリテーション看護とは(4)			チームアプローチと看護の役割			講義	立岡	
5	リハビリテーション看護とは(5)			障害の定義と動向、障害者の権利			講義	立岡	
6	リハビリテーション看護の実際(2)			障害を負った人の心を支える看護			講義	立岡	
7	リハビリテーション看護の実際(3)			日常生活行動の再獲得を援助する看護			講義	立岡	
8	リハビリテーション看護の実際(4)			生活の再構築を支える社会資源の活用			講義	立岡	
9	リハビリテーション看護の実際(5)			呼吸・循環機能障害のある対象の看護			講義	立岡	
10	リハビリテーション看護の実際(6)			運動機能障害のある対象の看護			講義	立岡	
11	リハビリテーション看護の実際(7)			脳神経機能障害のある対象の看護			講義	立岡	
12	リハビリテーション看護の実際(8)			嚥下障害のある対象の看護			講義	立岡	
13	リハビリテーション看護の実際(9)			〔事例展開〕 脊髄損傷のある対象の看護(1)			演習	立岡	
14	リハビリテーション看護の実際(5)			〔事例展開〕 脊髄損傷のある対象の看護(2)			演習	立岡	
15	学習のまとめ			リハビリテーション看護のまとめ			講義	立岡	
評価指標									
評価指標		定期試験		レポート	-	-	-	合計	
評価割合(%)		70		30	-	-	-	100	
教科書	原三紀子他著 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 7 版 医学書院 ¥2,600+税 「系統看護学講座 専門分野 成人看護学 1～11 医学書院」の中から必要に応じて指示する。								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いので、理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。成人期の健康障害として代表的な機能障害と回復・リハビリテーション看護について学ぶ。病態生理学等は既習であるため、復習をして臨むこと。								
担当教員の 実務経験	急性期から慢性期、退院支援まで 8 年の臨床経験があり、科目の内容に精通している。								

科目名		成人看護学Ⅴ(慢性期看護)					看護科		
学年	2 年	学期	後期	分野	専門	時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	濱田 純香			科目 担当者	濱田 純香				
科目 概要	慢性疾患を抱えて生きる成人期の人々を理解し、病状に応じた看護を提供するための基本的知識を学習する。また、慢性期の事例を通して、特徴的なアセスメント、疾患や症状コントロールのために必要とされる看護援助について理解し、実践に応用できる能力を修得する。								
到達 目標	1. 慢性疾患の特徴および慢性疾患を抱えて生きる成人の特徴を理解する。 2. 代表的な慢性疾患を抱えて生きる成人の事例を通して、病状に応じた看護を提供するための基本的な知識と看護の方法を理解する。 3. 慢性疾患を有する患者の看護過程の展開を理解する。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	慢性期の特徴と理解			慢性病とは、患者の経験する無力感、病みの軌跡、首尾一貫感覚			講義	濱田	
2	慢性期の看護援助(1)			慢性期治療の特徴、経過を捉える視点			講義	濱田	
3	慢性期の看護援助(2)			慢性期の患者のニーズ、セルフケア獲得から継続に向けた支援、環境の調整(家族支援・社会資源・社会との交流・患者会)			講義	濱田	
4	慢性疾患患者の看護(1)			慢性呼吸不全患者への看護			講義	濱田	
5	慢性疾患患者の看護(2)			慢性心不全・高血圧症患者への看護			講義	濱田	
6	慢性疾患患者の看護(3)			慢性胃炎・潰瘍性大腸炎患者への看護			講義	濱田	
7	慢性疾患患者の看護(4)			慢性肝炎・肝硬変患者への看護			講義	濱田	
8	慢性疾患患者の看護(5)			慢性白血病・悪性リンパ腫患者への看護			講義	濱田	
9	慢性疾患患者の看護(6)			HIV/AIDS 患者への看護			講義	濱田	
10	慢性疾患患者の看護(7)			全身性エリテマトーデス患者への看護			講義	濱田	
11	慢性疾患患者の看護(8)			慢性腎不全（腎代替療法）患者への看護			講義	濱田	
12	慢性疾患患者の看護(9)			糖尿病の患者の看護			講義	濱田	
13	慢性疾患患者の看護展開(1)			糖尿病の患者の看護（事例展開）			演習	濱田	
14	慢性疾患患者の看護展開(2)			糖尿病の患者の看護（事例展開）			演習	濱田	
15	学習のまとめ			慢性期看護のまとめ			講義	濱田	
評価方法									
評価指標	定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	-	-	合計
評価割合(%)	70	-	30	-	-	-	-	-	100
教科書	「系統看護学講座 専門分野 成人看護学 1～11 医学書院」の中から必要に応じて指示する。								
教材・参考図書	講義内で適宜紹介する								
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いので、理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。成人期の健康障害として代表的な慢性疾患とその看護について学びを深める。解剖生理学、病態生理学等の知識は既習であるため、復習をして臨むこと。								
担当教員の 実務経験	急性期から回復期および慢性期、退院支援まで 7 年の様々な臨床経験があり、科目の内容に精通している。								

老 年 看 護 学

<ねらい>

老年期はライフサイクルの最終段階であり、人生の円熟期である。同時に、加齢による心身の変化の中で自己の老いと葛藤を持ちあわせている時期でもある。人生の終末に向けそれぞれの生活の中で培った経験から、精神的・社会的な価値観の個人差は大きく、個々の健康な生活に対するニーズも多様化する。そのため予防からエンドオブライフケアまで、地域から施設までを意識できる視野の広さが「住み慣れたところで最期まで」を実現する地域包括ケアの時代の老年看護に要求される。

老年看護学では、高齢者の心身の変化や社会背景、生活状況を理解し、個人に応じた豊かな老年期が過ごせるための看護について学ぶ。

<目 的>

高齢者の特徴と高齢社会における老年看護の役割を理解し、加齢と生活障害の程度に応じた、その人らしい生活を支援できる能力を養う。

<目 標>

1. 高齢者のライフステージとその健康課題を理解する。
2. わが国における高齢者の保健・医療・福祉制度の動向と諸問題を理解する。
3. 加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化を理解し、高齢者の日常生活支援技術を修得する。
4. 健康障害の程度に応じた高齢者の看護を捉え、実践する能力を修得する。

<構 成>

教育内容	科 目	単 位	時間数
老年看護学	老年看護学Ⅰ (高齢者の暮らしと健康)	1	15
	老年看護学Ⅱ (高齢者への看護の理解)	1	15
	老年看護学Ⅲ (高齢者とその家族への看護実践)	1	30

科目名	老年看護学Ⅰ (高齢者の暮らしと健康)					看護科			
学年	1 年	学期	後期	分野	専門	時間数	15 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	村田 大輔				科目 担当者	村田 大輔			
科目 概要	ライフサイクルにおける老年期の特徴を理解する。また、高齢者をとりまく社会と、生活環境が健康に与える影響を理解するために必要な専門的知識を修得する。								
到達 目標	1. 老年期を生きる高齢者の身体的・精神的・社会的機能の加齢変化を理解する。 2. 高齢者の生活に関連する保健医療福祉サービスについて理解できる。 3. 看護が提供される多様な場や関連する法と制度を理解する。 4. 老年看護に有用な概念について理解し、専門的知識を実践に応用できる能力を修得する。								
回数	単元項目				授業内容			形態	担当教員
1	高齢者の理解(1)				「老いる」ということ、老いを生きるということ (1)			講義	村田
2	高齢者の理解(2)				「老いる」ということ、老いを生きるということ (2)			演習	村田
3	高齢者をとりまく社会(1)				超高齢社会の統計的輪郭			講義	村田
4	高齢者をとりまく社会(2)				高齢社会における保険医療福祉の動向			講義	村田
5	高齢者をとりまく社会(3)				高齢者の権利擁護			講義	村田
6	高齢者とヘルスプロモーション(1)				保健医療福祉施設及び住居施設における看護、治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護			講義	村田
7	高齢者とヘルスプロモーション(2)				高齢者の様々な暮らし方と生活を取り巻く環境と課題			演習	村田
8	学習のまとめ				学習のまとめ			講義	村田
評価方法									
評価指標	定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)	80	-	20	-	-	-	-	100	
教科書	北川公子他 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 第9版 医学書院 ¥2,700+税								
教材・参考図書	鳥羽研二他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 第5版 医学書院 ¥2,300+税								
オフィスアワー	講義時に適時確認すること。								
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いため理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。								
担当教員の 実務経験	I C U, 脳神経センター, 養護老人ホームにて看護師として 15 年以上の臨床経験があり, 科目の内容に精通している。								

科目名	老年看護学Ⅱ (高齢者への看護の理解)					看護科			
学年	2 年	学期	前期	分野	専門	時間数	15 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	中村 春美			科目 担当者	中村 春美				
科目 概要	高齢者の生活機能の視点からアセスメントし、食生活、排泄、清潔や衣生活、移動・移乗、睡眠や活動について、安全・安楽・自立を踏まえた専門的な知識と実践する能力を養う。また高齢者がみまわれやすい医療事故と対応の実際、被災した高齢者が直面する健康問題や生活問題について専門的知識を修得する。								
到達 目標	1. 加齢による身体的・精神的・社会的機能の変化が高齢者の生活に及ぼす影響を理解する。 2. 高齢者の生活機能の視点からアセスメントし、安全・安楽・自立をふまえた援助の方法を理解する。 3. 高齢者がみまわれやすい医療事故と、その対応の実際が理解できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	高齢者のヘルスアセスメント			身体・心理・社会的健康のアセスメント			講義	中村	
2	日常生活を支える看護(1)			日常生活動作			講義	中村	
3	日常生活を支える看護(2)			食事・食生活			講義	中村	
4	日常生活を支える看護(3)			排泄、清潔			講義	中村	
5	日常生活を支える看護(4)			生活リズム、コミュニケーション			講義	中村	
6	高齢者のリスクマネジメント(1)			高齢者と医療事故			講義	塚本	
7	高齢者のリスクマネジメント(2)			高齢者と災害			講義	塚本	
8	学習のまとめ			学習のまとめ			講義	中村	
評価方法									
評価指標	定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)	70	20	10	-	-	-	-	100	
教科書	北川公子他 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 第9版 医学書院 ¥2,700+税								
教材・参考図書	鳥羽研二他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 第5版 医学書院 ¥2,300+税								
オフィスアワー	講義時に適時確認すること。								
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いため理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。								

科目名	老年看護学Ⅲ (高齢者とその家族への看護実践)					看護科			
学年	2 年	学期	後期	分野	専門	時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	中村 春美			科目 担当者	中村 春美, 矢倉 奈保美				
科目 概要	老年期に起こりやすい疾病・障害における, 高齢者の特徴をアセスメントし, その健康レベルに応じた具体的な援助の方法を理解する。また検査・治療・リハビリテーション・手術を受ける高齢者の看護, 終末期における高齢者と家族への看護するための専門的知識・技術・態度を統合し, 実践できる基礎的能力を修得する。								
到達 目標	1. 健康障害をもつ高齢者の特徴をアセスメントし, その健康レベルに応じた援助の方法を理解できる。 2. 検査・治療・リハビリテーション・手術を受ける高齢者の看護について理解できる。 3. 終末期における高齢者と家族への看護について理解できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	高齢者の健康状態の把握(1)			高齢者の生理的特徴, 老年症候群			講義	中村	
2	高齢者の健康状態の把握(2)			フィジカルアセスメント, 検査			講義	矢倉	
3	高齢者の疾患の特徴と看護(1)			認知症, 精神・神経疾患			講義	矢倉	
4	高齢者の疾患の特徴と看護(2)			循環器系の疾患, 呼吸器系の疾患			講義	中村	
5	高齢者の疾患の特徴と看護(3)			消化器系の疾患, 内分泌・代謝系の疾患			講義	中村	
6	高齢者の疾患の特徴と看護(4)			自己免疫疾患, 血液の疾患			講義	中村	
7	高齢者の疾患の特徴と看護(5)			腎・泌尿器系の疾患			講義	中村	
8	高齢者の疾患の特徴と看護(6)			運動器の疾患, 感覚器系の疾患			講義	矢倉	
9	高齢者のリハビリテーション(1)			高齢者におけるリハビリテーション			講義	矢倉	
10	事例による看護過程(1)			脳梗塞: 情報の分類とアセスメント(1)			演習	中村	
11	事例による看護過程(2)			脳梗塞: 情報の分類とアセスメント(2)			演習	中村	
12	事例による看護過程(3)			全体像と看護の焦点, 看護診断(1)			演習	中村	
13	事例による看護過程(4)			全体像と看護の焦点, 看護診断(2)			演習	中村	
14	事例による看護過程(5)			看護計画の立案			演習	中村	
15	学習のまとめ			高齢者の看護実践のまとめ			演習	中村	
評価方法									
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)		70	30	-	-	-	-	-	100
教科書	鳥羽研二他 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 第5版 医学書院 ¥2,300+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	講義時に適時確認すること。								
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いため理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。								

小 児 看 護 学

<ねらい>

小児は限りない可能性を秘めた未来を担う存在である。また、成長発達が著しく人間形成の大切な時期にある。小児期の過ごし方がその後の身体的・精神的・社会的・霊的成熟に大きな影響を与えるため、小児を取り巻く人々や社会は、小児が健全に発育していけるような環境を整えなければならない。小児看護学は、このようなライフステージにある小児の健康の保持増進、健康回復を促すとともに、すべての小児が健全な成長発達を遂げられるよう援助することを学習する。

<目 的>

成長発達を続ける小児の特徴を理解し、あらゆる健康状態にある小児とその家族に対する看護を実践できる能力を養う。

<目 標>

1. 小児各期の特徴と小児の健やかな育成に関わる看護師の役割を理解する。
2. 小児保健・医療・福祉の動向と対策を学び、小児の健康に関わる諸問題の概要を理解する。
3. 成長発達段階に応じた日常生活援助に必要な基本的知識と技術を修得する。
4. 小児期に特有な疾患とその症状、検査、治療、看護について理解する。
5. 健康課題が小児とその家族に与える影響について理解する。
6. あらゆる健康レベルの小児とその家族に応じた看護実践能力を養う。
7. 小児領域の課題である「不慮の事故」、「子どもの虐待」についての理解を深める。

<構 成>

教育内容	科 目	単 位	時間数
小児看護学	小児看護学Ⅰ (子どもの暮らしと健康)	1	15
	小児看護学Ⅱ (子どもへの看護の理解)	1	15
	小児看護学Ⅲ (子どもとその家族への看護実践)	1	30

小児看護学Ⅰ (子どもの暮らしと健康)				看護科						
学年	1 年	学期	後期	分野	専門		時間	15 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	奥田 めぐみ			科目 担当者	奥田 めぐみ					
科目 概要	小児各期の成長・発達を理解する。また、小児を取り巻く社会情勢や法的制度について理解し、実践的に応用できる専門的知識を修得する。									
到達 目標	1. 小児看護の特徴と理念が理解できる。 2. 小児を取り巻く社会情勢や法的制度について理解できる。 3. 小児への効果的な支援を提供する基盤として小児各期の成長・発達について学び、子どもを理解する。 4. 児童虐待について学び、社会的支援を理解し、子どもの権利や社会人としての責務を理解する。									
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員	
1	小児看護の対象			小児看護における対象、目標と役割				講義	奥田	
2	小児看護における倫理			子どもの権利思想の流れ、小児看護と倫理的配慮、子どもの権利条約と小児医療				講義	奥田	
3	子どもの成長・発達			成長・発達とは、成長発達に影響する因子 成長・発達の評価				講義	奥田	
4	乳児の身体機能の成長・発達と看護			乳児の形態的・身体生理的特徴と各機能の発達				講義	奥田	
5	幼児の身体機能の成長・発達と看護			幼児の形態的・身体生理的特徴と各機能の発達				講義	奥田	
6	学童・思春期の成長発達			学童・思春期の形態的・身体生理的特徴と各機能の発達				講義	奥田	
7	子どもの虐待と看護			子どもの虐待、発生予防				講義	奥田	
8	学習のまとめ			小児看護学概論のまとめ				講義	奥田	
評価方法										
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	課 題	-	-	-	合計	
評価割合 (%)		70	-	10	20	-	-	-	100	
教科書	奈良間美保他 系統看護学講座 専門分野 小児看護学① 小児看護学概論 小児臨床看護総論 第 14 版 医学書院 ¥2,900＋税									
教材・参考図書	厚生統計協会編集 国民衛生の動向 2019/2020 年版厚生統計協会出版 ¥2,315＋税									
オフィスアワー	金曜日午前中									
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いので、理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。									

科目名		小児看護学Ⅱ (子どもへの看護の理解)				看護科			
学年	2 年	学期	前期	分野	専門	時間	15 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	奥田 めぐみ			科目 担当者	奥田 めぐみ				
科目 概要	病気や症状の経過とともに、さまざまな状況におかれる入院が、子どもの成長発達や家族にどのような影響を及ぼすのか理解する。また、小児のアセスメントに必要な技術、フィジカルアセスメントをはじめ、外来受診や入院、検査・治療・処置、活動制限や隔離など小児看護の特徴を踏まえ、専門的知識・技術・態度を統合し、看護師の役割と看護を実践できる基礎的能力を修得する。								
到達 目標	1. 入院・受診が必要な小児の特徴を理解することができる。 2. 小児の特有な健康障害に対する検査、処置・プレパレーションの方法が理解できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	病気・障害をもつ子どもと家族の看護			子どもの病気の理解、ストレスと対処・支援・援助 インフォームド・アセント			講義 演習	奥田	
2	子どもの環境に特徴づけられる看護			外来・入院中における子どもと家族への援助			講義 演習	奥田	
3	子どものアセスメント			小児とのコミュニケーション バイタルサイン測定・身体測定アセスメントに必要な技術 プレパレーションの目的と方法			講義 演習	奥田	
4	症状を示す子どもの看護			系統別な全身状態のフィジカルアセスメント（不機嫌・啼泣・疼痛・痙攣・発熱など）			講義	奥田	
5	検査・処置を受ける小児と家族の看護			小児の説明と同意、検査・処置各論（身体測定、与薬・輸液、検体の採取、酸素療法 吸引、抑制）			演習	奥田	
6	プレパレーション演習 (1)			プレパレーションのグループワーク			演習	奥田	
7	プレパレーション方法 (2)			プレパレーションのグループワーク発表			演習	奥田	
8	学習のまとめ			小児の入院・受診への看護のまとめ			演習	奥田	
評価方法									
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	課 題	-	-	合計	
評価割合 (%)		70		10	20	-	-	100	
教科書	奈良間美保他 系統看護学講座 専門分野 小児看護学① 小児看護学概論 小児臨床看護総論 第 14 版 ¥2,900＋税								
教材・参考図書		適宜紹介する。							
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。							
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いので、理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。								

科目名		小児看護学Ⅲ (子どもとその家族への看護実践)					看護科			
学年	2 年	学期	後期	分野	専門		時間	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	奥田 めぐみ			科目 担当者	奥田 めぐみ					
科目 概要	子どもの特有の病態・症状・治療について修得する。また、医療技術の高度化に伴い、在宅に移行する子どもが増えつつあるため、障害をもった子どもとその家族への理解を深め、専門的知識・技術・態度を統合して応用できる基礎的能力を修得する。									
到達 目標	1. 小児期に特徴的な疾患の病態・症状・診断・治療を理解し、必要な看護技術を学ぶことができる。 2. 先天性疾患・障害を持つ小児と家族の看護について理解できる。									
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員	
1	小児看護技術(1)			小児への食物・栄養の摂取の実際 (離乳食・調乳・食事援助方法・衣類の選択)				講義 演習	奥田	
2	小児看護技術(2)			小児の経管栄養・歯磨きトレーニング 小児への排泄の援助の実際(おむつ交換・浣腸)				講義 演習	奥田	
3	小児看護技術(3)			小児の安全・安楽を考慮した行動制限 (抑制, 小児用ベッド・車椅子・ストレッチャー)				講義 演習	奥田	
4	子どもにおける疾病の経過と看護			急性期・周術期・慢性期・周術期にある小児と家族への看護				講義	奥田	
5	染色体・先天異常と看護			主な先天異常, 遺伝性疾患をもつ小児の看護 子どもと家族の看護				講義	奥田	
6	代謝性・アレルギー・リウマチ性疾患と看護			主な小児の代謝性・アレルギー・リウマチ性疾患 (新生児マスキスクリーニング, 糖尿病, 食物アレルギー, アトピー性皮膚炎, 気管支喘息, 若年性突発性関節炎)				講義	奥田	
7	感染症と看護			主な感染症(麻疹, 風疹, 水痘, 手足口病, 流行性耳下腺炎, 日本脳炎, ジフテリア, ノロウイルス・ロタウイルス感染症)				講義	奥田	
8	呼吸・循環器疾患と看護			主な呼吸器・循環器疾患(急性咽頭炎, 急性気管支炎, 肺炎, 心室中隔欠損症, ファロー四徴症, 川崎病)				講義	奥田	
9	消化器疾患と看護			主な消化器疾患(口唇口蓋裂, 先天性横隔膜ヘルニア, 先天性食道狭窄症, 肥厚性幽門狭窄症, ヒルシュスプルング病, 鎖肛, ヘルニア)				講義	奥田	
10	血液・造血器・腎疾患, 悪性新生物と看護			主な血液・腎疾患, 悪性新生物(貧血, 血友病, ネフローゼ症候群, 急性リンパ性白血病)				講義	奥田	
11	神経・運動器・耳鼻咽喉・精神疾患と看護			主な疾患(二分脊椎, 水頭症, てんかん, 熱性痙攣, 脳性麻痺, 先天性股関節脱臼, 先天性内反足・中耳炎, 扁桃炎, 学習障害, 自閉スペクトラム症, ADHD, 神経性やせ・過食症)				講義	奥田	
12	事故・外傷と看護			子どもの事故の特徴, 主な事故・外傷(頭部外傷, 誤飲・誤嚥, 溺水, 熱傷, 熱中症)				講義	奥田	
13	小児看護の実践方法(1)			事例による小児看護過程の展開(ネフローゼ)				講義	奥田	
14	小児看護の実践方法(2)			事例による小児看護過程の展開(ネフローゼ)				講義	奥田	
15	学習のまとめ			疾患を持つ小児への看護のまとめ				演習	奥田	
評価方法										
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	課 題	-	-	-	合計	
評価割合 (%)		70			30	-	-	-	100	
教科書	奈良間美保他 系統看護学講座 専門分野 小児看護学① 小児看護学概論 小児臨床看護総論 第 14 版 ¥2,900+税 奈良間美保他 系統看護学講座 専門分野 小児看護学② 小児臨床看護各論 第 14 版 ¥3,300+税									
教材・参考図書	適宜紹介する。									
オフィスアワー	金曜日午前中									
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いので, 理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。									

母 性 看 護 学

<ねらい>

現在，“母性”を取り巻く社会環境の変化は著しく，母性看護の役割はますます拡大されつつある。その対象は，妊産褥婦とその子どもを含む全てのライフサイクルにある女性のみならず，そのパートナーや家族，さらに地域社会を含む。母性看護学では妊産褥婦および新生児への看護活動に加え，次世代の健全育成を目指し，女性の一生通じた性と生殖に関する健康を守るという観点から母性看護を实践するうえでの考え方や方向性を学ぶ。

女性の生涯や役割の多様化，晩産化と少子高齢化，母子を取り巻く生活環境の変化を踏まえ，子どもをより健康な状態で産み育てるための母性への支援は重要性が高まっている。

母性の擁護に着目し，“女性のライフサイクル”と“マタニティサイクルにおけるケア”について学ぶ。また，セクシュアリティや生殖補助医療の進歩に伴って問われる生命倫理，リプロダクティブヘルスケアについても考える機会とする。

<目 的>

母性の特徴を理解し，女性の一生を通じた健康の維持，増進，疾病の予防および回復に向けた看護を实践できる基礎能力を養う。

<目 標>

1. 母性看護の概念と役割を理解できる。
2. 女性のライフサイクルからみた身体的，心理・社会的特徴を理解できる。
3. 母子保健・医療・福祉の動向と対策を学び，母性に関する諸問題について考える。
4. マタニティサイクルにある対象者の経過と健康からの逸脱状態を理解できる。
5. マタニティサイクルにある対象者がよりよい生活を送るための看護を理解できる。
6. 母性看護学における基本技術を修得する。

<構 成>

教育内容	科 目	単位	時間数
母性看護学	母性看護学Ⅰ (女性の暮らしと健康)	1	15
	母性看護学Ⅱ (周産期の母子への看護の理解)	1	15
	母性看護学Ⅲ (周産期の母子とその家族への看護実践)	1	30

科目名		母性看護学Ⅰ (女性の暮らしと健康)				看護科			
学年	2 年	学 期	前期	分野	専門	時間数	15 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	三ツ野 佐代子			科目 担当者	三ツ野 佐代子				
科目 概要	母性看護の対象が理解できる。女性のライフステージ各期における健康問題と看護を理解する。さらに、リプロダクティブヘルスケアについて理解し、実践的に応用できる専門的知識を取得する。								
到達 目標	1. 母性看護の対象が理解できる。 2. 女性の健康問題と看護について考えることができる。 3. リプロダクティブヘルスケアについて理解できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	母性看護の基盤となる概念			母性の定義/母性看護のあり方			講義	三ツ野	
2	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状			母性看護の変遷/母性看護にかかわる法律と施策			講義	三ツ野	
3	母性看護の対象理解 (1)			形態・機能の変化/ライフサイクルと家族			講義	三ツ野	
4	母性看護の対象理解 (2)			母性の発達・成熟・継承			講義	三ツ野	
5	女性のライフステージ各期における看護			思春期・性成熟期・更年期・老年期の健康と看護			講義	三ツ野	
6	リプロダクティブヘルスケア (1)			家族計画/性感染症/HIV/人工妊娠中絶			講義	三ツ野	
7	リプロダクティブヘルスケア (2)			喫煙/性暴力/児童虐待/国際化			講義	三ツ野	
8	学習のまとめ			まとめ			講義	三ツ野	
評価方法									
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	合計	
評価割合 (%)		80	-	20	-	-	-	100	
教科書	森恵美他 系統看護学講座 専門分野 母性看護学① 母性看護学概論 第14版 医学書院 ¥2,500+税 森恵美他 系統看護学講座 専門分野 母性看護学② 母性看護学各論 第14版 医学書院 ¥3,100+税								
教材・参考図書		厚生統計協会編集 国民衛生の動向 2021/2022 年版厚生統計協会出版 ¥2,450+税							
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。							
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いため、理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。 新聞や雑誌、テレビなどの母性看護に関するニュースに目を向けること。								

科目名	母性看護学Ⅱ (周産期の母子への看護の理解)					看護科			
学年	2 年	学 期	前期	分野	専門	時間数	15 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	三ツ野 佐代子			科目 担当者	三ツ野 佐代子				
科目 概要	周産期における女性の身体的・心理的・社会的変化から、看護師の役割や専門的知識の理解と看護を实践できる能力を修得する。								
到達 目標	1. 妊娠期・分娩期における身体的・心理的・社会的変化を理解できる。 2. 妊娠期・分娩期の看護を理解できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	出生前からのリプロダクティブヘルスケア			遺伝相談/不妊治療と看護			講義	三ツ野	
2	妊娠期における看護(1)			妊娠期の身体的特性/妊娠期の心理・社会的特性			講義	三ツ野	
3	妊娠期における看護(2)			妊婦と胎児のアセスメント			講義・演習	三ツ野	
4	妊娠期における看護(3)			妊婦と家族の看護/親になるための準備教育			講義	三ツ野	
5	分娩期における看護(1)			分娩の要素/分娩の経過			講義	三ツ野	
6	分娩期における看護(2)			産婦・胎児，家族のアセスメント			講義	三ツ野	
7	分娩期における看護(3)			分娩期の家族の実際			講義	三ツ野	
8	学習のまとめ			まとめ			講義	三ツ野	
評価方法									
評価指標	定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	100	-	-	-	-	-	-	100	
教科書	森恵美他 森恵美他	系統看護学講座 系統看護学講座	専門分野 専門分野	母性看護学① 母性看護学②	母性看護学概論 母性看護学各論	第 14 版 第 14 版	医学書院 医学書院	¥2,500+税 ¥3,100+税	
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いので，理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。 新聞や雑誌，テレビなどの母性看護に関するニュースに目を向けること。								

科目名	母性看護学Ⅲ (周産期の母子とその家族への看護実践)						看護科			
学年	2 年	学期	後期	分野	専門		時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	三ツ野 佐代子				科目 担当者	三ツ野 佐代子				
科目 概要	周産期における産褥女性および新生児の身体的・心理的・社会的変化を理解する専門的知識を修得する。 また、母子に向けた包括的な看護を実践できる能力を修得する。									
到達 目標	1. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における身体的・心理的・社会的変化を理解できる。 2. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の看護を理解できる。 3. 周産期における異常時の看護を理解できる。									
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員	
1	新生児期における看護(1)			新生児の生理/新生児のアセスメント				講義・演習	三ツ野	
2	新生児期における看護(2)			新生児の看護				講義・演習	三ツ野	
3	産褥期における看護(1)			産褥期の身体的・心理・社会的変化				講義	三ツ野	
4	産褥期における看護(2)			褥婦のアセスメント				講義・演習	三ツ野	
5	産褥期における看護(3)			褥婦と家族の看護/施設退院後の看護				講義	三ツ野	
6	妊娠の異常(1)			ハイリスク妊娠				講義	三ツ野	
7	妊娠の異常(2)			ハイリスク妊婦の看護				講義	三ツ野	
8	分娩の異常(1)			産道・娩出力の異常/胎児異常による分娩障害				講義	三ツ野	
9	分娩の異常(2)			胎児付属物の異常・胎児機能不全/産科手術他				講義	三ツ野	
10	新生児の異常と看護(1)			新生児仮死・低出生体重児				講義	三ツ野	
11	新生児の異常と看護(2)			高ビリルビン血症・ビタミンK 欠乏症				講義	三ツ野	
12	産褥の異常と看護			子宮復古不全/異常のある褥婦の看護				講義	三ツ野	
13	母性領域における看護過程(1)			看護過程の展開(妊娠期・分娩期)				演習	三ツ野	
14	母性領域における看護過程(2)			看護過程の展開(産褥期・新生児期)				演習	三ツ野	
15	学習のまとめ			まとめ				講義	三ツ野	
評価方法										
評価指標		定期試験		レポート	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)		70		30	-	-	-	-	100	
教科書	森恵美他	系統看護学講座	専門分野	母性看護学①	母性看護学概論	第 14 版	医学書院	¥2,500＋税		
	森恵美他	系統看護学講座	専門分野	母性看護学②	母性看護学各論	第 14 版	医学書院	¥3,100＋税		
教材・参考図書		適宜紹介する。								
オフィスアワー		講義時に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いので、理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。 新聞や雑誌、テレビなどの母性看護に関するニュースに目を向けること。									

精 神 看 護 学

<ねらい>

精神看護学は、すべてのライフサイクルにある人を対象とし、精神の健康を維持するための援助および、精神のバランスを崩している人々や精神障害者とその家族に対する援助について学ぶ。

健康を精神と体の両面から捉え、自身の精神の健康に関心を向けることができるような学習を取り入れていく。また、看護における関係の成立・進展の技術を修得することにより看護の学習者としての成長を促し、資質の向上に役立てることをねらいとする。

精神障害者の理解とともに、精神の健康問題に関連した保健・医療・福祉サービスの成り立ちやそれに影響を与える歴史的・時代的・文化的状況について理解する。

<目 的>

すべてのライフサイクルにある精神看護の対象者を理解し、精神のバランスを崩している人々や精神障害者とその家族の援助について学ぶ。

<目 標>

1. 精神の健康、精神看護の対象者および看護の役割について理解する。
2. 精神の健康の意義と精神の健康に与える要因を理解する。
3. 精神の健康・維持増進と予防について必要な援助を学ぶ。
4. 精神障害者の処遇について歴史的変遷や社会背景を理解するとともに、今後の課題について考える。
5. 精神障害者と家族に対する理解を深め、援助方法を学ぶ。
6. 精神障害者の社会復帰活動について精神保健医療・福祉の連携を通じて理解する。

<構 成>

教育内容	科 目	単 位	時間数
精神看護学	精神看護学Ⅰ (精神障害とこころの健康)	1	15
	精神看護学Ⅱ (精神障害者への看護の理解)	1	15
	精神看護学Ⅲ (精神障害者とその家族への看護実践)	1	30

科目名		精神看護学Ⅰ (精神障害とこころの健康)				看護科			
学年	1 年	学期	後期	分野	専門	時間数	15 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	南原 智子				科目 担当者	南原 智子			
科目 概要	日本の精神医療の現状と精神保健医療福祉の歴史を知り，精神看護の対象・目的・機能及び役割を理解する。また，精神看護の基本となる人間理解を目的として，人間の健康を，身体的・心理的・社会的な視点から学ぶ。精神障害は悩みや葛藤と深く関わっており，人生のプロセスと切り離せないものであること，人格の発達過程，人の心理・行動の特性を理解する専門的知識を修得する。								
到達 目標	1. 日本における精神保健医療福祉の歴史とその変遷について理解できる。 2. 精神看護の対象・目的・機能及び役割が理解できる。 3. 精神保健や福祉に関連した法律の概要を知り，看護師の役割を述べることができる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	精神障害と治療の歴史(1)			古代から 20 世紀の精神医療			講義	南原	
2	精神障害と治療の歴史(2)			日本における精神医学・精神医療の流れ			講義	南原	
3	精神障害の基本的考え方			こころの健康とは，精神障害が生じるきっかけとプロセス			講義	南原	
4	人間の心のはたらき			人間の心の諸活動			講義	南原	
5	人格の発達と情緒体験			対象関係論，ボウルビーの愛着理論			講義	南原	
6	精神保健医療福祉の法律			精神保健福祉法，障害者総合支援法			講義	南原	
7	精神科病院の実際			精神科病院見学や視聴覚教材での学び			演習	南原	
8	学習のまとめ			精神看護学Ⅰのまとめ			講義	南原	
評価方法									
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	合計	
評価割合(%)		70	20	10	-	-	-	100	
教科書	武井麻子他 系統看護学講座 専門分野 精神看護学① 精神看護の基礎 第 6 版 医学書院 ¥2,300+税 末安民生他 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 第 4 版 医学書院 ¥2,400+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	月曜日から金曜日 9：00～17：00								
履修上の 注意点	精神看護の専門性がどのように位置づけられているのか，そして精神科看護師はどのような役割を担っているかを学ぶ。また，内容は専門性が高いため，心理学や保健医療論を復習しておくこと。								
担当教員の実務経験	一般内科・精神科病棟に 18 年間看護師として臨床経験があり，科目の内容に精通している。								

科目名	精神看護学Ⅱ (精神障害者への看護の理解)					看護科			
学年	2 年	学期	前期	分野	専門	時間数	15 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	南原 智子				科目 担当者	南原 智子, 川野 豊			
科目 概要	主な精神障害・症状・状態について理解し, 疾患の診断と治療を理解する能力を修得し, 実践的に応用できる基礎的能力を養う。								
到達 目標	1. 主な精神症状・状態について理解できる。 2. 主な精神科疾患の診断と治療について理解できる。								
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員
1	精神症状と精神疾患(1)			精神症状論と状態像				講義	南原
2	精神症状と精神疾患(2)			診断と疾病分類, 統合失調症の診断と特徴, 症状と治療				講義	南原
3	精神症状と精神疾患(3)			気分[感情]障害の診断と特徴, 症状と治療				講義	川野
4	精神症状と精神疾患(4)			アルコール依存症の診断と特徴, 症状と治療				講義	南原
5	精神症状と精神疾患(5)			パーソナリティ障害の診断と特徴, 症状と治療				講義	川野
6	精神領域での看護過程(1)			事例展開：統合失調症患者の看護過程				講義	南原
7	精神領域での看護過程(2)			事例展開：統合失調症患者の看護過程				演習	南原
8	学習のまとめ			精神看護学Ⅱのまとめ				講義	南原
評価方法									
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	合計	
評価割合(%)		70	20	10	-	-	-	100	
教科書	武井麻子他 系統看護学講座 専門分野 精神看護学① 精神看護の基礎 第6版 医学書院 ¥2,300+税 武井麻子他 系統看護学講座 専門分野 精神看護学② 精神看護の展開 第6版 医学書院 ¥2,300+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	月曜日から金曜日 9：00～17：00								
履修上の 注意点	“精神障害”と一言で呼ばれている心の状態にどのような病気や症状があるのか, またどのような治療や看護が必要であるのか, 新聞記事や雑誌などを併用し理解する。また講義の内容は専門性が高いので, 理解度に合わせて日程および講義内容を変更することがある。								

科目名		精神看護学Ⅲ (精神障害者とその家族への看護実践)					看護科			
学年	2 年	学期	後期	分野	専門		時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	川野 豊			科目 担当者	川野 豊, 森 智秀					
科目 概要	精神科におけるリハビリテーションの必要性や、訪問看護など地域生活を支える支援の実践について理解する。精神障害者の入院から退院に至るまでの看護について理解し、地域生活を支援するための方法を修得し、実践的に応用できる基礎的能力を養う。									
到達 目標	1. 精神障害者の入院から退院に至るまでの看護について理解できる。 2. 精神障害者の地域生活を支援するための方法が理解できる。 3. 看護師のメンタルヘルスについて理解できる。									
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員	
1	入院治療の意味(1)			精神科を受診すること				講義	川野	
2	入院治療の意味(2)			治療の器としての病院・病棟				講義	川野	
3	精神看護技術(1)			身体拘束中の患者の看護(1)				演習	川野・森	
4	精神看護技術(2)			身体拘束中の患者の看護(2)				演習	川野・森	
5	入院治療の意味(3)			退院に向けての支援とその実際				講義	川野	
6	回復への支援(1)			回復の意味, リカバリー				講義	川野	
7	回復への支援(2)			リカバリーを促す方法				講義	川野	
8	回復への支援(3)			リカバリーのプロセス				講義	川野	
9	地域におけるケアと支援(1)			地域における生活支援の方法(原則, 社会資源)				講義	川野	
10	地域におけるケアと支援(2)			地域におけるケアの方法と実際(学校・職場におけるメンタルヘルス)				講義	川野	
11	精神看護技術(3)			訪問看護を受けている患者の看護の実際(1)				演習	川野・森	
12	精神看護技術(4)			訪問看護を受けている患者の看護の実際(2)				演習	川野・森	
13	看護における感情労働			看護師のメンタルヘルス				講義	川野	
14	日本の治療環境の理解			諸外国の精神医療との比較, 精神科病院と病棟の特徴				講義	川野	
15	学習のまとめ			まとめ				講義	川野	
評価方法										
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)		70	20	10	-	-	-	-	100	
教科書	武井麻子他 系統看護学講座 専門分野 精神看護学① 精神看護の基礎 第6版 医学書院 ¥2,300+税 武井麻子他 系統看護学講座 専門分野 精神看護学② 精神看護の展開 第6版 医学書院 ¥2,300+税 末安民生他 系統看護学講座別巻 精神保健福祉 第4版 医学書院 ¥2,400+税									
教材・参考図書	適宜紹介する。									
オフィスアワー	金曜日 13:00～16:00									
履修上の 注意点	“看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス”のグループワークでは、看護師自身がメンタルヘルスを保つ方法についてグループ間での討議とプレゼンテーションを取り入れる。演習に関しては看護演習室にて行う。事前に精神科看護技術の復習が必須である。									

生活環境と健康状態に応じた看護

<ねらい>

看護は子どもから高齢者まで全ライフサイクルにおいて、病院のみならず家庭や学校、職場などの生活するあらゆる場の人々を対象としている。そして、目指すところは、日々の具体的な生活に主軸を置き、状況を見極め、健康へのケアを構築し、人々の価値観や健康に関する思いに沿った支援を提供することにある。¹⁾ここでは、わが国の人口構造の変化および家族の構造的・機能的変化を踏まえたうえで、対象をさまざまな角度で理解し、健康段階に応じた看護の方向性と介入について学ぶ。

地域と家族の看護では、地域にくらす人々の生活を理解するとともに、家族を対象とした看護について学ぶ。健康と生活指導では、あらゆるライフステージにある対象を生活者としてとらえ、人々の健康のあり方と健康を支えるしくみについて学ぶ。セルフケアの獲得と看護では、ライフステージに応じたセルフケアの基礎知識を基に、生活の様子や健康面での課題などを学び、セルフケア不足に対する看護援助について学ぶ。薬物療法看護では発達段階かつ健康レベルに応じたあらゆる対象に、薬物療法の実施する意義・方法を理解し、生活者としての対象に薬物療法の指導・支援の必要性を看護の視点を踏まえて学ぶ。多職種連携論では患者の状況に的確に対応した医療を提供するという多職種連携の一連の流れを生活環境と健康状態別に学ぶ。臨床判断論では看護の基本として多様な健康上のニーズを持つあらゆる発達段階の人々に、基本的な看護学の知識や技術を統合し、応用するプロセスを学ぶ。

<目 的>

あらゆるライフステージにある対象を、生活者として理解することにより、人々の健康のあり方、健康段階における看護の役割と介入について学ぶ。

<目 標>

1. 各発達段階にある人々の生活を衣食住、家族、社会活動、他者との交流等の視点から捉えることができる。
2. 各発達段階にある人々の健康のあり方を説明できる。
3. 生活と健康の関連について、事象をもとに分析・考察し、説明できる。
4. 自分自身ならびに人々の生活に関心を持つ。

<構 成>

教育内容	科目名	単位	時間
領域横断	生活環境と健康状態に応じた看護Ⅰ（地域と家族の看護）	1	30
	生活環境と健康状態に応じた看護Ⅱ（健康と生活指導）	1	30
	生活環境と健康状態に応じた看護Ⅲ（セルフケアの獲得と看護）	1	30
	生活環境と健康状態に応じた看護Ⅳ（薬物療法看護）	1	30
	生活環境と健康状態に応じた看護Ⅴ（多職種連携論）	1	30
	生活環境と健康状態に応じた看護Ⅵ（臨床判断論）	1	30

<参考文献>

- 1) 市村久美子ほか編：新体系看護学全書 別巻 ヘルスプロモーション 第1版 メヂカルフレンド。

科目名	生活環境と健康状態に応じた看護Ⅰ (地域と家族の看護)						看護科		
学年	1 年	学期	前期	分野	専門	時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	田中 初枝				科目 担当者	田中 初枝			
科目 概要	身近な地域にくらす人々の生活と健康課題について考えるとともに、家族の機能と看護のあり方について学ぶ。								
到達 目標	1. 身近な地域にくらす人々の生活と健康課題に関心を持つ。 2. 家族をとらえるために必要な理論について説明できる。 3. 家族機能の発揮へつながる看護について考察できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	地域の人々と生活(1)			地域探索 身近な地域に暮らす人々と生活			フィールドワーク オリエンテーション	田中	
2	地域の人々と生活(2)			地域探索 身近な地域に暮らす人々と生活			フィールドワーク	田中	
3	地域の人々と生活(3)			人々の生活			講義	田中	
4	地域の人々と生活(4)			暮らしと地域 地域の人口ピラミッド、世帯構造、地域の文化			講義	田中	
5	地域の人々と健康課題(1)			地域の人々とその健康課題〈協同学習〉 地域の衛生統計、地域の課題			演習	田中	
6	地域の人々と健康課題(2)			地域の人々とその健康課題〈協同学習〉 地域の衛生統計、地域の課題			演習	田中	
7	地域の人々と健康課題(3)			地域の人々とその健康課題〈発表準備〉 地域の衛生統計、地域の課題			演習	田中	
8	地域の人々と健康課題(4)			地域の人々とその健康課題〈発表〉 地域の衛生統計、地域の課題			演習	田中	
9	地域の人々と健康課題(5)			地域の人々とその健康課題〈発表〉 地域の衛生統計、地域の課題			演習	田中	
10	家族の定義と機能			さまざまな家族のあり方 家族の定義、家族の機能			講義	田中	
11	家族看護を支える理論			家族発達理論、家族システム理論			講義	田中	
12	地域の人々を支える看護(1)			家族構造の理解（ジェノグラム、エコマップ）			講義	田中	
13	地域の人々を支える看護(2)			家族のライフイベントと発達課題〈協同学習〉 身近な地域に暮らす家族の生活と看護			演習	田中	
14	地域の人々を支える看護(3)			家族のライフイベントと発達課題〈協同学習〉 身近な地域に暮らす家族の生活と看護			演習	田中	
15	地域の人々を支える看護(4)			家族のライフイベントと発達課題〈発表〉 身近な地域に暮らす家族の生活と看護			演習	田中	
評価方法									
評価指標		定期試験	小テスト	レポート		-	-	合計	
評価割合(%)		20		80		-	-	100	
教科書	上別府圭子他 系統看護学講座 別巻 家族看護学 第2版 医学書院 ￥2,300+税 神馬征峰他 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度② 公衆衛生 第15版 医学書院 ￥2,300+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	金曜日 14：00～18：00								
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いので、理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。								

科目名	生活環境と健康状態に応じた看護Ⅱ (健康と生活指導)						看護科		
学年	1 年	学期	後期	分野	専門	時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	豊永 由香				科目 担当者	豊永 由香			
科目 概要	あらゆるライフステージにある対象を、生活者として理解することにより、人々の健康のあり方、健康段階における看護の役割と介入について学ぶ。								
到達 目標	1. 各発達段階にある人々の生活を衣食住、家族、社会活動、他者との交流等の視点から捉えることができる。 2. 各発達段階にある人々の健康のあり方を説明できる。								
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員
1	社会の変化と保健			社会の変化と保健に関わる意義、教育・指導とは何か				講義	豊永
2	保健指導の基礎理論(1)			健康信念モデル（ヘルスビリーフモデル）				講義	豊永
3	保健指導の基礎理論(2)			変化のステージモデル				講義 演習	豊永
4	成人期の健康(1)			成人期のライフイベントと健康 就労・結婚・出産・子育て・介護など				講義	豊永
5	成人期の健康(2)			成人期の健康を維持するしくみと看護 家族・地域・国や地方自治体の施策（産業保健含む）				講義	豊永
6	女性のライフステージと健康(1)			思春期、生殖期、更年期の健康課題と健康を守るしくみ 女性特有の健康課題と社会の取り組み				講義	豊永
7	女性のライフステージと健康(2)			妊娠・出産に関する健康課題と健康を守るしくみ 妊娠・出産を支援する取り組み				講義	豊永
8	家族の発達課題とライフイベント			子育てを支えるしくみと課題 Aさん家族の子育てを支えるしくみと課題				演習	豊永
9	小児期の健康(1)			乳幼児期の発達課題と健康を守るしくみ 家族・地域・国や地方自治体の施策（母子保健含む）				講義	豊永
10	小児期の健康(2)			学童期の発達課題と健康を守るしくみ 家族・地域・国や地方自治体の施策（学校保健含む）				講義	豊永
11	家族のライフイベントと健康(1)			家族の発達課題 Aさん家族の発達課題とライフイベント				演習	豊永
12	老年期の健康(1)			老年期のライフイベントと健康 退職・子供の巣立ち・配偶者の死など				講義	豊永
13	老年期の健康(2)			老年期の健康と生活を守るしくみ 家族・地域・国や地方自治体の施策				講義	豊永
14	家族のライフイベントと健康(2) 障害者・難病保健			介護を支えるしくみと課題 Aさん家族の介護を支えるしくみと課題 障害者・難病保健 家族・地域・国や地方自治体の施策				演習	豊永
15	学習のまとめ			まとめ				講義	豊永
評価方法									
評価指標	定期試験	小テスト	レポート			-	-	合計	
評価割合(%)	80	-	20			-	-	100	
教科書	神馬征峰他 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度② 公衆衛生 第 15 版 医学書院 ¥2,300+税 香春知永他 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学④ 臨床看護総論 第7版 医学書院 ¥2,500+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	金曜日 14：00～18：00								
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いので、理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。								

科目名		生活環境と健康状態に応じた看護Ⅲ (セルフケアの獲得と看護)					看護科		
学年	2 年	学期	前期	分野	専門	時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	濱田 純香			科目 担当者	濱田 純香				
科目 概要	ライフステージに応じたセルフケア獲得に関する基礎知識を基に，生活の様子や健康面での課題を理解し，対象者と家族の QOL の向上・充実にむけた看護を実践できる能力を修得する。								
到達 目標	1 対象の成長発達・加齢に応じたセルフケアの獲得および維持・促進の特徴について理解できる。 2. 各ライフステージの健康逸脱に対するセルフケアの獲得と必要な援助を理解できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当 教員	
1	セルフケア・自己管理支援			1) セルフケアの概念 2) セルフケア行動形成への影響要因 3) 自己管理支援			講義	濱田	
2	日常生活とセルフケアを支えるための看護			セルフマネジメントのための教育的関わり (生活指導)			講義	濱田	
3	セルフケア再獲得の支援方法			セルフケア再獲得モデルにおける各レベルに応じた支援(再獲得と自立・支援するシステム)			講義	濱田	
4	老年看護のなりたち			老年看護における理論・概念の活用			講義	濱田	
5	治療を必要とする高齢者の看護			検査/薬物療法/手術/リハビリテーション/入院治療における看護			講義	濱田	
6	子どもの発達とセルフケア，日常生活獲得への援助			成長・発達における日常生活行動の変化と自立 (食事/排泄/睡眠/更衣/清潔) 保育園・幼稚園児とのコミュニケーション			講義 演習	濱田	
7	日常生活を整える看護			慢性疾患をもつ子どもと家族への看護 発達段階に即したセルフケア支援			講義	濱田	
8	女性のライフサイクル各期を支えるための看護 (1)			母性準備期の性周期と月経調整			講義	濱田	
9	女性のライフサイクル各期を支えるための看護 (2)			母性成熟期の育児と家族計画・生殖器疾患			講義	濱田	
10	女性のライフサイクル各期を支えるための看護 (3)			母性継承期のホルモン変化と健康課題			演習	濱田	
11	ストレスと健康の危機			危機への対処 (コーピング)			講義	濱田	
12	回復 (リカバリー) を支える力			レジリエンス			講義	濱田	
13	サバイバーとしての患者とそのケア			回復への道程			演習	濱田	
14	地域で暮らす人々への看護の基本と療養生活をおくる人々を支える看護			地域で生活する人々への生活支援, 在宅で求められる看護技術，自立・自律支援/パートナーシップ			演習	濱田	
15	学習のまとめ			まとめ			講義	濱田	
評価方法									
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	合計	
評価割合 (%)		60	-	40	-	-	-	100	
教科書	「系統看護学講座 成人看護学総論，老年看護学，小児看護学概論・小児臨床看護総論，母性看護学概論，精神看護学の基礎，精神看護の展開，地域・在宅看護の基盤 医学書院」の中から必要に応じて指示する。								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	月曜日から金曜日 9：00～17：00								
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いので，理解度に合わせて日程および講義内容を変更することがある。								
担当教員の 実務経験	急性期から回復期および慢性期，退院支援まで 7 年の様々な臨床経験があり，科目の内容に精通している。								

科目名	生活環境と健康状態に応じた看護Ⅳ (薬物療法看護)						看護科		
学年	2 年	学期	後期	分野	専門	時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	平井 亨樹			科目 担当者	平井 亨樹				
科目 概要	発達段階かつ健康レベルに応じたあらゆる対象に、薬物療法の実施する意義・方法を理解し、生活者としての対象に薬物療法の指導・支援の必要性を看護の視点を踏まえて学ぶ。さらに、多くの疾患が薬物治療可能となってきた。しかし、複数の薬剤を投与される患者が増加している中で疾患に基づく薬物体内動態の変化に対応した投与設計を行い、安全でかつ有効な薬物治療を確立していく力を養う。								
到達 目標	1. 発達段階・健康レベルに応じた薬物療法の意義が理解できる。 2. 薬物療法を行っている対象者の看護が理解できる。 2. ヘルスプロモーション(健康知覚)についての知識をもとに、薬物療法を行っている対象者の支援方法や介入方法の選択ができる。								
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員
1	看護に必要な薬の基礎知識(1)			薬物療法の目的・意義 経口、注射、吸入、点眼、点鼻、座薬の投与方法				講義	平井
2	薬物療法を行う患者の理解(1)			発達段階に応じた薬物療法の意思決定				講義	平井
3	薬物療法を行う患者の理解(2)			健康レベルに沿った薬物療法(急性期・回復期)				講義	平井
4	薬物療法を行う患者の理解(3)			健康レベルに沿った薬物療法(慢性期・終末期)				演習	平井
5	小児への薬物療法の特徴(1)			小児の与薬方法				演習	平井
6	小児への薬物療法の特徴(2)			患児や家族への薬物療法の介入と支援方法				講義	平井
7	妊産褥婦への薬物療法の特徴			妊産褥婦への薬物療法の留意点				講義	平井
8	高齢者への薬物療法の特徴(1)			複数の薬剤を投与される高齢者への服薬管理				講義	
9	高齢者への薬物療法の特徴(2)			高齢者に特徴的な薬物有害事象				講義	
10	精神疾患患者への薬物療法(1)			精神科における薬物療法				講義	平井
11	精神疾患患者への薬物療法(2)			薬物療法を受けている精神患者の関わり				演習	平井
12	在宅患者への薬物療法			在宅患者への薬物療法の留意点				講義	平井
13	薬物療法をしている患者への看護(1)			〔事例展開〕服薬管理ができず、入院を繰り返す患者への服薬指導(1)				演習	平井
14	薬物療法をしている患者への看護(2)			〔事例展開〕服薬管理ができず、入院を繰り返す患者への服薬指導(2)				演習	平井
15	学習のまとめ			まとめ				演習	平井
評価方法									
評価指標	定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	100	-	-	-	-	-	-	100	
教科書	「系統看護学講座 専門分野 成人看護学 1～11、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学 医学書院」の中から必要に応じて指示する。								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いので、理解度に合わせて日程および講義内容を変更することがある。								

科目名	生活環境と健康状態に応じた看護Ⅴ (多職種連携)						看護科		
学年	2 年	学期	前期	分野	専門	時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	大森 幸江				科目 担当者	大森 幸江, 岩崎 瑞枝, 南 博子			
科目 概要	医療に従事する多種多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を前提に、目的と情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供するという多職種連携の一連の流れを生活環境と健康状態別に学ぶ。								
到達 目標	1. 多職種連携の意義と目的を説明できる。 2. 他の職種の役割や専門性を知ることを通じて、自分自身の職種の専門性、チームにおける役割や責任を理解することができる。								
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員
1	多職種連携とは			多職種連携の考え方, 意義,				講義	大森
2	各専門職種の役割			医療・福祉・保健に携わる関係職種の役割				講義	岩崎
3	保健医療チームの人間関係			医療におけるチームと看護師の役割				講義	岩崎
4	チームワーク			チームワークとチームエラー				演習	大森
5	コミュニケーション			コミュニケーションエラーとその予防				演習	大森
6	地域・在宅看護における連携			地域・在宅における連携の特徴と看護師の役割				講義	南
7	医療チームの理解(1)			医療チームの各専門職種の理解				講義	大森
8	医療チームの理解(2)			医療チームの各専門職種の理解				講義	大森
9	事例学習(1)			介護者がいない高齢者の在宅への退院支援				演習	大森
10	事例学習(2)			精神疾患を抱えた対象の社会復帰を支援する				演習	大森
11	多職種連携と記録			情報共有, 記録様式, 情報管理				講義	大森
12	カンファレンス			カンファレンスの意義, 多職種カンファレンス				演習	大森
13	専門職連携学習(1)			他学科の学生と協同学習				講義	大森
14	専門職連携学習(2)			他学科の学生と協同学習				演習	大森
15	学習のまとめ			グループワークと発表				演習	大森
評価方法									
評価指標	定期試験	小テスト	レポート	GW 参加態度	-	-	-	-	合計
評価割合(%)	60	-	20	20	-	-	-	-	100
教科書	茂野香おるほか 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学① 看護学概論 第17版 医学書院 ¥2,400+税 上別府圭子ほか 系統看護学講座 別巻 家族看護学 第2版 医学書院 ¥2,300+税 中山和弘ほか 系統看護学講座 別巻 看護情報学 第3版 医学書院 ¥2,500+税 石川ひろのほか 系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 第3版 医学書院 ¥2,200+税								
教材・参考図書	講義内で適宜紹介する。								
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いので、理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。								

科目名	生活環境と健康状態に応じた看護Ⅵ (臨床判断)						看護科		
学年	2 年	学期	後期	分野	専門	時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	田中 初枝				科目 担当者	村田 大輔, 立岡 孝之, 奥田 めぐみ 南原 智子, 田中 初枝, 豊永 由香, 三ツ野 佐代子			
科目 概要	看護の基本として多様な健康上のニーズを持つあらゆる発達段階の人々に、基本的な看護学の知識や技術を統合し、応用するプロセスを学ぶ。既習の解剖生理学, 病態生理学を基盤とした疾病構造を理解し、対象を身体のみならず精神的・社会的側面から捉える能力を養う。また、フィジカルイグザミネーションを活用した対象の観察から得られた情報をアセスメントし、看護実践に結び付ける過程を発達段階別の事例を通して学ぶ。								
到達 目標	1. 臨床判断に必要な知識と技術を説明できる。 2. 看護師が行う臨床判断の思考過程が説明できる。 3. 発達段階の特徴を踏まえたアセスメントができる。								
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員
1	臨床判断・倫理的配慮			臨床判断とは、臨床判断に必要な要素 臨床判断に必要な倫理的視点を考える				講義	田中
2	ヘルスアセスメント			フィジカルイグザミネーションの活用と応用				演習	立岡
3	地域・在宅(1)			気づきのトレーニング：在宅酸素の使用事例				演習	豊永
4	地域・在宅(2)			解釈のトレーニング：在宅酸素の使用事例				講義	豊永
5	小児(1)			気づきのトレーニング：転倒転落の危険事例				演習	奥田
6	小児(2)			解釈のトレーニング：転倒転落の危険事例				講義	奥田
7	老年(1)			気づきのトレーニング：認知症高齢者事例				演習	村田
8	老年(2)			解釈のトレーニング：認知症高齢者事例				講義	村田
9	精神(1)			薬物療法における臨床判断の場面を考える				講義	南原
10	精神(2)			薬物療法における臨床判断の場面を考える				講義	南原
11	母性			気づきのトレーニング：分娩期の対象事例				講義	三ツ野
12	成人(1)			術後の事例における臨床判断シミュレーション				演習	田中
13	成人(2)			術後の事例における臨床判断シミュレーション				演習	田中
14	グループワーク			事例展開での学びの共有				演習	田中
15	学習のまとめ			まとめ				演習	田中
評価方法									
評価指標	定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	50	-	50	-	-	-	-	100	
教科書	香春知永他 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学④ 臨床看護総論 第7版 医学書院 ¥2,500+税 茂野香おる他 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 第19版 医学書院 ¥2,600+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いので、理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。								

看護の統合と実践

<ねらい>

- 看護管理の原則を理解し、よりよい看護サービスとは何かを考える。
- 医療安全についての基礎知識を学び、安全を守るための看護の方法を理解する。
- 災害サイクルに応じた看護の必要性について理解し、災害時の看護について考える。
- 事例研究を行い、発表を通して自己の看護観を養う。
- 看護実践能力を評価し、自己の課題を明確にする。

<構 成>

教育内容	科 目	単位	時間数
看護の統合と実践	看護の統合と実践Ⅰ(看護管理)	1	30
	看護の統合と実践Ⅱ(医療安全)	1	30
	看護の統合と実践Ⅲ(災害看護・国際看護)	1	30
	看護の統合と実践Ⅳ(看護研究)	1	30
	看護の統合と実践Ⅴ(キャリア開発)	1	30

看護の統合と実践

<ねらい>

看護の統合と実践では，既習の知識・技術・態度（倫理）を統合し，より現実性のある状況に対応できる基礎的能力を養う。

<目 的>

看護の統合と実践では，看護管理，医療安全，災害看護・国際看護，看護研究・基礎看護技術評価に必要な知識・技術・態度（倫理）を修得する。また，統合した知識・技術をもとに対象の状況判断，対象者の状態に応じた方法の選択と実施ができる能力を修得する。

<ねらい>

1. 保健医療福祉機関における活動を取り巻くものについて知り，看護管理の原則を理解する。
2. 医療事故の原因を理解し，安全対策の方法が理解できる。
3. 災害サイクル各期の看護の介入法を理解する。
4. 国際社会の中で，看護職として広い視野を持ち協働することを理解する。
5. 看護研究の基本的知識・態度を修得し，研究計画から発表までの一連の流れの実施できる。
6. 看護実践能力を評価し，自己の課題を明確にすることができる。

科目名	看護の統合と実践Ⅰ (看護管理)						看護科		
学年	3 年	学期	前期	分野	専門	時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	瀬戸山 美和				科目 担当者	瀬戸山 美和, 野田 建二, 河野 節夫, 関谷 弘子			
科目 概要	看護サービスを提供するためにあらゆる社会資源をどのように活用するかは重要なことであり, それらの維持と活用するための仕組みを学ぶ。看護マネジメントに必要な専門的知識や技術を習得し, 看護職個人として及び組織としての管理の実際を学ぶ。そして, 専門職としての「看護職者」のキャリア形成についての知識を修得する。								
到達 目標	1. 保健医療福祉機関における活動を取りまくものについて学び, 看護管理の原則を理解できる。 2. 組織内における看護管理の実際について理解できる。 3. 看護職者のキャリア形成について理解できる。								
回数	単元項目				授業内容			形態	担当教員
1	看護とマネジメント				看護管理とは, 専門職とは			講義	野田
2	看護師の仕事とその管理(1)				マネジメントとは, 人材マネジメント			講義	関谷
3	看護師の仕事とその管理(2)				モノ・情報・コストの管理, 看護提供システム			講義	関谷
4	看護の質向上(1)				看護管理と倫理, 医療安全			講義	関谷
5	看護の質向上(2)				感染対策(1)			講義	河野
6	看護の質向上(3)				感染対策(2)			講義	河野
7	看護管理に求められる能力(1)				セルフマネジメントスキル			講義	関谷
8	看護管理に求められる能力(2)				人とかかわるためのスキル			講義	関谷
9	看護管理に求められる能力(3)				集団に働きかけるスキル			講義	関谷
10	看護職とキャリア				社会人になる, 看護職としてのキャリア			講義	野田
11	看護と経営				医療と経済, 看護職にかかわる制度 病院経営と看護管理			講義	野田
12	看護活動を取りまく諸制度				看護管理に関連する法律, 保健医療福祉政策と最近の動向, 看護と専門機関・職能団体			講義	野田
13	チーム医療の実際(1)				病院以外で働く看護師, 患者の声(1)			講義	瀬戸山
14	チーム医療の実際(2)				病院以外で働く看護師, 患者の声(2)			講義	瀬戸山
15	学習のまとめ				看護管理のまとめ			講義	瀬戸山
評価方法									
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	合計	
評価割合(%)		100	-	-	-	-	-	100	
教科書	上泉和子他 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践① 看護管理 第11版 医学書院 ¥2,500+税								
教材・参考図書	厚生統計協会編集 国民衛生の動向 厚生統計協会出版 ¥2,400+税								
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いので, 理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。								

科目名	看護の統合と実践Ⅱ (医療安全)					看護科				
学年	2 年	学期	後期	分野	統合		時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	南原 智子			科目 担当者	南原 智子, 布田 めぐみ, 宮永 美津子					
科目 概要	医療安全における基本的な知識, および看護職の責務と役割について理解する。また, 医療現場における危険の予知と回避, および事故防止などの安全対策の理論と方法を習得し, 多職種と協働・連携の重要性を理解し, 実際の医療事故から安全対策を考える能力を修得する。									
到達 目標	1. 医療安全に関する国の取り組みが理解できる。 2. 医療事故の原因を理解し, 安全対策に取り組む姿勢を養うことできる。 3. 過去に起こった実際の医療事故を通して, 安全な対策を述べるができる。									
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員	
1	医療安全と看護理念			医療安全を学ぶことの重要性, 過去の事例から学ぶ				講義	南原	
2	事故発生のメカニズム			事故防止の考え方を学ぶ ヒューマンエラーとは, 看護事故の構造・防止の考え方				講義	南原	
3	診療の補助の事故防止(1)			業務特性からみた患者に投与する業務の事故防止				講義	宮永	
4	診療の補助の事故防止(2)			注射業務・輸血業務と事故防止				講義	宮永	
5	診療の補助の事故防止(3)			内服与薬・経管栄養業務と事故防止				講義	宮永	
6	診療の補助の事故防止(4)			チューブ管理と事故防止(1)				講義	宮永	
7	診療の補助の事故防止(5)			チューブ管理と事故防止(2)				講義	宮永	
8	間違いと発生要因			業務領域をこえて共通する間違いと発生要因				講義	宮永	
9	療養上の世話の事故防止(1)			転倒・転落, 外傷予防, 入浴中の事故防止				演習	南原	
10	療養上の世話の事故防止(2)			摂食中の窒息・誤嚥, 異食事故防止				講義	南原	
11	医療事故の予防(1)			事故分析の考え方と具体的な方法 患者の誤認防止策, 事故発生時の速やかな報告				講義 演習	南原	
12	医療事故の予防(2)			危険予知力を高める<危険予知トレーニング KYT>				演習	南原	
13	組織としての安全管理(1)			医療安全とコミュニケーション 看護師の労働安全衛生上の事故防止				講義	布田	
14	組織としての安全管理(2)			組織的な安全管理体制への取り組み 医療安全対策の国内外の潮流				講義	布田	
15	学習のまとめ			医療安全のまとめ				演習	南原	
評価方法										
評価指標		定期試験		レポート	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)		80		20	-	-	-	-	100	
教科書	川村治子 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践② 医療安全 第5版 医学書院 ￥2,300+税									
教材・参考図書		小林美亜 編 医療安全 第2版 Gakken 川島みどり 編 ヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 第1版 医学書院 杉山良子 編 ナースのための危険予知トレーニングテキスト 第1版 メディカ出版								
オフィスアワー		火曜日 14:00~18:00								
履修上の 注意点		講義の内容は専門性が高いので, 理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。 ニュース, 新聞, インターネットなどで医療・看護に関する情報に触れ, 考える習慣を持つこと。								

科目名		看護の統合と実践Ⅲ (災害看護・国際看護)				看護科			
学年	3 年	学期	前期	分野	専門	時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	瀬戸山 美和				担当 教員	瀬戸山 美和, 立岡 孝之			
科目 概要	災害看護の概要を学ぶとともに, 災害に対する看護の基本的な知識・技術・役割について理解する。また, 災害各期の看護活動を専門的知識・技術・態度を統合し応用できる基礎的能力を養う。 国際看護学の定義と意義を理解し, 異文化の中で看護活動を展開する際に必要な配慮や心構えについて修得する。国際協力における看護師の役割について考える能力を修得する。								
到達 目標	1. 災害及び災害看護に関する基礎知識と, 災害時における看護の役割を理解できる。 2. 地域と密着した災害発生時の対応について理解できる。 2. 看護職として国際的視野をもち, 看護を取り巻く社会の情勢を理解できる。								
回数	単元項目				授業内容			形態	担当教員
1	災害看護の基礎知識 (1)				災害のとらえ方, 求められる災害看護 災害看護の定義と役割, 災害看護の対象者			講義	立岡
2	災害看護の基礎知識 (2)				災害医療の特徴, 救急医療と災害医療の相違			講義	立岡
3	災害サイクルと看護 (1)				①発災～災害急性期 ②亜急性期～慢性期			講義	立岡
4	災害サイクルと看護 (2)				③復興期 ④静穏期 ⑤前兆期			講義	立岡
5	災害サイクルと看護 (3)				活動の場における看護 (救護所・避難所)			講義	立岡
6	災害時の社会の対応				災害に関連する制度, 災害と情報			講義	立岡
7	災害時の個人の備え				個人の備え, 地域防災, 災害ボランティア活動			講義	立岡
8	災害が心身に及ぼす影響				被災者特性に対する災害看護, 被災者・遺族・被災救援者・救援者の心のケア			講義	立岡
9	トリアージ・応急処置・搬送法 (1)				トリアージ・応急処置・搬送法とは			演習	立岡
10	トリアージ・応急処置・搬送法 (2)				トリアージ・応急処置・搬送法とは			演習	立岡
11	トリアージ・応急処置・搬送法 (2)				トリアージ・応急処置・搬送法とは			演習	立岡
12	国際看護とは				国際看護学の定義, 世界の人口と地域区分及び保健指標の格差, (調査グループ編成)			講義	瀬戸山
13	先進国の保健医療制度				先進国と開発途上国の区分, 日本・米・豪の保健医療制度の比較			講義	瀬戸山
14	国際協力機関・組織とそのシステム, 協力の展開				我が国の政府開発援助, 国際及び国内非政府組織, 異文化への配慮と看護の視点			演習	瀬戸山
15	開発途上国及び先進国の健康問題の背景と現状				選定国調査・アクティブラーニング			講義	瀬戸山
評価方法									
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	-	-	-	合計	
評価割合 (%)		50	-	50	-	-	-	100	
教科書	竹下喜久子他著 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学 第 5 版 医学書院 ¥2,500+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いため理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。 演習に必要な物品を各自準備して臨むこと。(事前連絡あり)								

科目名		看護の統合と実践Ⅳ (看護研究)				看護科			
学年	3 年	学期	後期	分野	専門	時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	瀬戸山 美和				科目 担当者	瀬戸山 美和			
科目 概要	既習した専門的知識・技術を統合して、実践的に応用し、看護の質を向上するために、看護研究に対する基礎知識を学習し、研究能力を養う。症例研究を実際に行い、研究計画書の作成からプレゼンテーションまでのプロセスを体験する。看護研究の科学的な視点によりクリティークする能力を修得する。								
到達 目標	1. 症例研究を実際に行い、論文作成からプレゼンテーションまでのプロセスを体験し、理解できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	看護研究とは 看護研究のクリティーク			質的研究と量的研究, 研究の種類, 研究の必要性, クリティークするために必要な能力と留意点			講義	瀬戸山	
2	研究における倫理			研究において擁護される権利, 文献とは			講義	瀬戸山	
3	看護研究の実際(1)			研究発表の参加			演習	瀬戸山	
4	看護研究の実際(2)			研究発表の参加			演習	瀬戸山	
5	看護研究の実際(3)			研究計画書の書き方			講義	瀬戸山	
6	看護研究の実際(4)			プレゼンテーション方法			講義	瀬戸山	
7	看護研究の実際(5)			症例研究の書き方(1)			演習	瀬戸山	
8	看護研究の実際(6)			症例研究の書き方(2)			演習	瀬戸山	
9	看護研究の実際(7)			症例研究の書き方(3)			演習	瀬戸山	
10	看護研究の実際(8)			症例研究の書き方(4)			演習	瀬戸山	
11	看護研究の実際(9)			症例研究の書き方(5)			演習	瀬戸山	
12	看護研究の実際(10)			プレゼンテーション準備			演習	瀬戸山	
13	看護研究の実際(11)			プレゼンテーション準備			演習	瀬戸山	
14	看護研究の実際(12)			事例研究発表(1)			演習	瀬戸山	
15	看護研究の実際(13)			事例研究発表(2)			演習	瀬戸山	
評価方法									
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	実技	-	-	-	合計
評価割合 (%)		-	-	100	-	-	-	-	100
教科書	坂下玲子他 系統看護学講座 別巻 看護研究 第2版 医学書院 ¥2,500+税								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いため理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。								

科目名	看護の統合と実践Ⅴ (キャリア開発・技術評価)					看護科			
学年	3 年	学期	前後期	分野	専門	時間数	30 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	瀬戸山 美和			科目 担当者	瀬戸山 美和, 行徳 倫子				
科目 概要	キャリアとは何か理解し, 看護専門職としてのキャリアデザインができる基礎的能力を修得する。 また, 看護技術の総合的な実践能力を修得する。								
到達 目標	1. 看護専門職としての成長について理解する。 2. 看護の専門性を発展させることの必要性, 自己研鑽の意義を理解する。 2. 看護技術を総合的に実践できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	本科目のねらい キャリア			キャリアの意味, 内的・外的キャリアとは			演習	行徳	
2	キャリアデザイン(1)			キャリアデザインの実際(1)			演習	行徳	
3	キャリアデザイン(2)			キャリアデザインの実際(2)			演習	行徳	
4	キャリアデザイン(3)			グループ討議			演習	行徳	
5	キャリアデザイン(4)			グループ討議			演習	行徳	
6	キャリアデザイン(5)			グループ発表			演習	行徳	
7	キャリアデザイン(6)			私のキャリアデザイン発表			演習	瀬戸山	
8	技術評価(1)			看護場面に応じたケアの提供(1)			演習	瀬戸山	
9	技術評価(2)			看護場面に応じたケアの提供(2)			演習	瀬戸山	
10	技術評価(3)			看護場面に応じたケアの提供(3)			演習	瀬戸山	
11	技術評価(4)			看護場面に応じたケアの提供(4)			演習	瀬戸山	
12	技術評価(5)			看護場面に応じたケアの提供(5)			演習	瀬戸山	
13	技術評価(6)			看護場面に応じたケアの提供(6)			演習	瀬戸山	
14	技術評価(7)			看護場面に応じたケアの提供(7)			演習	瀬戸山	
15	技術評価(8)			看護場面に応じたケアの提供(8)			演習	瀬戸山	
評価方法									
評価指標		定期試験	小テスト	レポート	実技	-	-	合計	
評価割合(%)		-	-	50	50	-	-		
教科書	上泉和子他 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践① 看護管理 第 11 版 医学書院 ¥2,500+税								
教材・参考図書	茂野香おる他 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 第 18 版 医学書院 ¥2,900+税								
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	講義の内容は専門性が高いため理解度に合わせて日程及び講義内容を変更することがある。								

専 門 分 野 臨 地 実 習

2 3 単 位 （1005 時間）

<ねらい>

- 生活者としての人間を包括的に理解する。
- 人が生まれること、生むこと、健やかに育むことを支援するための基礎能力を養う。
- 人間のもつ機能と能力の障害・喪失により生じる様々な影響を理解し、その人がその人らしく生活するための日常生活の援助を実践する。
- 各発達段階において多彩な健康課題を有する対象者に、科学的根拠に基づき看護実践ができる基礎的能力を養う。
- 人生の終焉にある人とそれを取りまく人々へ対する看護を学ぶ。
- 看護の専門職業人として、総合保健医療における看護の役割を認識し、その役割を果たす能力を養う。
- 地域で生活する対象者の多彩なニーズに対応する在宅ケアシステムにおける看護のあり方を学ぶ。
- 在宅福祉資源の利用を支援する方法を学ぶ。
- 地域保健活動の実際を理解し、地域における看護の役割と関連職種との連携について学ぶ。
- チーム医療および他職種と協働しながら、看護の実際をマネジメントする。
- 看護への探求心を高め自らの看護観を明らかにする。

<構 成>

教育内容	科 目	単位	時間数
基礎看護学	基礎看護学実習Ⅰ	1	45
	基礎看護学実習Ⅱ	2	90
地域・在宅看護論	地域・在宅看護論実習Ⅰ	1	45
	地域・在宅看護論実習Ⅱ	2	90
成人看護学	成人看護学実習Ⅰ	3	135
	成人看護学実習Ⅱ	3	135
老年看護学	老年看護学実習	2	90
小児看護学	小児看護学実習	2	90
母性看護学	母性看護学実習	2	60
精神看護学	精神看護学実習Ⅰ	1	45
	精神看護学実習Ⅱ	2	90
看護の統合と実践	統合実習	2	90
合 計		23	1005

基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ（3単位 135時間）

【目的】

学んだ知識や方法を臨地で体験し、対象者の理解および看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を修得する。

【目標】

1. 看護者としての基本的態度を修得する。
2. 入院生活をしている対象者の生活を整える援助を行う。
3. 看護過程を通して看護を実践するための基本的方法を修得する。
4. 自己の看護観を養う。

【構成】

基礎看護学	基礎看護学実習Ⅰ	対象者に応じた日常生活援助と看護	1単位	45時間
	基礎看護学実習Ⅱ	看護過程の展開による受け持ち患者への看護	2単位	90時間

科目名	基礎看護学実習 I							看護科	
学年	1 年	学期	後期	分野	専門	時間数	45 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	平井 亨樹			科目 担当者	大森 幸江, 平井 亨樹, 田中 初枝, 村田 大輔 立岡 孝之, 豊永 由香, 濱田 純香, 奥田 めぐみ 中村 春美, 三ツ野 佐代子, 南原 智子, 上野 満里				
科目 概要	生活者としての人間を包括的に理解する必要がある。特にコミュニケーションを通して対象者を理解する。対象者の療養生活や、日常生活援助を通して、看護活動の必要性を認識し、看護を実施するための専門的知識と技術を実践的に応用できる基礎的な方法を修得する。								
到達 目標	1. 病院の概要や機能について知り、患者の療養環境について理解できる。 2. 人間関係を形成するために、コミュニケーションが重要であることが理解できる。 3. 生活を整えるための援助に必要な情報収集方法がわかる。 4. 患者に応じた生活を整えるための援助の必要性がわかる。 5. 看護チームの一員であることを自覚した責任のある行動がとれる。 6. 今後の自己の課題を考えることができる。								
	実習場所	授業内容						形態	担当教員
	学内 病棟	実 習 期 間：令和6年11月25日～12月13日（5日間） 実 習 時 間：8：30～15：45（実習時間9時間） 実 習 先：福岡記念病院・牟田病院 別府病院・諸岡整形病院 実 習 方 法：学生5～6名を1グループとし、4日間の病棟実習にて 入院患者を1名受け持ち、5日目に学内実習を実施する。 実習の詳細：入院患者を1名受け持ち、日常生活援助を実践し、実習記録に記載する。実習終了後、受け持ち患者への援助を振り返り、学びを共有する。詳細は実習要項を参照する。						実習	大森 平井 田中初 村田 立岡 豊永 濱田 奥田 中村 三ツ野 南原 上野
評価方法									
評価指標	実習評価表	-	-	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)	100	-	-	-	-	-	-	100	
教科書	実習内容、受け持ち対象者に応じて必要なもの。								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	実習オリエンテーション時に提示する。								
履修上の 注意点	学習内容は、事前の実習オリエンテーション時に提示する。病院および施設内での実習となるため、自己の健康管理に努めること。								

科目名	基礎看護学実習Ⅱ						看護科		
学年	2 年	学期	前期	分野	専門	時間数	90 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	平井 亨樹			科目 担当者	大森 幸江, 平井 亨樹, 田中 初枝, 村田 大輔 立岡 孝之, 豊永 由香, 濱田 純香, 奥田 めぐみ 中村 春美, 三ツ野 佐代子, 南原 智子, 上野 満里				
科目 概要	病気の進行, 合併症や再発予防に向けたセルフケアが必要な入院患者を対象に, 看護過程を展開しながら患者の捉え方と, 援助の人間関係構築に向けた看護師の姿勢について学ぶ。患者のセルフケア能力のアセスメントを行い, 病状に応じた日常生活自立のための援助方法, 残存機能や健康障害の程度に応じた日常生活行動の拡大・自立への援助の方法を考え, 専門的知識と技術を統合し, 看護計画に取り入れ, 実施できる能力を養う。								
到達 目標	1. 受け持ち患者の情報をアセスメントし, 基本的ニーズに基づく援助の必要性を理解する。 2. 収集した情報を分析し, 看護診断をあげる。 3. 看護診断により看護目標を設定し, 看護計画を立案する方法を知る。 4. 看護計画に沿って安全・安楽に看護を実践することができる。 5. 患者の反応や満足度から, その効果について評価し, 計画の追加修正を行う必要性を理解する。 6. 良好な人間関係構築のための方法を理解する。 7. 自己の看護観を養う。 8. 看護者として基本的態度を身につけ, 自ら学び続ける姿勢をもつ。								
	実習場所	授業内容						形態	担当教員
	学内 病棟	実 習 期 間 : 令和 7 年 6 月 2 日～6 月 27 日 (10 日間) 実 習 時 間 : 8 : 30～15 : 45 (実習時間 9 時間) 実 習 先 : 福岡記念病院・牟田病院・別府病院 福西会病院・諸岡病院 実 習 方 法 : 学生 5～6 名を 1 グループとし, 9 日間の病棟実習にて入院患者を 1 名受け持つ (実習 5 日目学内実習を含む)。10 日目学内にて検討会を実施する。 実習の詳細 : 入院患者を 1 名受け持ち, 看護過程の展開を行い, ADL 拡大や自立に向けて必要な看護を実践し, 実習記録に記載する。実習最終日, 受け持ち患者への援助を振り返り, 学びを共有する。詳細は実習要項を参照する。						実習	大森 平井 田中 村田 立岡 豊永 濱田 奥田 中村 三ツ野 南原 上野
評価方法									
評価指標	実習評価表	-	-	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)	100	-	-	-	-	-	-	100	
教科書	実習内容, 受け持ち対象者に応じて必要なもの。								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	実習オリエンテーション時に提示する。								
履修上の 注意点	学習内容は, 事前の実習オリエンテーション時に提示する。病院での実習となるため, 自己の健康管理に努めること。								

地域・在宅看護論実習Ⅰ・Ⅱ（3単位 135時間）

【目的】

社会資源を活用し地域で生活をしている対象者を理解し，その対象者の健康の保持・増進，QOLを向上させるための看護活動を修得する。

【目標】

1. 地域で生活する対象者の多彩なニーズに対応する在宅ケアシステムにおける看護のあり方を学ぶ。
2. 対象者の心身の健康状態の回復・維持・増進をめざす援助を体験する。
3. 対象者が望む生き方，暮らし方を支え，生活の質の維持・向上について考える。
4. 在宅福祉資源の利用を支援する方法を学ぶ。
5. 地域保健活動の実際を理解し，地域における看護の役割と関連職種との連携について学ぶ。

【構成】

地域・在宅 看護論	地域・在宅 看護論実習Ⅰ	地域で生活をしている対象者の健康を理解とQOLを 向上させるための看護	1単位	45時間
	地域・在宅 看護論実習Ⅱ	対象を支える社会資源の理解と多職種と連携し現 状の生活をふまえた看護	2単位	90時間

科目名	地域・在宅看護論実習Ⅰ					看護科			
学年	1 年	学期	前期	分野	専門	時間数	45 時間	単位数	1 単位
科目 責任者	豊永 由香			科目 担当者	豊永 由香, 平井 亨樹, 瀬戸山 美和				
科目 概要	社会資源を活用し地域で生活をしている対象者の健康を保持・増進し, QOL を向上させるための看護活動を修得する。また, 生活を営むために必要な生活援助は何かを導き出し, 援助を実施するための基礎的な知識・技術・態度を修得する。								
到達 目標	1. 高齢者の生活を支える短期入所施設・デイサービスセンターの役割を理解することができる。 2. 高齢者の健康を支える関係職種との連携・協力について考えることができる。 3. 加齢や疾患に伴う機能障害による生活行動への影響を理解することができる。								
	実習場所		授業内容				形態		担当教員
	学内		実 習 期 間 : 令和 6 年 8 月 5 日 ~ (3 日間) 実 習 時 間 : 9:00~16:15 (実習時間 9 時間) 実 習 方 法 : 実習オリエンテーション 現地オリエンテーション 実習検討会 実習の詳細 : 実習要項を参照する。				実習		豊永
	看護小規模 多機能 グループホーム デイサービス		実 習 期 間 : 令和 6 年 9 月 2 日 ~ 9 月 13 日 (2 日間) 実 習 時 間 : 8:30~15:45 (実習時間 9 時間) 実 習 先 : ケアリング城南デイサービス グループホーム竹の庵 看護小規模多機能かたえの杜 西寿 ショートステイ 西寿 デイサービス 特別養護老人ホームたんたん 実 習 方 法 : 学生 4~6 名を 1 グループとし, 2 日間の 実習を行う。 実習の詳細 : 実習要項を参照する。				実習		豊永 平井 瀬戸山
評価方法									
評価指標	実習評価表		-	-	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	100		-	-	-	-	-	-	100
教科書	河原加代子著 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論① 地域・在宅看護の基盤 第 6 版 ¥2,000+税								
教材・参考図書	実習オリエンテーション時に適宜紹介する。								
オフィスアワー	実習オリエンテーション時に提示する。								
履修上の 注意点	学習した日常生活援助は, グループで演習計画を立て演習を行い, 実習に臨む。 事前学習内容は, 実習オリエンテーション時に提示する。								

科目名	地域・在宅看護論実習Ⅱ					看護科			
学年	3 年	学期	通年	分野	専門	時間数	90 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	豊永 由香			科目 担当者	豊永由香, 上野 満里, 田中 初枝, 村田 大輔				
科目 概要	地域で生活するさまざまなライフステージ・健康レベルにある人々や家族を理解し, 健康を保持・増進し, QOL を向上させるための看護活動について学ぶ。また, 対象を支える社会資源を知り, 現状の生活をふまえた看護を実践できる専門的知識・技術・態度を統合して実践できる基礎的能力を修得する。								
到達 目標	1. 医療機関の訪問看護・訪問看護ステーションの概要や特徴を理解する。 2. 地域で生活する療養者とその家族を理解し, ニーズに応じた援助の実際と社会資源の活用方法・関係機関・職種との連携や看護師の役割を学ぶ。 3. 介護老人福祉施設（地域密着型特別養護老人ホーム）の役割や短期入所生活介護の実際を理解し, 関連職種との連携の必要性を学ぶ。 4. 病院から地域に戻り療養生活を送るために, 患者とその家族の主体性を尊重しながら, 退院後の療養生活への支援を行う医療職者の役割を理解する。 5. 病院での退院支援の実際から退院支援の方法や, 診療所外来での在宅療養支援の実際から在宅療養支援の方法を学び, 関係職種との連携, 社会資源の活用方法を学ぶ。								
	実習場所	授業内容					形態	担当教員	
	訪問看護ステーション	実 習 期 間：令和 8 年 5 月 11 日～11 月 6 日（5 日間） 実 習 時 間：9:00～16:15（実習時間 9 時間） 実 習 先：友田病院訪問看護リハビリステーション アップルハート訪問看護ステーション福岡西 アスター訪問介護ステーション 実 習 方 法：1 日間, 現地オリエンテーション・実習オリエンテーション後, 学生 2～4 名を 1 グループとし, 5 日間の実習を行う。 実習の詳細：実習要項を参照する。					実習	豊永 上野	
	地域連携室	実 習 期 間：令和 8 年 5 月 11 日～11 月 6 日（5 日間） 実 習 時 間：9:00～16:15（実習時間 9 時間） 実 習 先：福岡記念病院, 諸岡整形外科病院 実 習 方 法：学生 2～3 名を 1 グループとし, 5 日間の実習を行う。 実習の詳細：実習要項を参照する。					実習	田中 村田	
評価方法									
評価指標	実習評価表	-	-	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)	100	-	-	-	-	-	-	100	
教科書	河原加代子著 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論① 地域・在宅看護の基盤 第 6 版 ¥2,000+税 河原加代子著 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論② 地域・在宅看護の実践 第 6 版 ¥2,000+税								
教材・参考図書	実習オリエンテーション時に適宜紹介する。								
オフィスアワー	実習オリエンテーション時に提示する。								
履修上の 注意点	学習した日常生活援助は, グループで演習計画を立て演習を行い, 実習に臨む。 事前学習内容は, 実習オリエンテーション時に提示する。								

成人看護学実習（健康状態別看護実習）Ⅰ・Ⅱ（6単位 270時間）

【目的】

成人・老年期にある対象とその家族の健康問題を理解し、基礎看護学で学んだ看護過程のプロセスを用い、あらゆる健康段階に応じた看護を実践する能力を修得する。

【目標】

1. さまざまな健康段階にある対象者を四側面から捉えることができる。
2. QOLを高め、日常生活を円滑に行うための援助が実施できる。
3. 対象者の健康段階に応じた看護過程の展開ができる。
4. 保健医療福祉チームメンバーの連携と看護の役割を理解する。
5. 看護介入の視点を明らかにし、個別性をとらえた看護実践ができる。
6. 健康の維持・増進にむけた看護の役割を理解することができる。
7. 他者とのかかわりを通し、自己と他者への気づきを深めるとともに、自己の看護観を育む。

【構成】

成人看護学	成人看護学実習Ⅰ （健康状態別）	回復期・慢性期の対象者の回復を促進する看護 近い将来、死をまぬがれない対象者への看護	3単位	135時間
	成人看護学実習Ⅱ （健康状態別）	急性期、回復期・リハビリテーション期の対象者の回復を促進する看護	3単位	135時間

原則として、1実習で受け持ち対象者1名を通して看護の実践を学ぶ。

科目名		成人看護学実習Ⅰ (健康状態別看護実習)					看護科		
学年	2 年	学期	後期	分野	専門	時間数	135 時間	単位数	3 単位
評価 担当	立岡 孝之			担当 教員	平井 亨樹, 田中 初枝, 村田 大輔 立岡 孝之, 豊永 由香, 濱田 純香, 奥田 めぐみ 中村 春美, 田中 桃子, 三ツ野 佐代子, 上野 満里				
科目 概要	慢性期・リハビリテーション期にある対象者の健康障害, 診断・治療についての専門的知識・技術・態度を統合した看護過程の展開を通し, 対象者および家族へのセルフケアや QOL を高めるための看護の実践能力を修得する。								
到達 目標	1. 回復期・慢性期・リハビリテーション期の対象者を身体的・精神的・社会的側面から理解することができる。 2. 回復期・慢性期・リハビリテーション期の対象の健康段階に応じた看護過程の展開ができる。 3. QOL を高め, 日常生活を円滑に行うための援助が実施できる。 4. 在宅に向けての看護の役割を理解することができる。 5. 回復期・慢性期・リハビリテーション期の対象者との関わりを通じて, 自己の看護観を養うことができる。								
	実習場所	授業内容					形態	担当教員	
	学内 病棟	実 習 期 間 : 令和 8 年 1 月 13 日～2 月 20 日 (15 日間) 実 習 時 間 : 8:30～15:45 (実習時間 9 時間) 実 習 先 : 福岡記念病院, 福西会病院 牟田病院, 諸岡整形外科病院 実 習 方 法 : 実習オリエンテーションを 1 日実施後, 学生 5～6 名を 1 グループとし, 10 日間の病棟実習にて入院患者を 1 名受け持つ。14 日目学内にて合同検討会を実施する。 実習の詳細: 病棟で学生 1 名に対して回復期・慢性期・リハビリテーション期にある対象者を 1 名受け持ち, 機能回復・退院に向けて必要な看護を実践し, 実習記録に記載する。詳細は実習要項を参照する。					実習	平井 田中初 村田 立岡 濱田 奥田 田中桃 中村 三ツ野 上野	
評価方法									
評価指標	実習評価表	-	-	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)	100	-	-	-	-	-	-	100	
教科書	実習オリエンテーション時に適宜紹介する。								
教材・参考図書	実習オリエンテーション時に適宜紹介する。								
オフィスアワー	実習オリエンテーション時に提示する。								
履修上の 注意点	学習した日常生活援助は, グループで演習計画を立て演習を行い, 実習に臨む。 事前学習内容は, 実習オリエンテーション時に提示する。								

科目名		成人看護学実習Ⅱ (健康状態別看護実習)					看護科		
学年	3 年	学期	通年	分野	専門	時間数	135 時間	単位数	3 単位
科目 責任者	濱田 純香			科目 担当者	平井 亨樹, 田中 初枝, 立岡 孝之, 濱田 純香				
科目 概要	急性期・回復期・リハビリテーション期にある対象とその家族への看護を実践し、機能回復につながる日常生活動作の援助、再発防止と健康管理、退院支援と調整の基礎的能力を修得する。一連の看護実践過程をととして臨床判断を行う基礎的能力を養う。また、救急外来実習を通し、健康危機的状況にある対象者の特徴とクリティカル領域における看護師の役割を理解し、チーム医療のあり方を学ぶ。さらに、健診センター実習を通し、健診センターの概要を理解し、ヘルスプロモーションについて考える。								
到達 目標	1. 急性期・回復期・リハビリテーション期の対象を身体的・精神的・社会的・霊的側面から理解できる。 2. 急性期・回復期・リハビリテーション期の対象の回復過程に応じた看護を実践し、評価できる。。 3. 保健医療福祉チームメンバーの連携と看護の役割を理解できる。 4. 健診センターの概要を理解し、ヘルスプロモーションについて考えることができる。 5. 一連の看護実践過程の省察をととして、自身の看護観を育むことができる。								
	実習場所		実習内容					形態	担当教員
	学内 病棟		実 習 期 間：令和 8 年 5 月 11 日～11 月 6 日（10 日間） 実 習 時 間：8：30～15：45（実習時間 9 時間） 実 習 先：福岡記念病院, 福西会病院 実 習 方 法：実習初日に実習オリエンテーション・事例によるシミュレーション演習を 1 日間行い、その後学生 5～6 名 1 グループとし、9 日間の病棟実習を行う（学内実習 1 日間を含む）。 実習の詳細：病棟で学生 1 名に対して侵襲的治療を行った対象者や、回復期・リハビリテーション期にある対象者を 1 名受け持ち、生体侵襲に対する看護や、機能回復に必要な看護を実践し、実習記録に記載する。対象者に関わる多職種との連携について学ぶ。					実習	田中初 平井 立岡 濱田
	救急外来		実 習 期 間：令和 8 年 5 月 11 日～11 月 6 日（2 日間） 実 習 時 間：8：30～15：45（実習時間 9 時間） 実 習 先：福岡記念病院 実 習 方 法：学生 2～3 名を 1 グループとし、3 日間の実習を行う。 実習の詳細：危機的状況にある対象者に提供される医療・看護場面を見学し、看護師の役割および保健医療福祉チームメンバーとの連携について 2 日目学内実習にて検討討議を行う。					実習	田中 平井
	健診センター		実 習 期 間：令和 8 年 5 月 11 日～11 月 6 日(2 日間) 実 習 時 間：8:30～15:45（実習時間 9 時間） 実 習 先：福岡記念病院総合健診センター 実 習 方 法：学生 2～3 名を 1 グループとし、2 日間の実習を行う。 実習の詳細：健診センター受診者に行われる検査をととし、健診の意義と看護師の役割について学ぶ。					実習	立岡 濱田
評価方法									
評価指標	実習評価表	-	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	100	-	-	-	-	-	-	100	
教科書	実習オリエンテーション時に提示する。								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	実習時に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	学習内容は、事前の実習オリエンテーション時に提示する。 病院内での実習となるため、自己の健康管理に努めること。								

老年看護学実習（2 単位 90 時間）

【目的】

老年期にある対象者を理解し、既に修得した老年看護学の諸理論，知識，技術，態度に基づいた看護実践の基礎的能力を養う。

【目標】

1. 老年期にある対象者の特徴を生活機能の観点から総合的に理解することができる。
2. 老年期にある対象者の健康課題を把握し，個々に応じた看護を実践する。
3. 保健医療福祉の連携の重要性について理解できる。
4. 対象者の個人史に触れ，老年観を養う。

【構成】

老年看護学	老年看護学実習	老年期の特徴の理解と入院治療を受ける高齢者への看護	2 単位	90 時間
-------	---------	---------------------------	------	-------

科目名	老年看護学実習						看護科		
学年	3 年	学期	通年	分野	専門	時間数	90 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	村田 大輔				科目 担当者	村田 大輔, 中村 春美			
科目 概要	老年期の身体的・精神的・社会的特徴をふまえ、健康を障害された入院生活を送る高齢者を理解し、専門的知識・技術・態度を統合して、対象の生活機能の傷害と程度を踏まえ対象のニーズに応じ、実践的に応用できる能力を養う。								
到達 目標	1. 加齢に伴う変化や健康障害を抱えながら入院している高齢者を理解することができる。 2. 対象の生活機能の障害と程度を踏まえ、対象のニーズに応じた看護を理解することができる。 3. 高齢者の退院後の生活を支えるための継続看護が理解できる。 4. 自己の高齢者観を深めることができる。								
	実習場所	授業内容						形態	担当教員
	学内 病棟	実 習 期 間：令和 8 年 5 月 11 日～11 月 6 日（10 日間） 実 習 時 間：8:30～15:45（実習時間 9 時間） 実 習 先：牟田病院, 別府病院, 諸岡整形外科病院 実 習 方 法：実習初日に実習オリエンテーションを実施する。その後, 学生 5～6 名を 1 グループとし, 9 日間の病棟実習にて入院患者を 1 名受け持つ（学内実習 1 日間を含む）。 実習の詳細：病棟実習では, 学生 1 名に対して高齢期にある患者を 1 名受け持ち, 機能回復・退院に向けて必要な看護を実践し, 実習記録に記載する。詳細は実習要項を参照する。						実習	村田 中村
評価方法									
評価指標	実習評価表	-	-	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)	100	-	-	-	-	-	-	100	
教科書	北川公子他 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 第 9 版 医学書院 ¥2,700+税 鳥羽研二他 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 第 5 版 医学書院 ¥2,300+税								
教材・参考図書	実習オリエンテーション時に適宜紹介する。								
オフィスアワー	実習オリエンテーション時に提示する。								
履修上の 注意点	学習した日常生活援助は、グループで演習計画を立て演習を行い、実習に臨む。 事前学習内容は、実習オリエンテーション時に提示する。								

小児看護学実習（2 単位 90 時間）

【目的】

小児期の特徴を理解し，健康児と健康を障害された小児および家族に対する看護実践能力を養う。

【目標】

1. 小児各期の成長発達を理解し，発達段階に応じた日常生活の基本的援助ができる。
2. 健康障害が小児とその家族に及ぼす影響を理解できる。
3. 小児と家族の健康問題を明確にし，解決に向けての援助を実施できる。
4. 小児を取り巻く保健医療チームの役割について理解を深められる。
5. 小児の安全管理における看護師の責任を自覚し，事故防止対策に努めることができる。
6. 子どもと子どもの健やかな育成への関心を深めることができる。

【構成】

小児看護学	小児看護学実習	健康な小児の発達過程と生活習慣の獲得過程の理解と健康を障害された小児の看護	2 単位	90 時間
-------	---------	---------------------------------------	------	-------

科目名	小児看護学実習					看護科			
学年	3 年	学期	通年	分野	専門	時間数	90 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	奥田 めぐみ			科目 担当者	奥田 めぐみ				
科目 概要	小児期にある対象の健康・健康障害を把握し、個々に応じた看護を実践する。保育所において健康な小児と接することにより、年齢に応じた発達を理解し、専門的な知識・技術・態度を統合して実践的に応用し、病院において健康障害を持つ小児の看護の実際を修得する。								
到達 目標	1. 小児の成長発達を理解し、発達段階に応じた適切な日常生活援助の方法を理解することができる。 2. 小児の発達段階や健康段階に応じた安全について考えることができる。 3. 小児にとっての家族、養育者との関係について考えることができる。								
	実習場所	授業内容					形態	担当教員	
	保育園 幼稚園	実 習 期 間：令和7年7月28日～9月6日（5日間） 実 習 時 間：8:30～15:45（実習時間9時間） 実 習 先：西新保育園，高取保育園，第2高取保育園 舞鶴幼稚園，早緑保育園 実 習 方 法：保育園実習前に実習オリエンテーション・現地オリエンテーションを行い，学生6～14名を1グループとし，5日間の実習を行う。 実習の詳細：学生1人が1人の園児を通し発達状況を確認し，年齢に応じた発達をグループメンバーの学びから理解する。詳細は実習要項を参照する。					実習	奥田	
	学内 病棟	実 習 期 間：令和8年5月11日～11月6日(5日間) 実 習 時 間：8:30～15:45（実習時間9時間） 実 習 先：福岡記念病院 実 習 方 法：学生4～5名を1グループとし，実習前に実習オリエンテーション・事例によるシミュレーション演習等を行い，5日間の病棟実習を行う(学内実習1日間有)。 実習の書齋：詳細は実習要項を参照する。					実習	奥田	
評価方法									
評価指標	実習評価表	-	-	-	-	-	-	合計	
評価割合(%)	100	-	-	-	-	-	-	100	
教科書	実習オリエンテーション時に提示する。								
教材・参考図書	実習オリエンテーション時に適宜紹介する。								
オフィスアワー	実習オリエンテーション時に提示する。								
履修上の 注意点	学習した日常生活援助は，グループで演習計画を立て演習を行い，実習に臨む。 事前学習内容は，実習オリエンテーション時に提示する。								

母性看護学実習（2 単位 60 時間）

【目的】

妊娠・分娩・産褥期における母性および新生児の身体的・心理的な特徴を理解するとともに、母性看護の基本的な実践能力を養う。女性のライフステージ各期の身体的、心理・社会的特徴と発達課題に応じた健康問題を理解する。

【目標】

1. 妊娠・分娩・産褥各期の経過を理解し、必要な援助ができる。
2. 新生児の生理的特性を理解し、必要な援助ができる。
3. 母性意識，母と子の絆，家族についての理解を深める。
4. 周産期における看護の役割について理解を深める。
5. 母子とその家族への援助，周産期医療チームや地域との関わりを通して自己の母性看護観を深める。
6. 女性のライフステージ各期の健康問題を理解し，必要な援助ができる。

【構成】

母性看護学	母性看護学実習	妊婦，産婦，褥婦の看護 新生児の看護 ハイリスクな状況にある母子への看護 ライフステージ各期にある女性への看護	2 単位	60 時間
-------	---------	--	------	-------

科目名	母性看護学実習							看護科	
学年	3 年	学期	通年	分野	専門	時間数	60 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	三ツ野 佐代子				科目 担当者	三ツ野 佐代子			
科目 概要	周産期における母性機能および新生児の身体的特性，心理的・社会的変化を理解するとともに，妊産褥婦・新生児とその家族を対象に次世代の健全な育成に向けて適切な専門的援助技術と態度を統合して母性看護に応用できる基本的な能力を修得する。								
到達 目標	1. 周産期における母性機能および新生児の身体的特性，心理的・社会的変化を理解する。 2. 妊産褥婦・新生児とその家族を対象に次代の健全な育成に向けての適切な援助技術と，母性看護の基本的な実践能力を養い，自己の母性観・父性観を高める。 3. 母性の保護と胎児期から始まる愛着形成への関わりに着目し，子育て世代包括支援センターとはじめとする母子保健施策がどのように展開されるのかを学ぶ。								
	実習場所		授業内容					形態	担当教員
	学内 病棟	学 内 実 習：実習開始前 2 日間 8:00～16:00(実習時間 10 時間) 実 習 方 法：実習オリエンテーション・事例によるシミュレーション演習を行う。 病 棟 実 習：令和 8 年 5 月 11 日～11 月 6 日（3 日間） 8:00～16:00（実習時間 10 時間） 実 習 先：医療法人ガーデンヒルズウィメンズクリニック 助産院 mamita 実 習 方 法：学生 3～4 名を 1 グループとし，3 日間の病棟実習を行う。 実習の詳細：実習要項を参照する。					実習	三ツ野	
	保健福祉 センター	実 習 期 間：令和 8 年 6 月 9 日～11 月 6 日（1 日間） 実 習 時 間：8:00～16:00（実習時間 10 時間） 実 習 先：福岡市早良区保健福祉センター 実 習 方 法：学生 5～6 名を 1 グループとし，聴講実習と事業参加を通して計 1 日間の病棟実習を行う。 実習の詳細：実習要項を参照する。					実習	三ツ野	
評価方法									
評価指標	実習評価	-	-	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)	100	-	-	-	-	-	-	100	
教科書	森恵美他 専門分野 母性看護学① 森恵美他 専門分野 母性看護学②	母性看護学① 母性看護学②	母性看護学概論 母性看護学各論	第 14 版 第 14 版	医学書院 医学書院	¥2,500＋税 ¥3,100＋税			
教材・参考図書	実習オリエンテーション時に適宜紹介する。								
オフィスアワー	実習オリエンテーション時に提示する。								
履修上の 注意点	学習した日常生活援助は，グループで演習計画を立て演習を行い，実習に臨む。 事前学習内容は，実習オリエンテーション時に提示する。								

精神看護学実習（3 単位 135 時間）

【目的】

精神障害のある対象者を理解し，必要な基礎知識・技術・態度を学び，看護の役割と方法を学習する。

【目標】

1. 精神に障害がある対象者を理解できる。
2. 精神に障害がある対象者の治療的環境とそれに伴う看護の役割が理解できる。
3. 看護の人権と安全を守る為に看護がどのように行われているか理解できる。
4. 精神に障害がある対象者の日常生活行動を観察し，必要な援助が理解できる。
5. 社会復帰活動における看護の役割を理解できる。
6. 精神に障害がある対象者との関わりを通して，自己の内面の変化に気づき自己洞察ができる。
7. 精神障害者の社会復帰に向けた看護の役割について考えることができる。
8. 地域社会保健福祉活動の連携と看護の役割を理解できる。

【構成】

精神看護学	精神看護学実習Ⅰ	病棟，地域で生活している対象者の看護	1 単位	45 時間
	精神看護学実習Ⅱ	精神科病棟に入院している対象者の看護	2 単位	90 時間

科目名	精神看護学実習 I							看護科	
学年	2 年	学期	後期	分野	専門	時間	45 時間	単位数	1 単位
評価 担当	南原 智子			担当教員	南原 智子, 大森 幸江				
科目 概要	発達段階の各期に起こりやすい精神保健上の問題について理解する。また、こころの健康と生活とのつながりについて、ライフサイクルや生活の場などの視点でこころに及ぼす影響を考える。精神保健に関する制度や法的根拠について学び、対象の人権の理解と尊重の重要性を理解する。								
到達 目標	1. 発達段階の各期に起こりやすい精神保健上の問題について理解できる。 2. 精神疾患を持つ対象者が抱える生活上の制約や生きにくさを考えることができる。 3. 精神保健に関する制度、法的根拠について理解できる。 4. 精神疾患を持つ対象者を取り巻く環境、家族について理解できる。								
	実習場所	授業内容						形態	担当教員
	学内 病棟	実習期間：令和 8 年 1 月 13 日～2 月 20 日(5 日間) 実習時間：9:00～16:30（実習時間 9 時間） 実習場所：のぞえの丘病院 デイケアセンター 訪問看護ステーション 就労支援センター 実習方法：学生 4～5 名を 1 グループとし、1～4 日目は各施設 の見学実習を行い、5 日目は学内にて検討会を実施 する。 実習の詳細：実習要項を参照する。						実習	南原 大森
評価方法									
評価指標	実習評価表	-	-	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)	100	-	-	-	-	-	-	100	
教科書	武井麻子他 系統看護学講座 専門分野 精神看護学① 精神看護の基礎 第 6 版 医学書院 ¥2,300+税 武井麻子他 系統看護学講座 専門分野 精神看護学② 精神看護の展開 第 6 版 医学書院 ¥2,300+税 末安民生他 系統看護学講座別巻 精神保健福祉 第 3 版 医学書院 ¥2,400+税								
教材・参考図書	実習オリエンテーション時に紹介する。								
オフィスアワー	実習オリエンテーション時に提示する。								
履修上の 注意点	・既習した全領域の学習が必要なため、自己にて学習を進めること。 ・事前学習内容は、実習オリエンテーション時に提示する。 ・身体的な援助も十分に考えるため、必要と考えられる物品は準備が必要。 ・自己での判断を勝手にせず、何事も看護学生である自覚をもって報告・連絡・相談を行うこと。								

科目名	精神看護学実習Ⅱ						看護科		
学年	3 年	学期	通年	分野	専門	時間数	90 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	南原 智子			科目 担当者	南原 智子				
科目 概要	精神の健康障害を持つ対象者のこれまでの生活を身体的、精神的、社会的な側面から捉え、人間理解をする。また、専門的な知識・技術・態度を統合し、対象者が参加している治療の目的を対象者の今後や希望から考える過程を通して、精神の健康障害を持つ対象への実践的に応用できる看護援助能力を修得する。								
到達 目標	1. 精神の健康障害を持つ対象者のこれまでの生活を発達段階（身体的・精神的・社会的）から理解することができる。 2. 対象者が抱える精神症状を理解し、治療的環境が持つ意味を理解できる。 3. 対象者が参加している治療に共に参加し、行われている治療の意味や目的を考えることができる。 4. 対象者との関わりの過程を通し精神の健康障害を持つ人への看護観を深めることができる。								
	実習場所	授業内容						形態	担当教員
	学内 病棟	実 習 期 間：令和 8 年 5 月 11 日～11 月 6 日（10 日間） 実 習 時 間：8:00～15:30（実習時間 9 時間） 実 習 先：のぞえ総合心療病院 虹と海のホテル 実 習 方 法：実習初日に実習オリエンテーション・事例によるシミュレーション演習を行い、1 病棟学生 3～7 名を 1 グループとし、9 日間の病棟実習を行う。 実習の詳細：実習要項を参照する。						実習	南原
評価方法									
評価指標	実習評価表	－	－	－	－	－	－	合計	
評価割合 (%)	100	－	－	－	－	－	－	100	
教科書	武井麻子他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学〔1〕精神看護の基礎 第 5 版 医学書院 ¥2,300+税 武井麻子他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学〔2〕精神看護の展開 第 5 版 医学書院 ¥2,300+税 末安民生他 系統看護学講座別巻 精神保健福祉 第 4 版 医学書院 ¥2,400+税								
教材・参考図書	実習オリエンテーション時に紹介する。								
オフィスアワー	実習オリエンテーション時に提示する。								
履修上の 注意点	既習した全領域の学習が必要なため、自己にて積極的に学習を行うことが必要となる。精神看護学実習では対象者に必要な身体的な看護も実践するため、必要な物品は確認し準備すること。判断に困った際は、臨床指導者・指導教員へ積極的に相談を行い、問題解決をすること。体調管理には十分に留意すること。								

統合実習（2 単位 90 時間）

【目的】

チーム医療及び他職種との協働の中で看護をマネジメントできる基礎的能力を修得する。

【目標】

1. チーム医療および他職種と協働しながら，看護の実際をマネジメントする。
2. 看護への探求心を高め自らの看護観を明らかにする。

【構成】

看護の統合と 実践	統合実習	それまでの臨地実習で得た知識・技術・ 態度を統合し，チームの一員として実践 に即した実習 看護管理実習	2 単位	90 時間
--------------	------	--	------	-------

科目名		統合実習					看護科		
学年	3 年	学期	通年	分野	統合	時間数	90 時間	単位数	2 単位
科目 責任者	大森 幸江				科目 担当者	大森 幸江, 平井 亨樹, 田中 初枝, 立岡 孝之 濱田 純香			
科目 概要	臨床実践に近い形で知識・技術を統合する必要がある。卒業後、臨床現場にスムーズに適応することができるよう、既習実習で学んだ内容をチーム医療及び他職種との協働の中で看護をマネジメントできる基礎的能力を修得する。								
到達 目標	1. 看護管理の実際を理解する。 2. 援助の優先順位の考え方と時間管理の必要性を理解する。 3. 患者の状況に応じた看護実践の実際を理解する。 4. 看護チームの一員であることを自覚し、自らの判断・行動に対する責任を養う。 5. 看護専門職者としての自己の課題を明確にし、自己研鑽する能力を養う。								
	実習場所	授業内容					形態	担当教員	
	一般病棟	実 習 期 間：令和 8 年 5 月 25 日～11 月 6 日（3 日間） 実 習 時 間：8:30～15:45（実習時間 9 時間） 実 習 先：福岡記念病院 実 習 方 法：学生 4～5 名を 1 グループとし、3 日間の実習を行う。 実習の詳細：受け持ち看護師と行動し、多重課題状況下における優先順位について理解する。詳細は実習要項を参照する。					実習	平井 田中初 立岡 濱田	
	緩和病棟	実 習 期 間：令和 8 年 7 月 6 日～11 月 6 日（5 日間） 実 習 時 間：8:15～15:30（9 時間） 実 習 先：西福岡病院, 牟田病院, 村上華林堂病院 実 習 方 法：学生 2～3 名を 1 グループとし、5 日間の実習を行う。 実習の詳細：緩和ケアの実際を学ぶ。また、多職種との協働・連携について理解する。詳細は実習要項を参照する。					実習	大森	
	シャドウイング	実 習 期 間：令和 8 年 6 月 1 日～11 月 6 日（3 日間） 実 習 時 間：8:30～15:45（実習時間 9 時間） 実 習 先：福岡記念病院 実 習 方 法：遅出・師長・リーダーへ各 1 日間のシャドウイング実習を行う。 実習の詳細：看護管理・病棟管理について理解し、自己の課題を明確にする。詳細は実習要項を参照する。					実習	平井 田中初 立岡 濱田	
評価方法									
評価指標	実習評価表	-	-	-	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	100	-	-	-	-	-	-	-	100
教科書	実習内容、受け持ち対象者に応じて必要なもの。								
教材・参考図書	適宜紹介する。								
オフィスアワー	担当教員へ適宜確認する。								
履修上の 注意点	一般病棟実習は健康状態別看護実習ⅠもしくはⅡの病棟で行う。病院での実習となるため、自己の健康管理に努めること。								